

農薬評価書

イミダクロプリド

2007年6月

食品安全委員会

## 目次

目次	- 1 -
<審議の経緯>	- 3 -
<食品安全委員会委員名簿>	- 3 -
<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>	- 3 -
要約	- 4 -
I. 評価対象農薬の概要	- 5 -
1. 用途	- 5 -
2. 有効成分の一般名	- 5 -
3. 化学名	- 5 -
4. 分子式	- 5 -
5. 分子量	- 5 -
6. 構造式	- 5 -
7. 開発の経緯	- 5 -
II. 毒性等に関する科学的知見	- 6 -
1. 動物体内運命試験	- 6 -
(1) 薬物動態 (ラット)	- 6 -
(2) 排泄	- 6 -
(3) 体内分布	- 6 -
(4) 代謝物同定・定量	- 7 -
(5) 肝臓及び腎臓中の経時的代謝物分布	- 7 -
(6) イミダクロプリド及び代謝物 M04 の薬物動態及び代謝に関する比較	- 7 -
(7) imi- <sup>14</sup> C-イミダクロプリドのラットにおける代謝	- 8 -
2. 植物体内運命試験	- 8 -
3. 土壌中運命試験	- 10 -
(1) 土壌中運命試験 (好氣的及び嫌氣的土壌)	- 10 -
(2) 土壌吸着試験	- 10 -
4. 水中運命試験	- 10 -
(1) 加水分解試験 (緩衝液)	- 10 -
(2) 水中光分解試験 (緩衝液及び自然水)	- 10 -
5. 土壌残留試験	- 11 -
6. 乳汁への移行試験	- 11 -
7. 作物残留試験	- 12 -
8. 後作物残留試験	- 12 -
9. 一般薬理試験	- 12 -
10. 急性毒性試験	- 13 -
(1) 急性毒性試験	- 13 -

(2) 急性神経毒性試験 .....	- 14 -
1 1. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験.....	- 15 -
1 2. 亜急性毒性試験 .....	- 15 -
(1) 90日間亜急性毒性試験(ラット) .....	- 15 -
(2) 90日間亜急性毒性試験(イヌ) .....	- 15 -
(3) 90日間亜急性神経毒性試験(ラット) .....	- 15 -
(4) 21日間反復経皮毒性試験(ウサギ) .....	- 16 -
(5) 28日間反復吸入毒性試験(ラット) .....	- 16 -
1 3. 慢性毒性試験及び発がん性試験.....	- 16 -
(1) 1年間慢性毒性試験(イヌ) .....	- 16 -
(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット) .....	- 16 -
(3) 2年間発がん性試験(マウス) .....	- 17 -
1 4. 生殖発生毒性試験 .....	- 17 -
(1) 2世代繁殖試験(ラット) .....	- 17 -
(2) 発生毒性試験(ラット) .....	- 17 -
(3) 発生毒性試験(ウサギ) .....	- 17 -
1 5. 遺伝毒性試験 .....	- 18 -
Ⅲ. 総合評価.....	- 20 -
<別紙1:代謝物/分解物略称>.....	- 23 -
<別紙2:検査値等略称>.....	- 24 -
<別紙3:作物残留試験成績>.....	- 25 -
<参照> .....	- 36 -

<審議の経緯>

- 1992年 11月 4日 初回農薬登録  
 2005年 11月 29日 残留農薬基準告示(参照1)  
 2006年 3月 17日 農林水産省より厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び  
 基準設定依頼(適用拡大:稲)  
 2006年 9月 4日 厚生労働大臣より残留基準設定(暫定基準)に係る食品健康  
 影響評価について要請(厚生労働省発食安第0904005号)、  
 同接受(参照5)  
 2006年 9月 7日 食品安全委員会第158回会合(要請事項説明)(参照6)  
 2007年 2月 16日 農薬専門調査会確認評価第一部会第4回会合(参照7)  
 2007年 2月 23日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価に  
 ついて要請(厚生労働省発食安第0223003号)(参照8)  
 2007年 2月 27日 同接受  
 2007年 3月 8日 食品安全委員会第181回会合(要請事項説明)  
 2007年 3月 14日 農薬専門調査会幹事会第13回会合(参照9)  
 2007年 4月 26日 食品安全委員会第188回会合(報告)  
 2007年 4月 26日 より5月25日 国民からの意見・情報の募集  
 2007年 6月 12日 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長へ報告  
 2007年 6月 14日 食品安全委員会第194回会合(報告)  
 (同日付け厚生労働大臣に通知)

<食品安全委員会委員名簿>

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| (2006年12月20日まで) | (2006年12月21日から) |
| 寺田雅昭(委員長)       | 見上 彪(委員長)       |
| 見上 彪(委員長代理)     | 小泉直子(委員長代理*)    |
| 小泉直子            | 長尾 拓            |
| 長尾 拓            | 野村一正            |
| 野村一正            | 畑江敬子            |
| 畑江敬子            | 廣瀬雅雄**          |
| 本間清一            | 本間清一            |
- \*: 2007年2月1日から  
 \*\*: 2007年4月1日から

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

- |             |      |         |
|-------------|------|---------|
| 鈴木勝士(座長)    | 小林裕子 | 西川秋佳*** |
| 廣瀬雅雄(座長代理)* | 三枝順三 | 布柴達男    |
| 林 真(座長代理)** | 佐々木有 | 根岸友恵    |
| 赤池昭紀        | 高木篤也 | 平塚 明    |
| 石井康雄        | 玉井郁巳 | 藤本成明    |
| 泉 啓介        | 田村廣人 | 細川正清    |
| 上路雅子        | 津田修治 | 松本清司    |
| 臼井健二        | 津田洋幸 | 柳井徳磨    |
| 江馬 眞        | 出川雅邦 | 山崎浩史    |
| 大澤貫寿        | 長尾哲二 | 山手丈至    |
| 太田敏博        | 中澤憲一 | 與語靖洋    |
| 大谷 浩        | 納屋聖人 | 吉田 緑    |
| 小澤正吾        | 成瀬一郎 | 若栗 忍    |
- \* : 2007年3月31日まで      \*\* : 2007年4月11日から      \*\*\* : 2007年4月25日から

## 要 約

クロロニコチル系殺虫剤である「イミダクロプリド」(IUPAC: 1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-*N*-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン) について、各種評価書等(農薬抄録、JMPR レポート及び米国 EPA Federal Register) を用いて食品健康影響評価を実施した。

評価書等における試験成績は、動物体内運命(ラット)、植物体内運命(稲、なす、トマト、りんご、ばれいしょ、とうもろこし、棉及びたばこ)、土壌中運命、水中運命、土壌残留、作物残留、急性毒性(ラット及びマウス)、亜急性毒性(ラット、イヌ及びウサギ)、慢性毒性(イヌ)、慢性毒性/発がん性併合(ラット)、発がん性(マウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性試験等である。

試験結果から、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各試験の無毒性量の最小値は、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の5.7mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した0.057mg/kg 体重/日を一日摂取許容量(ADI)とした。

## I. 評価対象農薬の概要

### 1. 用途

殺虫剤

### 2. 有効成分の一般名

和名：イミダクロプリド

英名：imidacloprid (ISO名)

### 3. 化学名

IUPAC

和名：1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン

英名：1-(6-chloro-3-pyridylmethyl)-N-nitroimidazolidin-2-ylideneamine

CAS (No.138261-41-3、旧登録番号：105827-78-9 も参照可能)

和名：1-[(6-クロロ-3-ピリジニル)メチル]-N-ニトロ-2-イミダゾリジンイミン

英名：1-[(6-chloro-3-pyridinyl)methyl]-N-nitro-2-imidazolidinimine

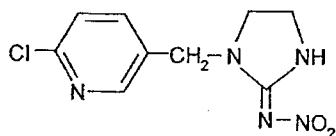
### 4. 分子式

$C_9H_{10}ClN_5O_2$

### 5. 分子量

255.7

### 6. 構造式



### 7. 開発の経緯

イミダクロプリドは、1985年に日本特殊農薬製造株式会社（現：バイエルクロップサイエンス株式会社）により開発されたクロロニコチル系殺虫剤であり、作用機構はニコチン性アセチルコリン受容体に対するアゴニスト作用である。2005年10月現在、116カ国または地域で農薬登録されており、穀類の種子粉衣剤（主としてアブラムシを対象）の他、フロアブル製剤等の散布剤としても使用されている。

日本では1992年に初めて農薬登録され、また、バイエルクロップサイエンス株式会社より農薬取締法に基づく登録申請（適用拡大：稲）がなされている。また、ポジティブリスト制度導入に伴う残留基準が設定されている。

## II. 毒性等に関する科学的知見

農薬抄録(2006年)、JMPR レポート(2001年)及び米国 EPA Federal Register (2003年)を基に、毒性に関する主な科学的知見を整理した。(参照 2~4)

各種運命試験(II-1~4)は、イミダクロプリドのメチレン基の炭素を $^{14}\text{C}$ で標識したもの(met- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリド)、イミダゾリジン環の炭素を $^{14}\text{C}$ で標識したもの(imi- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリド)及び代謝物M04のメチレン基の炭素を $^{14}\text{C}$ で標識したもの(met- $^{14}\text{C}$ -M04)を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は特に断りがない場合はイミダクロプリドに換算した。代謝物/分解物略称及び検査値等略称は別紙1及び2に示されている。

### 1. 動物体内運命試験

#### (1) 薬物動態(ラット)

Wistar ラット(一群雌雄各5匹)に met- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを1及び20mg/kg 体重単回経口投与し、薬物動態試験が実施された。

投与後、雌雄ともに放射能のほぼ全てが吸収された。血漿中の  $T_{\max}$  は雄で 1.46~2.43 時間、雌で 1.11~2.05 時間であった。血漿中の放射能消失は二相性を示し、第一相の  $T_{1/2}$  は雄で 2.59~3.26 時間、雌で 3.23~3.59 時間、第二相の  $T_{1/2}$  は雄で 25.8~118 時間、雌で 28.6~72.6 時間であった。(参照 2、3)

#### (2) 排泄

Wistar ラット(一群雌雄各5匹)に met- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを1mg/kg 体重(単回経口、反復経口及び単回静脈内)投与及び20mg/kg 体重単回経口投与し、排泄試験が実施された。

全ての投与群において、雌雄とも投与後48時間以内に総処理放射能(TAR)の90%以上が尿及び糞中に排泄され、主な排泄は尿中であった。腎尿排泄は速やかであり、尿排泄放射能の約90%が24時間以内に回収された。排泄パターンに、反復投与の影響及び性差は認められなかった。

また、胆管カニューレを施した Wistar ラット(一群雄5匹)に met- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを1mg/kg 体重単回十二指腸内投与し、胆汁排泄試験が実施された。その結果、糞中に4.7%TAR、尿中に56%TAR、胆汁中に36%TARが排泄された。本試験で腎尿排泄放射能が低下したことは、放射能の腸肝循環に起因すると考えられた。(参照 2、3)

#### (3) 体内分布

Wistar ラット(一群雌雄各5匹)に met- $^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを1mg/kg 体重(単回経口、反復経口及び単回静脈内)投与及び20mg/kg 体重単回経口投与し、48時間後に解剖して臓器・組織中の放射能を測定した。

臓器・組織内への分布は、胃腸管を除く動物体における放射能はいずれも低かった(48時間後には1%TAR未満)が、肝臓、腎臓、肺、皮膚及び血漿で比較的高かった。また、別の Wistar ラット(一群雄5匹)に20mg/kg 体重を単回経口投与し、経時的な臓器・

組織内分布を検討した結果、大部分の臓器・組織内において最初の測定時点 (0.67 時間) で最高値が認められ、臓器・組織中の放射能はいずれの臓器においても同様の速度で消失した。試験期間中を通じて、脂肪及び中枢神経系への分布は非常に少なかった。(参照 2、3)

#### (4) 代謝物同定・定量

Wistar ラット (一群雌雄各 5 匹) に met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリドを 1mg/kg 体重 (単回経口、反復経口及び単回静脈内) 投与及び 20mg/kg 体重単回経口投与し、投与 0~24 時間後に採取した尿及び糞試料を用いて、代謝物同定・定量試験が実施された。

尿からは親化合物 (総回収放射能の 8.92~15.4%) の他に、主要代謝物として M10 (同 16.6~28.1%)、M02 (同 14.8~18.2%)、M03 (同 8.07~13.2%)、M06 (同 3.22~8.15%) 及び M12 (同 2.32~5.70%) が認められた。糞からは親化合物 (同 0.53~2.22%) の他、M01、M03、M12 が認められたが、いずれも総回収放射能の 0.58~3.36% の範囲であった。M06 及び M10 は尿のみ、M01 は糞のみで認められた。

投与方法及び回数、性別に関わらず、二種類の主要代謝経路が考えられた。第一の経路では、親骨格の酸化開裂により M06 が生成し、M06 の大部分がグリシン抱合を受ける一方、一部はピリジン環の脱塩素により置換を受けた。第二の経路では、イミダゾリジン環 4 位または 5 位の水酸化 (M02 の生成)、及びその後の脱水反応 (M03 の生成) を受け、M06 へと代謝された。

また、1mg/kg 体重投与の各群では、認められた代謝物パターンに質及び量的な性差はほぼ認められなかったが、20mg/kg 体重投与群では、雌と比較して雄では親化合物の量が低く、M03 の量が増加し、雄での代謝能力が高い傾向が示された。他の代謝物では、雌雄で性差は認められなかった。(参照 2、3)

#### (5) 肝臓及び腎臓中の経時的代謝物分布

Wistar ラット (一群雄 20 匹) に met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリドを 20mg/kg 体重単回経口投与し、代謝物の同定及び経時的分布を検討した。

腎からは親化合物、M02、M03、M06 及び M10 が同定された。そのうち親化合物、M06 及び M10 は経時的に減少し、M02 及び M03 は増加した。肝からは M01、M05、M06 及び M17 が同定された。M01 は腎及び尿中に認められていないため、更に代謝を受けると考えられた。また M17 も肝以外で認められておらず、腎または胆汁へと排泄される前に代謝されると考えられた。(参照 2、3)

#### (6) イミダクロプリド及び代謝物 M04 の薬物動態及び代謝に関する比較

met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリド及び met-<sup>14</sup>C-M04 を、それぞれ別個の雄 Wistar ラットに 1mg/kg 体重単回経口投与し、薬物動態及び代謝パターンを比較した。

親化合物及び M04 の薬物動態は類似しており、いずれも二相性の消失パターンを示した。親化合物及び M04 の T<sub>max</sub> はそれぞれ 1.16 及び 0.77 時間、第一相の T<sub>1/2</sub> はそれぞれ 0.36 及び 0.29 時間、第二相の T<sub>1/2</sub> はそれぞれ 35.7 及び 46.9 時間であった。排泄パターンも類似しており、処理放射能の体外への排泄は 48 時間以内にほぼ完了し、両化合



物とも約 75% TAR 前後が尿中に排泄された。M04 投与による臓器・組織内分布は親化合物の分布パターンと比較して腎脂肪への分布が高く、この理由は M04 の脂質親和性が高いためと考えられた。

同定された代謝物は、親化合物投与後の尿中では親化合物の他に M03、M06、M10、及び M02 であった。M04 投与後の尿中では未変化の M04 が大部分であり、少量の代謝物として M01 が尿及び糞中に認められた。

また、雄 Wistar ラットに  $\text{met-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを単回経口 (150mg/kg 体重) 及び反復経口 (非標識体 1800ppm、一年間混餌投与の後、標識体 80mg/kg 体重単回経口) 投与し、高用量及び長期間投与により M04 が生成するか否かを検討した。その結果、高用量単回投与では極微量の M04 が確認されたのに対し、長期間投与の尿中には多量の M04 が認められた。これらの知見から、M04 は主に親化合物の長期間投与時の代謝物であることが示唆された。このことを確認するため、非標識体を 1 年間混餌投与したマウス及びラットの尿を用いて直接同位体希釈分析を行った結果、いずれの尿中にも M04 の存在が確認された。(参照 2、3)

#### (7) $\text{imi-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドのラットにおける代謝

Wistar ラットに  $\text{imi-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを 1mg/kg 体重 (一群雌雄各 5 匹) 及び 150mg/kg 体重 (一群雄 5 匹) 単回経口投与する薬物動態試験が実施された。

その結果、放射能のほぼ全て (95% TAR 以上) が吸収された。1mg/kg 体重投与群における  $T_{\max}$  は 1.00 (雄) 及び 1.50 (雌) 時間、 $T_{1/2}$  は 24.9 (雄) 及び 21.3 (雌) 時間であった。150mg/kg 体重投与群における  $T_{\max}$  は 4.00 時間、 $T_{1/2}$  は 9.04 時間であった。投与 48 時間後までに大部分が体外に排泄され、88.2~93.8% TAR が尿中、6.30~11.2% TAR が糞中から回収された。投与 48 時間後における各臓器・組織内濃度はいずれも低く、血漿より高かったのは肝、腎、脂肪組織 (雄のみ)、肺及び皮膚のみであった。主要代謝物は、尿から同定された M22 であり、19.1~34.7% TRR (TRR: 総残留放射能) を占めた。他に M21 (8.0~18.4% TRR)、M02 (13.7~14.7% TRR)、M03 (7.7~9.1% TRR) 及び親化合物 (6.9~16.5% TRR) が同定された。 $\text{met-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリド投与における尿中代謝物との差は、 $\text{imi-}^{14}\text{C}$ -標識部位に由来すると考えられた。(参照 2、3)

## 2. 植物体内運命試験

$\text{met-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを用い、稲、なす、トマト、りんご、ばれいしょ、とうもろこし、棉及びたばこにおける植物体内運命試験が実施された。

箱施用の稲 (品種: コシヒカリ) に  $\text{met-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを 0.32~1.26 kg ai/ha の用量で土壌処理した結果、稲体には 4.02~6.95% TAR が移行した。収穫期 (処理後 124 日) における地上部放射能の大部分 (約 98%) は稲わらに存在し、玄米中の放射能は極少量 (0.03% TAR) であった。主要化合物は、玄米では未変化の親化合物 (11.9~13.6% TRR) のみであり、稲わらでは M01 (33.5~45.5% TRR) 及び M05 (1.0~12.1% TRR) であった。

また、 $\text{met-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを 0.5 kg ai/ha の用量で稲栽培ポットに水面施用した結果、収穫時 (処理後 79 日) の放射能の 80% TAR は土壌から回収され、玄米及び稲わらに移行した放射能はそれぞれ 0.05% TAR (0.036 mg/kg) 及び 3.96% TAR (1.47 mg/kg) であっ

た。主要化合物は、玄米では未変化の親化合物(6.3%TRR、0.002 mg/kg)のみであり、稲わらではM01(25.6%TRR、0.310 mg/kg)及び親化合物(11.5%TRR、0.168 mg/kg)であった。

なす(品種:千両2号)に $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを0.02 g ai/株の用量で植穴処理した結果、処理放射能のなす地上部への移行は限定されており(1.64~2.72%TRR)、地上部における総残留放射能の約90%が葉に分布していた。主要化合物は、果実では親化合物(18.9%TRR)及び代謝物M01(14.0%TRR)であり、茎葉では親化合物(8.76~32.6%TRR)及び代謝物M01(21.4~33.9%TRR)であった。

トマト(品種不明)及びりんご(品種:ゴールデンデリシャス)の果実に $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを塗布した結果、果実中の主要化合物は親化合物のみであり、10%TRR以上生成した代謝物は認められなかった。また、葉に塗布した $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドの果実への移行性を調べた結果、移行量は無視しうる量であった。

ばれいしょ(品種不明)を用いて、 $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドの土壌混和处理(処理濃度:0.05 g ai/m<sup>2</sup>畝)又は散布処理(同134 g ai/ha)を行った。土壌混和处理における主要化合物は、塊茎中では親化合物(48.3%TRR、0.044 mg/kg)及びM01(11.3%TRR、0.010 mg/kg)であり、茎葉中では親化合物(26.7%TRR、1.53 mg/kg)であった。散布処理を行った場合、塊茎の総残留放射能は極少量(0.009mg/kg)であり、そのうち親化合物が11.1%TRR(約0.001mg/kg)、M06が33.3%TRR(0.003mg/kg)検出された。茎葉では、親化合物(37.9~71.8%TRR)及びM01(4.1~12.6%TRR)が主要化合物と考えられた。茎葉における親化合物は経時的に減少し、一方、M01は経時的に増加した。

とうもろこし(品種:Mutin D)に $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを7.21 g ai/kg 種子の処理量で種子粉衣処理を行った結果、人畜可食部である乾燥子実及びかいば用植物体では親化合物が最も多かった(各TRRの約27%)。乾燥子実では、親化合物に次いでM03(14.1%TRR)が主要代謝物であり、またM02が9.3%TRR認められた。かいば用植物体では、親化合物に次いでM01(13.2%TRR)が主要代謝物であった。

棉(品種:Coker 310)に $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを4.6 g ai/kg 種子の処理量で種子粉衣処理を行った結果、種子中の放射能残留量は極少量(<0.005mg/kg)であった。種子中にはM06が23.3%TRR認められた。葉においては、M18(11.3%TRR)が主要代謝物であった。

たばこ(品種:Virginia)に $met\text{-}^{14}\text{C}$ -イミダクロプリドを28.4 mg ai/植物の処理量で土壌灌注処理及び散布処理を行った結果、葉における主要化合物は親化合物(77.7%TRR)であり、10%TRR以上生成した代謝物は認められなかった。

以上の植物体内運命試験において認められた代謝物パターンから、イミダクロプリドの植物代謝経路は、ニトロ基の還元又は脱離、イミダゾリジン環(4位又は5位)の水酸化及びその後の脱水反応、及びクロロピコリルアルコールへの代謝及び抱合体の生成であると推定された。また供試植物間に、代謝物の質的パターンの差は認められなかった。(参照2)

### 3. 土壌中運命試験

#### (1) 土壌中運命試験（好氣的及び嫌氣的土壌）

met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリドを用いた土壌中運命試験が実施された。

沖積軽埴土（高知）及び火山灰軽埴土（茨城）を用いた好氣的湛水土壌中運命試験の結果、両土壌とも処理 27 週後での土壌中放射能は 97~99% TAR を占め、主要分解物は M01 であり、最高値は 19.8% TAR 及び 6.1% TAR であった（ともに 15 週後）。未抽出残留の経時的な増加が認められ、過酷抽出することで、親化合物及び M01 の遊離が認められた。過酷抽出後の結合残留を分析したところ、フミン画分に比較的多くの放射能が取り込まれていることが示された。半減期は 53 日及び 69 日と算出された。

壤質砂土（ドイツ、Hanhofen）を用いた好氣的土壌中運命試験の結果、処理 100 日後に土壌から抽出された放射能は 68.6% TAR であった。好氣的土壌中運命試験では二酸化炭素の生成が認められ、処理 100 日後には 9.95% TAR 生成した。土壌から抽出される放射能の大部分は親化合物であり、処理 100 日後には 63.3% TAR 抽出された。また抽出後の結合残留について還流抽出を行い、7.4% TAR の親化合物の遊離が認められた。分解物は M01、M03、M04、M05、M07 及び M13 が認められたが、その生成量はいずれも 10% TAR 以下であった。半減期は 163~213 日と算出された。

シルト質壤土（米国、カンザス市）を用いた嫌氣的土壌中運命試験の結果、試験系全体（水層及び土壌）において親化合物は経時的に分解され、処理 358 日後には 0.1% TAR 以下となった。主要分解物として M01 が認められた。半減期は 27 日と算出された。（参照 2）

#### (2) 土壌吸着試験

イミダクロプリドの土壌吸着試験が 4 種類の国内土壌（軽埴土：石川及び茨城、埴質壤土：福島、微砂質埴壤土：茨城）を用いて実施された。

Freundlich の吸着等温式による吸着係数は  $K_{rads}=1.89\sim 8.33$  であった。（参照 2）

### 4. 水中運命試験

#### (1) 加水分解試験（緩衝液）

met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリドを用い、pH5（酢酸緩衝液）、pH7（トリス緩衝液）及び pH9（ホウ酸緩衝液）の各緩衝液における加水分解試験が実施された。

pH 5 及び 7 において、親化合物の分解及び加水分解物の生成は認められなかった。一方、pH 9 では、親化合物は微量分解し、未知分解物 1 と分解物 M05 が生成した。30 日間のインキュベーション後に親化合物は 93.0% TAR となった一方、未知分解物 1 は 5.3% TAR、M05 は 1.7% TAR となった。

pH9 における半減期は 355 日と算出された。pH 5 及び 7 における半減期は 1 年以上と考えられた。（参照 2）

#### (2) 水中光分解試験（緩衝液及び自然水）

met-<sup>14</sup>C-イミダクロプリドを用い、pH7 のリン酸緩衝液及び自然水（ドイツ、Anglerweiher 池）にキセノンランプ光（緩衝液：88~98 W/m<sup>2</sup>、測定波長 310~400nm、

自然水：643 W/m<sup>2</sup>、測定波長 300~800 nm) を連続照射し、水中光分解試験が実施された。

pH7 の緩衝液中では、親化合物は速やかに分解し、照射開始 120 分後には 28.7% TAR となった。主要分解物は M01 及び M05 であり、生成量はいずれも経時的に増加し、照射開始 120 分後にはそれぞれ 17.2% 及び 9.85% TAR となった。試験水中濃度に基づく推定半減期は 57.9 分と算出された。これは、北緯 35 度 (4~6 月) における半減期に換算すると 0.45~0.51 日 (10.9~12.1 時間) と計算された。

自然水中では、親化合物は試験期間を通じて継続的に分解し、照射 24.2 時間後には 14.1% TAR であった。主要分解物は M05 及び M16 であり、生成量は経時的に増加し、照射 24.2 時間後にはそれぞれ 13.8% 及び 9.90% TAR であった。他に M01 及び M06 が認められたが、生成量はいずれも 10% TAR 以下であった。15 種の比較的少量の成分から構成される高極性分解物が照射 24.2 時間後に 52.4% TAR 認められ、これらのうち、最大量で検出された成分は 8.7% TAR に相当した。半減期は 9.12 時間、東京 (北緯 35 度) の 4~6 月における半減期に換算すると約 2.4 日と算出された。(参照 2)

## 5. 土壌残留試験

火山灰壌土、沖積埴壌土及び沖積砂土を用いて、イミダクロプリドを分析対象化合物とした土壌残留試験 (圃場及び容器内) が実施された。推定半減期は表 1 に示されている。参考として、分解物 M01 及び M04 の分析が実施された。最高値は容器内試験 (水田状態、沖積埴壌土) の 150 日後における M01 (0.09 mg/kg) であったが、ほとんどが検出限界以下 (<0.02 mg/kg) であり、半減期は求められなかった。(参照 2)

表 1 土壌残留試験成績

試験		濃度 <sup>1)</sup>	土壌	推定半減期 (イミダクロプリド)
圃場試験	水田状態	320 g ai/ha(1回)及び 300 g ai/ha(2回)	火山灰壌土	70 日
			沖積埴壌土	1 日
	畑地状態	600 g ai/ha	火山灰壌土	70 日
			沖積砂土	95 日
容器内試験	水田状態	0.5 mg/kg	火山灰壌土	60 日
			沖積埴壌土	34 日
	畑地状態	1.0 mg/kg	火山灰壌土	218 日
			沖積砂土	195 日

1) 圃場試験で 1% 粒剤、容器内試験で原体を使用

## 6. 乳汁への移行試験

一群 3 匹の乳牛 (品種不明) にイミダクロプリド (0、5、15 及び 50mg/kg 体重/日) をゼラチンカプセルに充填して 28 日間連続経口投与し、6-クロロピリジル基を有する代謝物を測定する乳汁移行試験が実施された。

採取した牛乳試料における濃度は、0 及び 5mg/kg 体重/日投与群ではいずれの時点でも

<0.02mg/kgであった。15及び50mg/kg体重/日投与群では、それぞれ0.028~0.041mg/kg及び0.101~0.154mg/kgが検出された。(参照2)

### 7. 作物残留試験

イミダクロプリド、代謝物 M01、M04 及び M06 を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。結果は別紙3に示されている。(参照2)

### 8. 後作物残留試験

レタス、小麦、きゅうり、トマト、はくさい及びだいこんを用いて、イミダクロプリド、代謝物 M01 及び M04 を分析対象化合物とした後作物残留試験（前作物：水稻及びだいこん）が実施された。その結果、全ての作物において、いずれの化合物も検出限界未満(<0.005 mg/kg または <0.01mg/kg)であった。(参照2)

### 9. 一般薬理試験

ラット、マウス及びウサギを用いた一般薬理試験が実施された。結果は表2に示されている。(参照2)

表2 一般薬理試験概要

試験の種類	動物種	動物数/群	投与量 (mg/kg 体重) 投与経路	無作用量 (mg/kg 体重)	作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中枢神経系	一般状態 (Irwin 法)	マウス 雄 3 雌 3	0, 10, 30, 100 経口	10	30	警戒性・運動性の低下、運動失調、散瞳傾向、100mg/kg 体重で死亡例
	一般状態 (Irwin 法)	ウサギ 雄 3	0, 10, 30, 100 経口	10	30	行動性の軽微な抑制、瞳孔反射の抑制、呼吸数増大、散瞳、頻脈、100mg/kg 体重で死亡例
	体温	ウサギ 雄 3	0, 10, 30, 100 経口	30	100	軽微な体温下降
呼吸・循環系	呼吸数・心拍数	ウサギ 雄 3	0, 10, 30, 100 経口	10	30	呼吸数の増加後、減少 心拍数増加
	呼吸・血圧・心拍数 (麻酔下)	ウサギ 雄 4~5	0, 1, 3, 10, 30 静脈内	3	10	呼吸の一過性の亢進、血圧 低下、心拍数減少 30mg/kg 体重で死亡、死亡 例は呼吸の一過性の亢進 後、抑制、呼吸停止
自律神経系	瞳孔径	ウサギ 雄 3	0, 10, 30, 100 経口	10	30	散大
	瞳孔径	ラット 雄 5	0, 10, 30, 100 経口	30	100	散大
体性神経系	腓腹筋収縮	ラット 雄 3~4	0, 30, 100, 300 経口	300	—	影響なし
	筋弛緩作用	ラット 雄 5	0, 30, 100, 300 経口	100	300	落下限界角度の軽度な減少

消化器系	腸管運動 (麻酔下)	ウサギ	雄 4~5	0, 1, 3, 10, 30 静脈内	1	3	腸管運動抑制
	炭末輸送能	ラット	雄 5	0, 10, 30, 100 経口	30	100	炭末輸送率の低下
	胃液分泌	ラット	雄 5	0, 10, 30, 100 経口	10	30	総酸度の低下、pH 値の上昇、胃酸分泌抑制
腎機能	尿量・ 尿中電解質・ 定性分析	ラット	雄 5	0, 30, 100, 300 経口	30	100	尿量の減少、 電解質の変動
血液系	溶血作用	ウサギ	雄 5	10 <sup>-5</sup> ~10 <sup>-3</sup> M ( <i>in vitro</i> )	10 <sup>-3</sup> M	—	影響なし
	血液凝固作用	ラット	雄 5	0, 10, 30, 100 経口	10	30	PT 影響なし、APTT の軽度な延長(10 秒以内)

## 10. 急性毒性試験

### (1) 急性毒性試験

イミダクロプリド及び代謝物を用いた急性毒性試験が実施された。結果は表 3 及び 4 に示されている。(参照 2、3)

表 3 急性毒性試験結果概要 (原体)

投与経路	動物種 性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		症状	
		雄	雌		
経口	SD ラット 雌雄各 10 匹	440	410	全投与群に鎮静あるいは振戦、重篤例ではさらに呼吸異常及び痙攣 >360 mg/kg 体重で死亡	
経口	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	424	450~475	無関心、一過性の努力呼吸及び頻呼吸、運動性の低下、一過性のよろめき歩行、陰裂縮小、一過性の振戦及び痙攣、途中死亡例に脾の退色化、肝及び肺の暗色化 >400 mg/kg 体重で死亡	
経口	ICR マウス 雌雄各 10 匹	100	98	全投与群で鎮静、振戦及び呼吸異常、重篤例ではさらに痙攣から死亡、その他挙尾、ヒヨコ様鳴声 雄>60 mg/kg 体重、雌>78 mg/kg 体重で死亡	
経口	NMRI マウス 雌雄各 5 匹	131	168	無関心、一過性の努力呼吸及びよろめき歩行、運動性の低下、一過性の振戦及び痙攣、死亡例に肝、脾及び肺の退色化または暗色化 雄>100 mg/kg 体重、雌>120 mg/kg 体重で死亡	
経皮	SD ラット 雌雄各 10 匹	>2000	>2000	症状なし	
経皮	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	>5000	>5000	症状なし	
腹腔内	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	171	186	無関心、努力呼吸、頻呼吸、痙攣、周期的な振戦及び攣縮、死亡例に肺の斑点、脾の退色、腹腔内赤色液貯留 雄>170 mg/kg 体重、雌>150 mg/kg 体重で死亡	
吸入	Wistar ラット 雌雄各 5 匹 (4 時間暴露)	粉体	LC <sub>50</sub> (mg/L)		呼吸困難、活動性の低下、立毛及び軽微な振戦
			>5.32	>5.32	
	エアロゾル	>0.069	>0.069	症状なし	

	Wistar ラット 雌雄各 10 匹 (6 時間/日×5 日)	粉体	>0.505	>0.505	症状なし
--	--	----	--------	--------	------

表 4 急性毒性試験結果概要 (代謝物)

検体	投与経路	動物種 性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		症状
			雄	雌	
代謝物 M01	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	300	280	鎮静、眼瞼下垂、呼吸異常、ふるえ、皮膚温低下、痙攣及び紅涙、生存例に肺の赤褐色及び灰白色斑、死亡例に肺の赤褐色斑及び胃・小腸粘膜の赤色調 >240 mg/kg 体重で死亡
代謝物 M03	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	3500	1100	全投与群で散瞳、ふるえ、呼吸異常、流涙、紅涙、削瘦、歩行不能、血尿及び立毛、死亡例に肺の暗赤褐色～赤褐色変化、膀胱の膀胱内小塊及び赤色液の貯留、脾臓の萎縮及び褪色、消化管の暗赤色斑等 雄>2200 mg/kg 体重、雌>1100 mg/kg 体重で死亡
代謝物 M04	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	1980	3560	散瞳、ふるえ、鎮静、眼球突出、呼吸異常及び糞量減少、死亡例に肺の赤褐色斑及び胃の肥厚 雄>1560 mg/kg 体重、雌>2500 mg/kg 体重で死亡
		ICR マウス 雌雄各 5 匹	200	200	
代謝物 M05	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	4080	1820	全投与群に散瞳、歩行異常、鎮静、呼吸異常、歩行不能、流涎、振戦及び鼻出血、死亡例に肺の暗赤褐色調～赤色肝変化、気管粘膜貯留 雄>3330 mg/kg 体重、雌>1480 mg/kg 体重で死亡
代謝物 M06	経口	ラット 雌雄各 5 匹	>5000	>5000	全投与群に鎮静、呼吸異常とそれに伴う喘鳴及び失禁、ヒヨコ様鳴声、生存例に肺の赤褐色斑(または赤褐色域)、死亡例に胃粘膜の暗赤褐色巣 雌の 5000 mg/kg 体重で 1 例死亡
代謝物 M18	経口	ラット 雌雄各 5 匹	3800	3700	全投与群に鎮静、よろめき歩行及び呼吸異常、重篤例ではさらに麻酔状態及び流涙、死亡例に胃粘膜の赤色調変化、肺気腫及び気管内貯留物 雄>3800 mg/kg 体重、雌>3000 mg/kg 体重で死亡

## (2) 急性神経毒性試験

SD ラット (一群雌雄各 18 匹) を用いた強制単回経口 [20(雌のみ、一群 12 匹)、50、150 及び 350 mg/kg 体重] 投与による急性神経毒性試験が実施された。

その結果、150 mg/kg 体重以上投与群雄及び 350 mg/kg 体重投与群雌で、死亡、反応性の増加、歩行失調、活動性の低下及び機能観察検査 (FOB) において多数の影響が認められた。また運動能の低下が、150 mg/kg 体重以上投与群雄及び 50 mg/kg 体重以上投与群雌で認められた。無毒性量は、一般毒性及び神経毒性ともに雄 50 mg/kg 体重、雌 20 mg/kg 体重であると判断された。

なお、これらの症状は生存動物では投与後 7 日以内に完全に回復し、病理組織学的検査において骨格筋及び神経組織に影響は認められなかったことから、全ての臨床症状及び神経行動学的影響は本検体のニコチン性アセチルコリン受容体のアゴニストとしての作用と関連しているものと考えられた。(参照 2、3)

## 1 1. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼刺激試験及び皮膚刺激試験、DHPW モルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximization 法) が実施された。その結果、眼及び皮膚に対する刺激性は認められず、皮膚感作性は陰性であった。(参照 2、3)

## 1 2. 亜急性毒性試験

### (1) 90 日間亜急性毒性試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌雄各 10 匹) を用いた混餌 (原体: 0、150、600 及び 2400 ppm) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。また、回復群 (一群雌雄各 10 匹、原体 0 及び 2400 ppm 混餌投与) を設け、投与終了後 4 週間観察した。

600ppm 以上投与群雄で体重増加抑制、2400ppm 投与群雄で TPT 延長、ALP 及び ALT 増加、TP、T.Chol、TG 及び Alb の低下、肝の組織学的変化 (円形細胞浸潤、単細胞壊死、細胞質変化、核の肥大)、また 2400ppm 投与群雌では体重増加抑制、TPT 延長、ALP の増加、TP、T.Chol、TG 及び Alb の低下が認められた。

本試験の無毒性量は雄 150 ppm (14.0 mg/kg 体重/日)、雌 600 ppm (83.3 mg/kg 体重/日) であると考えられた。肝の組織学的変化は回復性であった。(参照 2、3)

### (2) 90 日間亜急性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各 4 匹) を用いた混餌 (原体: 0、200、600 及び 1800/1200 ppm、最高投与群は 4 週目から 1200ppm に変更) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

1800ppm 投与群雌雄では摂餌量が減少し、それに伴い体重も減少したが、1200ppm に用量を下げたところ、餌を完食しない例が散見されたが体重は順調に増加した。いずれの投与群も、血液学的検査、血液生化学的検査、肉眼的及び病理組織学的検査において検体投与による悪影響は認められなかった。

本試験において、1800/1200 ppm 投与群雌雄で体重増加抑制及び摂餌量減少が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 600ppm (雄: 22.0 mg/kg 体重/日、雌: 24.7 mg/kg 体重/日) であると考えられた。(参照 2、3)

### (3) 90 日間亜急性神経毒性試験 (ラット)

Fischer ラット (一群雌雄各 18 匹、うち衛星群: 雌雄各 6 匹) を用いた混餌 (原体: 0、150、1000 及び 3000 ppm) 投与による 90 日間亜急性神経毒性試験が実施された。

3000ppm 投与群雄で前肢握力の低下及び正向反射の乱れ、全投与群雌で正向反射の乱れが認められたが、いずれも正常として容認できる程度であり、神経組織及び骨格筋の組織において病理組織学的所見は認められなかったことから、検体投与による影響ではなく偶発的なものと考えられた。1000ppm 以上投与群雌雄で体重増加抑制及び摂餌量減少が認められた。

本試験の一般毒性に対する無毒性量は、雌雄とも 150ppm (雄: 9.3mg/kg 体重/日、雌: 10.5mg/kg 体重/日) であると考えられた。神経毒性は認められなかった。(参照 2-4)



(4) 21日間反復経皮毒性試験 (ウサギ)

NZW ウサギ (一群雌雄各 5 匹) を用いた経皮 (0 及び 1000 mg/kg 体重/日) 投与による 21 日間反復経皮毒性試験が実施された。

いずれの投与群にも毒性学的所見は観察されなかった。本試験の無毒性量は雌雄とも 1000 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 2~4)

(5) 28日間反復吸入毒性試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌雄各 10 匹) を用いた吸入 (0、5、30 及び 180 mg/m<sup>3</sup>、実際濃度は 0、5.5、30.5 及び 191 mg/m<sup>3</sup>、6 時間/日) 暴露による 28 日間反復吸入毒性試験が実施された。

180mg/m<sup>3</sup> 暴露群雄で体重増加抑制、GLDH の増加及び肝薬物代謝酵素(O-デメチラーゼ、N-デメチラーゼ、P-450)誘導が認められ、180mg/m<sup>3</sup> 暴露群雌で血液凝固時間の延長、ALT、ALP、GLDH 及び T.Bil の増加、肝薬物代謝酵素誘導、肝比重量<sup>1</sup>の増加が認められた。30 mg/m<sup>3</sup> 暴露群雌で N-デメチラーゼの有意な誘導が認められたが、誘導は背景データの範囲内にあり、さらに肝の絶対重量及び形態にも変化がないことから、この群での誘導は適応反応と考えられた。

本試験の無毒性量は雌雄とも 30mg/m<sup>3</sup>(13.2mg/kg 体重/日)であると考えられた。(参照 2)

### 1.3. 慢性毒性試験及び発がん性試験

(1) 1年間慢性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各 4 匹) を用いた混餌 (原体:0、200、500 及び 1250/2500 ppm、最高投与群は 17 週目から 2500 ppm に変更) 投与による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

1250/2500ppm 投与群雌雄で肝のチトクローム P-450 の増加が、加えて同群雌では T.Chol の増加が認められた。肉眼的及び病理組織学的検査において、検体投与に起因する病的変化は認められなかった。

本試験の無毒性量は雌雄とも 500ppm (雄 15.3mg/kg 体重/日、雌 14.8mg/kg 体重/日) と考えられた。(参照 2、3)

(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌雄各 50 匹+12 ヶ月後に計画殺の雌雄各 10 匹) を用いた混餌 (原体:0、100、300、900 及び 1800ppm) 投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。また、最大耐量を調べるため、0 及び 1800ppm 投与群も設けた。

300ppm 以上投与群雄で甲状腺コロイド内鉍質沈着の増加、900ppm 以上投与群雌で体重増加抑制及び甲状腺コロイド内鉍質沈着の増加が認められた。

本試験の無毒性量は雄 100ppm (5.7mg/kg 体重/日)、雌 300ppm (24.9mg/kg 体重/日) であると考えられた。また、1800ppm 投与群では、体重増加抑制、飲水量減少(雌

<sup>1</sup> 体重比重量のことを比重量という (以下同じ)。

のみ)及び甲状腺コロイド内の鉍質沈着増加が認められ、1800ppm は最大耐量であるとみなされた。発がん性は認められなかった。(参照 2、3)

### (3) 2年間発がん性試験 (マウス)

B6C3F1 マウス (一群雌雄各 50 匹+12 ヶ月後に計画殺の雌雄各 10 匹) を用いた混餌 (原体: 0、100、330 及び 1000ppm) 投与による 2 年間発がん性試験が実施された。また、最大耐量を調べるため、0 及び 2000ppm 投与群も設けた。

1000ppm 投与群雌雄で体重増加抑制、雌で摂餌量と飲水量のわずかな減少が認められた。血液学的検査、血液生化学的検査、肉眼的及び病理組織学的検査において、検体投与による悪影響は認められなかった。

本試験の無毒性量は雌雄とも 330ppm (雄 65.6mg/kg 体重/日、雌 104mg/kg 体重/日) であると考えられた。また、2000ppm 投与群では、雌雄でヒヨコ様鳴声、体重増加抑制、摂餌量及び飲水量の減少、雄で軽微な小葉中心性の肝細胞肥大が認められ、2000ppm は最大耐量であるとみなされた。発がん性は認められなかった。(参照 2、3)

## 14. 生殖発生毒性試験

### (1) 2世代繁殖試験 (ラット)

Wistar ラット (P 世代: 一群雌雄各 30 匹、F1 世代: 一群雌雄各 26 匹) を用いた混餌 (原体: 0、100、250 及び 700 ppm) 投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

P 世代雌の対照群 1 例と 100ppm 投与群で 2 例 (うち 1 例は切迫と殺)、F1 世代雄の 100ppm 投与群 1 例と 250ppm 投与群 1 例 (切迫と殺) が死亡したが、死因は検体投与によるものでないと考えられた。700ppm 投与群親動物に体重増加抑制及び摂餌量減少、児動物に体重低下及び体重増加抑制が認められた。

本試験の無毒性量は親動物及び児動物とも 250ppm (P: 雄 20.1 mg/kg 体重/日、雌 22.1 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub>: 雄 20.6 mg/kg 体重/日、雌 23.6 mg/kg 体重/日) であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。(参照 2)

### (2) 発生毒性試験 (ラット)

Wistar ラット (一群雌 25 匹) の妊娠 6-15 日に経口 (原体: 0、10、30 及び 100 mg/kg 体重/日) 投与し、発生毒性試験が実施された。

30mg/kg 体重/日以上投与群の母動物に体重増加抑制及び摂餌量減少、100mg/kg 体重/日投与群の胎児に化骨不全の発生頻度の増加が認められた。同群胎児で波状肋骨の発生がわずかに増加したが、背景データと同程度であり投与の影響ではないと考えられた。

本試験の無毒性量は母動物で 10mg/kg 体重/日、胎児で 30mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 2~4)

### (3) 発生毒性試験 (ウサギ)

チンチラウサギ (一群雌 16 匹) の妊娠 6-18 日に経口 (原体: 0、8、24 及び 72 mg/kg 体重/日) 投与し、発生毒性試験が実施された。

母動物では 24mg/kg 体重/日以上投与群で体重増加抑制及び摂餌量減少、さらに

72mg/kg 体重/日投与群では2例が死亡し、他に流産や全胚吸収を示す例も認められた。

胎児では72mg/kg 体重/日投与群で母体毒性に起因した着床数や胎児数の減少、体重低下及び骨格異常を示す胎児数の増加が認められた。

本試験の無毒性量は母動物で8 mg/kg 体重/日、胎児で24mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照2、3)

### 15. 遺伝毒性試験

イミダクロプリド及び代謝物を用いた各種遺伝毒性試験が実施された。結果は表5及び6に示されている。

原体を用いた試験では、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験において、S9mix 非存在下では500µg/mL以上の細胞毒性量で染色体異常誘発性が認められ、S9mix 存在下では2600 µg/mL以上で弱い染色体異常誘発性を否定できなかった。またチャイニーズハムスター卵巣由来細胞を用いた姉妹染色分体交換試験において、染色体異常誘発作用が認められた。しかし、*in vivo*での染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験及び小核試験の結果は全て陰性であったことから、生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。

代謝物を用いた試験結果は全て陰性であった。(参照2、3)

表5 遺伝毒性試験結果概要(原体)

試験	対象	処理濃度・投与量	結果	
原体 ( <i>in vitro</i> )	DNA修復試験	<i>Bacillus subtilis</i>	313~5000 µg/disc (+/-S9) <sup>1)</sup>	陰性
	体細胞組換え試験	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> D7	625~10000 µg/mL (+/S9)	陰性
	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 <i>uvrA</i>	313~5000 µg/plate (+/S9)	陰性
		<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537)	①20~12500 µg/plate ②775~12400µg/plate (ともに+/S9)	陰性
	前進突然変異試験	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞(CHO-K1-BH <sub>4</sub> )	60.0~125 µg/mL (-S9) 100~1220 µg/mL (+S9)	陰性
	不定期DNA合成試験	ラット初代肝培養細胞	5.0~750 µg/mL	陰性
	染色体異常試験	ヒトリンパ球	50~5000 µg/mL (+/S9)	陽性
	姉妹染色分体交換試験	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞(CHO-WB1)	16.7~1000 µg/mL (-S9) 167~5000 µg/mL (+S9)	陽性
チャイニーズハムスター卵巣由来細胞(CHO-CCL61)		25~400 µg/mL (-S9) 157~1250 µg/mL (+S9)	陰性 <sup>2)</sup>	
原体 ( <i>in vivo</i> )	染色体異常試験	チャイニーズハムスター骨髄細胞	雌雄: 2000mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
		マウス精祖細胞	雄: 80mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
	姉妹染色分体交換試験	チャイニーズハムスター骨髄細胞	雌雄: 500, 1000, 2000mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性

	小核試験	NMRI マウス骨髄細胞	雌雄：80mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
--	------	--------------	---------------------------	----

1) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

2) 200µg/mL で SCE (姉妹染色分体交換) の有意な増加が認められたが、陰性対照や溶媒対照でみられる SCE 数の範囲内であり、用量相関性が無いことから、SCE 陰性と判断された。

表6 遺伝毒性試験結果概要 (代謝物)

	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
M04 (in vitro)	DNA 修復試験	<i>Bacillus subtilis</i>	125~2000 µg/disc (+/S9) <sup>1)</sup>	陰性
	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	313~5000 µg/plate (+/S9)	陰性
	前進突然変異試験	チャイニーズハムスター卵巣 由来細胞(CHO-K1-BH4)	62.5~2000 µg/mL (-S9) 500~2000 µg/mL (+S9)	陰性
	前進突然変異試験	チャイニーズハムスター肺細胞 由来 V79 培養細胞	500~2000 µg/mL (+/S9)	陰性
	染色体異常試験	チャイニーズハムスター肺細胞 由来 V79 培養細胞	100~1000 µg/mL (+/S9)	陰性
	不定期 DNA 合成試験	ラット初代肝培養細胞	0.04~1330 µg/mL	陰性
M04 (in vivo)	小核試験 (non-GLP)	BDF <sub>1</sub> マウス骨髄細胞	雄：40, 80, 160 mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
			雄：20, 40, 80 mg/kg 体重 (腹腔内投与)	陰性
	小核試験	NMRI マウス骨髄細胞	雌雄：100 mg/kg 体重 (単回経口投与) 雌雄：50 mg/kg 体重 (腹腔内投与)	陰性 陰性
M01 (in vitro)	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	156~2500 µg/plate (-S9) 78.1~1250 µg/plate (+S9)	陰性
M03 (in vitro)	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	313~5000 µg/plate (+/S9)	陰性
M05 (in vitro)	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	313~5000 µg/plate (+/S9)	陰性
M06 (in vitro)	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	313~5000 µg/plate (-S9) 156~5000 µg/plate (+S9)	陰性
M18 (in vitro)	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98,TA100,TA1535,TA1537) <i>Escherichia coli</i> WP2 uvrA	313~5000 µg/plate (+/S9)	陰性

1) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

### Ⅲ. 総合評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「イミダクロプリド」の食品健康影響評価を実施した。

ラットを用いた動物体内運命試験において、イミダクロプリドは主として尿中に排泄され、残りは胆汁を經由して糞中に排泄されると考えられた。主要代謝物は M02、M03、M10、M21 及び M22 であった。主要代謝経路として 2 種類の経路が考えられた。

植物体内運命試験において、植物体中の主要化合物は親化合物及び M01 であった。主要代謝経路は、ニトロ基の還元又は脱離、イミダゾリジン環の水酸化及びその後の脱水反応、及びクロロピコリルアルコールへの代謝及び抱合体の生成と考えられた。

イミダクロプリド、代謝物 M01、M04 及び M06 を分析対象化合物とした作物残留試験において、稲わら及びたばこを除いた作物におけるイミダクロプリドの最高値は、最終散布 7 日後に収穫したきく（葉）の 4.7mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をイミダクロプリド（親化合物のみ）と設定した。

評価に用いた評価書等に記載されている各試験の無毒性量等は表 7 に示されている。

食品安全委員会は、各試験の無毒性量の最小値がラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の 5.7mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.057mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

ADI	0.057mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	5.7mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

暴露量については、当評価結果を踏まえて暫定基準値の見直しを行う際に確認することとする。

表7 各試験における無毒性量の比較

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>		
			農薬抄録	JMPR	米国
ラット	90日間 亜急性 毒性試験	0, 150, 600, 2400 ppm	雄: 14.0 雌: 83.3	14 体重増加抑制等	/
		雄: 0, 14.0, 60.9, 300 雌: 0, 20.3, 83.3, 422	体重増加抑制等		
	90日間 亜急性 神経毒性 試験	0, 150, 1000, 3000 ppm	(一般毒性) 雄: 9.3 雌: 10.5	9.3 体重増加抑制及び摂 餌量減少	9.3 体重増加抑制及び摂 餌量減少
		雄: 0, 9.3, 63.3, 196 雌: 0, 10.5, 69.3, 213	体重増加抑制及び摂 餌量減少 (神経毒性は認められ ない)		
	28日間 反復吸入 毒性試験	0, 5.5, 30.5, 191 mg/m <sup>3</sup>	雌雄: 13.2	/	/
	2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0, 100, 300, 900, 1800 ppm	雄: 5.7 雌: 24.9	5.7 甲状腺コロイド内鉍 質沈着の増加等	雄: 5.7 雌: 7.6 甲状腺コロイド内鉍 質沈着の増加等
雄: 0, 5.7, 16.9, 51.3, 103 雌: 0, 7.6, 24.9, 73.0, 144		甲状腺コロイド内鉍 質沈着の増加等			
2世代 繁殖試験	0, 100, 250, 700 ppm	親動物及び児動物 P雄: 20.1 P雌: 22.1 F <sub>1</sub> 雄: 20.6 F <sub>1</sub> 雌: 23.6	親動物: 6.6 繁殖: 17 O-デメチラーゼ活性 の増加等	親動物及び児動物 16.5 体重増加抑制等 (繁殖能に対する影響 は認められない)	
		雄: 0, 8.08, 20.1, 56.5 P雌: 0, 8.83, 22.1, 62.8 F <sub>1</sub> 雄: 0, 8.00, 20.6, 59.1 F <sub>1</sub> 雌: 0, 9.00, 23.6, 63.3	体重増加抑制等 (繁殖能に対する影響 は認められない)		
発生毒性 試験	0, 10, 30, 100	母動物: 10 胎児: 30	母動物: 10 胎児: 30	母動物: 10 胎児: 30	
		母動物: 体重増加抑制 等 胎児: 化骨不全の発生 頻度増加 (催奇形性は認められ ない)	母動物: 体重増加抑制 等 胎児: 波状肋骨の発生 頻度増加 (催奇形性は認められ ない)	母動物: 体重増加抑制 等 胎児: 波状肋骨の発生 頻度増加 (催奇形性は認められ ない)	
マウス	2年間 発がん性 試験	0, 100, 330, 1000, 2000 ppm	雄: 65.6 雌: 104	66 体重増加抑制等	雄: 208 雌: 274 体重増加抑制等
		雄: 0, 20.2, 65.6, 208, 416 雌: 0, 30.3, 104, 274, 424	体重増加抑制等		
ウサギ	21日間 反復経皮 毒性試験	0, 1000	雌雄: 1000 毒性所見なし	1000 毒性所見なし	1000 毒性所見なし
	発生毒性 試験	0, 8, 24, 72	母動物: 8 胎児: 24	母動物: 8 胎児: 24	母動物及び胎児 24 母動物: 体重増加抑制 等 胎児: 体重低下等 (催奇形性は認められ ない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>		
			農薬抄録	JMPR	米国
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0, 200, 600, 1800/1200 ppm 雄：0, 7.7, 22.0, 45.3 雌：0, 7.9, 24.7, 45.9	雄：22.0 雌：24.7 体重増加抑制及び摂 餌量減少	7.5 体重増加抑制及び摂 餌量減少	
	1年間 慢性毒性 試験	0, 200, 500, 1250/2500 ppm 雄：0, 5.7, 15.3, 62.5 雌：0, 6.4, 14.8, 62.5	雄：15.3 雌：14.8 チトクロームP-450増 加等	15 一過性の摂餌量減少、 チトクロームP-450増 加等	72 毒性所見なし
ADI (cRfD)			NOAEL : 5.7 SF : 100 ADI : 0.057	NOAEL : 5.7 SF : 100 ADI : 0.06	NOAEL : 5.7 UF : 100 cRfD : 0.057
ADI 設定根拠資料			ラット 2 年間慢性毒 性/発がん性併合試験	ラット 2 年間慢性毒 性/発がん性併合試験	ラット 2 年間慢性毒 性/発がん性併合試験

／：試験記載なし

NOAEL：無毒性量 SF：安全係数 UF：不確実係数 ADI：一日摂取許容量 cRfD：慢性参照用量

1) 無毒性量欄には、最小毒性量で認められた主な毒性所見等を記した。

<別紙1：代謝物/分解物略称>

略称	化学名
M01	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)イミダゾリジン-2-イリデンアミン
M02	3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2-ニトロイミノ-4-イミダゾリジノール 又は 3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2-ニトロイミノ-5-イミダゾリジノール
M03	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロ(イミダゾリン-2-イリデン)アミン
M04	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロソ(イミダゾリジン-2-イリデン)アミン
M05	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2-イミダゾリジノン
M06	6-クロロニコチン酸
M07	3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2,4-イミダゾリジンジオン 又は 3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2,5-イミダゾリジンジオン
M08	6-ヒドロキシニコチン酸
M09	N-アセチル-S-(5-カルボキシ-2-ピリジル)システイン
M10	N-(6-クロロニコチノイル)グリシン
M11	6-(メチルチオ)ニコチン酸
M12	N-[(6-メチルチオ)ニコチノイル]グリシン
M13	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2-ニトログアニジン
M14	6-クロロ-3-ピリジルメチルグリコシド
M15	3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-2-ニトロイミノ-イミダゾリジン-4,5-ジオール
M16	4-(6-クロロ-ピリジン-3-イルメチル)-4,5-ジヒドロ-2H-[1,2,4]トリアジン-3-オン
M17	8-(6-クロロ-ピリジン-3-イルメチル)-3-メチル-7,8-ジヒドロ-6H-イミダゾ [2,1-c][1,2,4]トリアジン-4-オン
M18	(6-クロロ-ピリジン-3-イル)-メタノール
M19	N-(6-クロロピリジン-3-イルメチル)グアニジン
M20	(化学名不明、名称：クロロピコリルゲンジオビオシド体)
M21	N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン
M22	(1,3-ジヒドロ-イミダゾール-2-イリデン)-ニトロアミン
M23	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)イミダゾリジン-2-イリデンアミン-4,5-ジオール
M24	1-(6-クロロ-ピリジン-3-イルメチル)-1,3-ジヒドロ-イミダゾール-2-イリデンアミ ン
M25	N-(6-クロロ-ピリジン-3-イルメチル)-ホルムアミド
M26	6-クロロピコリルアミン
M27	(化学名不明、名称：ホト二量体)



<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリフォスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT))
FOB	Functional Observational Battery (機能観察検査)
GLDH	グルタミン酸デヒドロゲナーゼ
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
PHI	最終使用から収穫までの日数
T <sub>1/2</sub>	半減期
TAR	総処理放射能
T.Bil	総ビリルビン
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TPT	トロンボプラスチン時間
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)								
					親化合物		代謝物 M01		代謝物 M04		代謝物 M06		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	平均値
稲 (玄米) 1989年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 (A区)	1	111 133	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.01 <0.01	<0.008 <0.008	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	/	/	<0.018 <0.018
			2	88	<0.005	<0.005	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	/	/	<0.018
稲 (稲わら) 1989年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 (A区)	1	111 133	0.02 0.01	0.03 0.01*	0.03 <0.02	0.02 <0.02	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	/	/	0.06* 0.04*
			2	66 88	0.04 0.01	0.035 0.01	0.04 <0.02	0.03 <0.02	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	/	/	0.075 0.04*
稲 (玄米) 1990年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 + 100 <sup>D</sup> (2回)	3	21 28	0.038 0.020	0.028 0.018	<0.01 0.01	<0.008 0.008*	0.005 0.005	0.005 0.005	0.06 <0.05	0.06 <0.05	0.101* 0.081*
稲 (稲わら) 1990年				21 28	0.40 0.26	0.31 0.22	0.30 0.36	0.268 0.232	0.03 0.02	0.018 0.015*	1.10 1.17	0.965 0.70	1.56 1.17*
稲 (玄米) 1990年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 + 300 <sup>G</sup> (2回)	3	80	<0.005	<0.005	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.068
稲 (稲わら) 1990年				80	0.04	0.04	0.11	0.105	<0.01	<0.01	/	/	0.155*
稲 (玄米) 1990年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 + 60~75 <sup>WP</sup> (2回)	3	28-30 45	0.060 <0.005	0.044 <0.005	/	/	/	/	/	/	/
稲 (稲わら) 1990年				28-30 45	0.25 0.06	0.20 0.032	/	/	/	/	/	/	/
稲 (玄米) 1994年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 + 75 <sup>WP</sup> (2回)	3	30 44-45	0.077 0.006	0.053 0.006*	/	/	/	/	/	/	/
稲 (稲わら) 1994年				30 44-45	0.28 0.17	0.25 0.10	/	/	/	/	/	/	/
稲 (玄米) 1995年	2	1.6 <sup>G</sup> g ai/箱 + 75 <sup>WP</sup> (2回)	3	28 42	0.08 0.01	0.05 0.01*	/	/	/	/	/	/	/
水稲 (玄米・露地) 1998年	2	1 <sup>WP</sup> g ai/箱 (灌漑1回) + 75 <sup>WP</sup> (2回)	3	28-30 42-45	0.05 0.03	0.04 0.02	/	/	/	/	/	/	/
湛水直播水稲 (玄米・露地) 1995年	1	20 <sup>WP</sup> g ai /3kg 種子 + 75 <sup>WP</sup> (2回)	3	28	0.08	0.08	/	/	/	/	/	/	/
湛水直播水稲 (玄米・露地) 1998年	2	75 <sup>WP</sup> (2回)	3	28 42	0.16 0.04	0.12 0.02*	/	/	/	/	/	/	/
稲 (玄米) 1999年	2	①1 g <sup>WDC</sup> ai/箱 1回苗箱灌漑① ①+75 <sup>WP</sup> (2回)	1	120	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/
			3	27 42-43	0.05 0.02	0.038 0.012*	/	/	/	/	/	/	/
稲 (稲わら) 1999年	2	①1 g <sup>WDC</sup> ai/箱 1回苗箱灌漑① ①+75 <sup>WP</sup> (2回)	1	120	<0.02	<0.02	/	/	/	/	/	/	/
			3	27 42-43	0.07 0.04	0.048 0.028*	/	/	/	/	/	/	/
とうもろこし (乾燥種子・露地) 1994年	2	20 <sup>SC</sup> g ai /3kg 種子 + 200 <sup>SC</sup> (2回)	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/



てんさい (根部・露地) 1994年	2	100 <sup>WP</sup> 移植時 苗箱灌注 + 200 <sup>WP</sup> (2回)	3	21 28	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01								
てんさい (根部・露地) 1997年	2	90 (コート種子) + 200 <sup>WP</sup> (2回)	3	21 28	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01								
てんさい (根部・露地) 2000年	2	1.67/冊(灌注) + 200 <sup>WDG</sup> (2回)	3	13-14 21	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01								
だいこん (根部・露地) 1990年	1 1 1 1	600 <sup>G</sup> 播種時播 溝処理	1	42	0.015	0.012	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	0.075*	
	52			0.006	0.006*	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05	0.069*	
	57			0.009	0.008	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05	0.071*	
	67			0.011	0.008	<0.01	<0.008	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05	0.071*	
だいこん (葉部・露地) 1990年	1 1 1 1	600 <sup>G</sup> 播種時播 溝処理	1	42	0.014	0.012	0.019	0.013*	<0.005	<0.005	0.14	0.12	0.15*	
	52			<0.005	<0.005	0.013	0.011*	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05	<0.05	0.071*	
	57			0.006	0.006*	0.016	0.012*	<0.005	<0.005	0.06	0.06	0.06	0.083*	
	67			0.023	0.021	0.05	0.038	<0.005	<0.005	0.15	0.14	0.14	0.204*	
だいこん (根部・露地) 1997年	2	600 <sup>G</sup> 播種時播 溝土壌混和 +	3	14	<0.01	<0.01								
だいこん (葉部・露地) 1997年	2	100 <sup>SC</sup> (2回)		14 21	0.20 0.13	0.09* 0.062*								
はくさい (茎葉・露地) 1993年	2	100~200 <sup>SC</sup>	2	7 14	0.11 0.02	0.059 0.015*								
はくさい (茎葉・露地) 2002年	2	0.01 <sup>G</sup> ai/株 定植時 土壌混和 + 200~230 <sup>SC</sup> (2回)	3	7 14	0.13 0.03	0.085 0.025								
キャベツ (葉球・露地) 1994年	2	200 <sup>SC</sup>	2	7	0.21	0.082								
			2	14	0.02	0.015*								
			3	7 14	0.02 0.01	0.02 0.01								
メキャベツ (芽球・露地) 2004年	2	100 <sup>SC</sup>	2	7	<0.02	<0.02								
				14	<0.02	<0.02								
非結球メキャベツ (本葉・露地) 2004年				21	<0.02	<0.02								
非結球メキャベツ (えき芽葉・露地) 2004年				7	0.5	0.035*								
				14	<0.2	<0.2								
				21	<0.2	<0.2								
みずな (茎葉・施設) 1997年	1	100 <sup>SC</sup>	1 1 1 2 2 2	3 7 14 3 7 14	2.41 1.26 0.42 2.20 0.84 0.32	1.70 0.71 0.23 1.52 0.51 0.17								
畑わさび (露地) (葉柄+根茎) 1995年	1	75 <sup>SC</sup>	2	7 14 21 28	0.04 0.03 <0.02 <0.02	0.04 0.03 <0.02 <0.02								
畑わさび (露地) (葉+葉柄+根茎) 1995年	1	75 <sup>SC</sup>	2	7 14 21 28	0.25 0.11 0.02 <0.02	0.25 0.09 0.02 <0.02								
畑わさび (露地) (葉+葉柄+根茎) 1996年	2	75 <sup>SC</sup>	2	7 14 21	0.39 0.25 0.09	0.27 0.14 0.065								





伏見甘長 とうがらし (果実・施設) 2003年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 285~300 <sup>WDG</sup> (2回)	3	1 3 7	1.5 1.4 0.9	1.28 1.25 0.6								
きゅうり (果実・施設) 1990年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理	1	38-41 48-51	0.010 0.008	0.007* 0.006*	<0.01 <0.01	<0.008 <0.008	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	0.07* 0.069*	
きゅうり (果実・施設) 1992年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 100 <sup>WP</sup> (3回)	4	1 3	0.19 0.15	0.14 0.11								
きゅうり (果実・施設) 1995年	2 2 1	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 100 <sup>WP</sup> (3回・煙霧)	4 4 4	1 3 7	0.04 0.03 0.02	0.04 0.025 0.02								
きゅうり (果実・施設) 1999年	1 1 1 1 1 1	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 125 <sup>WDG</sup> (3~5回)	6 6 6 4 4 4	1 3 7 1 3 7	0.09 0.07 0.07 0.21 0.15 0.04	0.08 0.07 0.06 0.20 0.14 0.04								
きゅうり (果実・施設) 2003年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 150~300 <sup>SC</sup> (3回)	4	1 3 7	0.42 0.24 0.09	0.27 0.16 0.065*								
かぼちゃ (果実・施設) 2000年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 94.5~100 <sup>WDG</sup> (2回)	3	1 3 7	0.04 0.02 0.01	0.025 0.02 0.01*								
すいか (果実・施設) 1993年	1 1 1 1	0.10 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 100 <sup>WP</sup> (3~4回)	5 5 4 4	3 7 3 7	<0.01 <0.01 0.04 0.03	<0.01 <0.01 0.04 0.02								
すいか (果実・施設) 2003年	2	0.10 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 300 <sup>WDG</sup> (3回)	4	3 7 14	0.11 0.06 0.07	0.058 0.038* 0.042*								
メロン (果実・施設) 1992年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 100 <sup>WP</sup> (3回)	4	3 7	0.01 0.01	0.01* 0.01*								
メロン (果実・施設) 1999年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 + 125 <sup>WDG</sup> (3回)	4	1 3 7	0.03 0.03 0.02	0.03 0.03 0.02								
メロン (果実・施設) 2003年	2	0.02 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理 + 250~300 <sup>WDG</sup> (3回)	4	3 7 14	0.03 0.03 0.03	0.022 0.022 0.022								
まくわうり (果実・露地) 2005年	2	0.01 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴土壌混和	1	70 80 90	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02								





モロヘイヤ (露地) 2003年	2	300 <sup>sc</sup>	1	14	1.0	0.7														
食用プリムラ (花器全体・施設) 2003年	2	75 <sup>sc</sup>	2	14 21	0.23 0.07	0.205 0.055														
ふだんそう (茎葉・施設) 2003年	2	100 <sup>sc</sup>	2	1 3 7	3.27 3.09 2.03	3.14 2.65 1.86														
みょうが (花穂・施設) 2003-2004年	2	150~175 <sup>wdc</sup>	2	1 3 7	<0.04 <0.04 <0.04	<0.04 <0.04 <0.04														
くわい (塊茎・露地) 2003-2004年	2	150 <sup>sc</sup>	3	21 28-30 42-43	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01														
食用さくら (茎葉・施設) 2004年	2	150 <sup>sc</sup>	1	3 7 14	0.80 0.78 <0.05	0.58 0.48 <0.05														
さんしょう (葉・露地) 2005年	2	75 <sup>sc</sup>	3	183 -196	<0.1															
温州みかん (果肉・露地) 1992年	2	500~700 <sup>sc</sup>	3	14 30 45	0.06 0.05 0.03	0.023* 0.025* 0.022*														
温州みかん (果皮・露地) 1992年				14 30 45	2.29 2.03 1.64	1.55 1.33 1.04														
温州みかん (果肉・露地) 1996年	2	500 <sup>sc</sup>	3	14	<0.01	<0.01														
温州みかん (果皮・露地) 1996年				14	0.25	0.20														
夏みかん (果肉・露地、無袋) 1994年	2	400 <sup>sc</sup>	3	14 21	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01														
夏みかん (果皮・露地、無袋) 1994年				14 21	0.67 0.65	0.495 0.358														
夏みかん (果実・露地、無袋) 1994年				14 21		0.162 0.135														
夏みかん (果肉・露地) 1996年	1	500 <sup>sc</sup>	3	14	<0.01	<0.01														
夏みかん (果皮・露地) 1996年				14	0.19	0.165														
夏みかん (果実・露地) 1996年				14		0.05														
いよかん (果肉・露地) 1996年	1	500 <sup>sc</sup>	3	14	<0.01	<0.01														
いよかん (果皮・露地) 1996年				14	0.23	0.20														
いよかん (果実・露地) 1996年				14		0.06														
すだち (果実・露地) 1996年	2 1 1	250~500 <sup>sc</sup>	3	14 21 28	0.16 0.02 0.02	0.09 0.02 0.02														

かぼす (果実・露地) 1996年	21 1	500~600 <sup>SC</sup>	3	14-15 21 28	0.27 0.23 0.12	0.155 0.22 0.12								
りんご (果実・露地) 1990年	2	500 <sup>WP</sup>	2	21 30 45	0.105 0.124 0.097	0.061 0.052 0.05	0.01 0.01 0.02	0.008* 0.008* 0.012*	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	0.20 0.23 0.24	0.165 0.155 0.145	0.239* 0.220* 0.212*	
りんご (果実・露地) 2002年	2	600 <sup>WDG</sup>	2	3 7 14	0.20 0.13 0.06	0.145 0.10 0.035								
なし (果実・露地、無袋) 1990年	2	400 <sup>WP</sup>	2	30 37-45	0.201 0.108	0.116 0.066	0.03 0.03	0.022 0.014*	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	0.37 0.25	0.27 0.21	0.413* 0.295*	
なし (果実・露地、無袋) 1996年	2	120~240 <sup>SC</sup>	2	14 21 28	0.19 0.11 0.08	0.096 0.055 0.046								
なし (果実・露地、無袋) 1998年	2	400 <sup>WDG</sup>	2	28 42	0.13 0.06	0.125 0.05								
なし (果実・露地、無袋) 2002年	2	350~400 <sup>SC</sup>	2	3 7 14	0.16 0.20 0.14	0.132 0.148 0.112								
びわ (果実・施設、有袋) 1993年	1	400 <sup>SC</sup>	2	7 14 21	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02								
びわ (果実・施設) 1994年	1	400 <sup>SC</sup> (有袋)	2	7 14 21	0.04 <0.02 <0.02	0.025* 0.015* 0.015*								
	1	400 <sup>SC</sup> (無袋)	2	7 14 21	2.55 0.76 0.76	2.01 0.68 0.55								
もも (果肉・露地、無袋) 1990年	2	400 <sup>WP</sup>	2	30 45	0.197 0.128	0.144 0.099	<0.01 <0.01	<0.008 <0.008	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	0.29 0.28	0.26 0.255	0.417* 0.367*	
もも (果皮・露地、無袋) 1990年				30 45	0.594 0.358	0.430 0.267	0.70 0.278	0.362 0.293	0.044 0.025	0.043 0.024				0.835 0.584
もも (果肉・露地、無袋) 1996年	2	120~240 <sup>SC</sup>	2	14 21 28	0.13 0.11 0.09	0.091 0.063 0.048								
もも (果皮・露地、無袋) 1996年				14 21 28	0.70 0.67 0.28	0.399 0.269 0.144								
もも (果肉・露地) 2002年	2	400 <sup>SC</sup>	2	3 7 14	0.16 0.13 0.12	0.145 0.11 0.098								
もも (果皮・露地) 2002年				3 7 14	2.3 1.7 0.7	1.3 0.95 0.525								
ネクタリン (果実・露地、無袋) 2003年	2	0.15 <sup>WP</sup> g ai/樹 ~700 <sup>WP</sup>	2	1 3 7 14 21	0.73 0.57 0.52 0.29 0.23	0.69 0.51 0.405 0.22 0.205								
あんず (果実・露地、無袋) 1997年	1 2 2 2	120~160 <sup>SC</sup>	2	3 7 11-14 18-21	0.45 0.29 0.15 0.05	0.37 0.228 0.095 0.042								
すもも (果実・露地、無袋) 1995年	2	150~400 <sup>WP</sup>	2	21 28	0.07 0.05	0.022* 0.019*								
うめ (果実・露地) 1995年	2	150~200 <sup>WP</sup>	2	21 28	0.07 0.06	0.06 0.045								

いちご (果実・施設) 1992年	1 1 1 1	0.01 <sup>G</sup> g/株 定植時 植穴処理	1	105 113 150 160	0.01 0.01 0.03 0.03	0.01* 0.01* 0.025 0.025									
デラウェア (果実・施設、無袋) 1990年	1	300 <sup>WP</sup>	2	21 30	1.35 0.488	1.21 0.459	0.013 0.02	0.011 0.015	0.006 <0.005	0.006* <0.005	1.71 1.01	1.64 0.98	2.87* 1.46*		
巨峰 (果実・施設、無袋) 1990年				21 30	0.258 0.128	0.208 0.118	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	0.39 0.20	0.39 0.20	0.613* 0.333*		
デラウェア (果実・施設、無袋) 1996年	2	150 <sup>SC</sup>	2	21 28	0.76 0.60	0.592 0.52									
巨峰 (果実・施設、無袋) 1996年				21 28	0.28 0.20	0.185 0.162									
デラウェア (果実・施設、無袋) 1997年	4	120~200 <sup>SC</sup>	2	21 28	0.79 0.61	0.448 0.255									
デラウェア (果実・施設、無袋) 1996-1997年	1	200 <sup>WSP</sup> 常温煙霧	2	21 30 45	0.08 0.08 0.09	0.065 0.065 0.05									
巨峰 (果実・施設、無袋) 1996-1997年				21 30 45	0.12 0.08 0.09	0.078 0.058 0.045									
デラウェア (果実・施設、無袋) 1998年				21 28	0.80 0.50	0.78 0.50									
巨峰 (果実・施設、無袋) 1998年	1	300 <sup>WDG</sup>	2	21 28	0.40 0.42	0.38 0.40									
かき (果実・露地、無袋) 1993年	2	500 <sup>WP</sup>	3	7 14・15 21	0.34 0.32 0.36	0.272 0.215 0.232									
マンゴー (果実・施設、無袋) 1993年	2	450 <sup>WP</sup>	2	14 21 30	0.49 0.33 0.20	0.395 0.30 0.188									
くり (果実・露地) 1996年	2	300 <sup>WP</sup>	3	7 13-14 21	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01									
アセロラ (果実・露地、施設)	2	200~250 <sup>SC</sup>	2	7 14 21	0.30 0.14 0.05	0.24 0.11 0.05*									
ビタヤ (果実・露地) 2005年	2	100 <sup>SC</sup>	2	7 14 21	0.27 0.12 0.11	0.185 0.085* 0.08*									
茶 (荒茶) 1990年	2	200 <sup>WP</sup>	1	13-14 20-21 27-28	2.36 0.80 0.20	1.83 0.680 0.145	1.06 0.87 0.30	0.80 0.725 0.235	0.03 <0.01 <0.01	0.02* <0.01 <0.01			2.65* 1.42* 0.39*		
茶 (浸出液) 1990年				13-14 20-21 27-28	1.95 0.67 0.16	1.67 0.62 0.11	0.86 0.50 0.16	0.555 0.49 0.13	0.02 <0.01 <0.01	0.015* <0.01 <0.01			2.24* 1.12* 0.25*		
茶 (荒茶) 1998年				7 14 21	4.09 3.17 1.03	3.54 2.19 0.72									
茶 (浸出液) 1998年	2	200 <sup>WDG</sup>	1	7 14 21	3.41 1.93 0.90	2.92 1.86 0.57									
たばこ (中葉・露地) 1993年	2	0.01~0.015 <sup>G</sup> g/ 株 定植時 植穴処理	1	85-95	0.46	0.285									
たばこ (上葉・露地) 1993年				112 -124	0.05	0.215									

たばこ (中葉・露地) 1994年	2	300°C 定植時 植穴処理 + 75~90 WP	2	10	9.74	5.64												
	1	75 WP	1	10	2.08	1.92												
たばこ (上葉・露地) 1994年	2	300°C 定植時 植穴処理 + 75~90 WP	3	10	2.58	1.33												
	1	75 WP	2	10	0.23	0.23												

- ・ 1) カルプロバミド 40%を含む
- ・ 処理方法は散布処理とし、それ以外の方法で実施した場合は処理量欄に方法を記載した。
- ・ D: 粉剤、G: 粒剤、SP: 水溶剤、WP: 水和剤、WDG: 顆粒水和剤、SC: フロアブル
- ・ 複数の試験機関で検出限界が異なる場合の最高値は、大きい値を示した (例えば A 機関で 0.006 検出され、B 機関で <0.008 の場合、<0.008 とした)。
- ・ 一部に検出限界未満を含むデータの平均を計算する場合は検出限界値を検出したものとして計算し、\*を付した。
- ・ 全てのデータが検出限界未満の場合は検出限界値の平均に<を付して記載した。

<参照>

- 1 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
- 2 農薬抄録イミダクロプリド（殺虫剤）（平成 18 年 9 月 8 日改訂）：バイエルクロップサイエンス株式会社
- 3 JMPR : Pesticide residues in food 2001-Toxicological evaluations (IMIDACLOPRID、2001 年)
- 4 US EPA : Federal Register (Vol.68, No.114, 35303-35315 / Friday, June 13, 2003 年)
- 5 食品健康影響評価について：食品安全委員会第 158 回会合資料 1-1  
(URL; <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai158/dai158kai-siryoul-1.pdf>)
- 6 暫定基準を設定した農薬等に係る食品安全基本法第 24 条第 2 項の規定に基づく食品健康影響評価について：食品安全委員会第 158 回会合資料 1-3  
(URL; <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai158/dai158kai-siryoul-3.pdf>)
- 7 食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第一部会第 4 回会合  
(URL ; [http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kakunin1\\_dai4/index.html](http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kakunin1_dai4/index.html))
- 8 食品健康影響評価について：食品安全委員会第 181 回会合資料  
(URL ; <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai181/dai181kai-siryoul-1.pdf>)
- 9 食品安全委員会農薬専門調査会幹事会第 13 回会合  
(URL; [http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai\\_dai13/index.html](http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai13/index.html))

## イミダクロプリド (案)

1. 品目名：イミダクロプリド (Imidacloprid)

2. 用途：殺虫剤

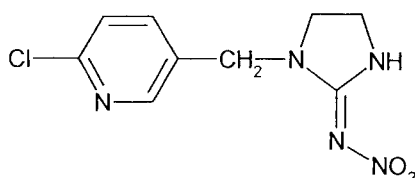
クロロニコチル系殺虫剤である。ニコチン性アセチルコリン受容体に結合し、神経伝達を遮断するなどの作用により殺虫効果を示すと考えられている。

3. 化学名：

1-(6-chloro-3-pyridylmethyl)-*N*-nitroimidazolidin-2-ylideneamine (IUPAC)

1-[(6-chloro-3-pyridinyl)methyl]-*N*-nitro-2-imidazolidinimine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式  $C_9H_{10}ClN_5O_2$   
 分子量 255.7  
 水溶解度 0.48 g/L (20.0°C)  
 分配係数  $\log_{10}Pow=0.57$  (21°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名、使用時期となっているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

また、申請者から、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」（平成16年2月5日付け食安発第0205001号）に基づき、コーヒー豆に係る残留基準の設定が要請されている。

(1) 国内における使用方法

①2.0%イミダクロプリド箱粒剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネミズゾウムシ イネアザミウマ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌5L)1箱 当り50～80g	移植2日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する	3回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計1 回以内、本田 での散布は 2回以内)
	イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 1箱当り50g				

②1.0%イミダクロプリド粒剤

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
稲	—	ツマグロヨコバイ ウンカ類	3kg/10a	収穫45日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、育苗 箱への処理及び 側条施用は合計1 回以内、本田で の散布は2回以内)
かんきつ (苗木)		ミカンハモグリガ	20g/樹 (6kg/10a)	育苗期	1回	株元散布	—
れんこん		クワイクビレアブラムシ イネネクイハムシ	3kg/10a	植付時		植溝土壌混和	3回以内 (植付時の土壌混 和は1回以内、植 付後は2回以内)
ばれいしょ		アブラムシ類	4kg/10a				1回
さといも			3kg/10a				は種時
豆類 (種実)		1～2g/株	定植時又はは種時	植穴土壌混和		3回以内 (定植時又はは種 時の土壌混和は合 計1回以内、散布 は2回以内)	

②1.0%イミダクロプリド粒剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
未成熟そらまめ	—	アブラムシ類	2g/植穴	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内)
			3kg/10a	は種時		播溝土壌混和	
2g/植穴			定植時	植穴土壌混和		3回以内 (定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
3kg/10a			は種時	播溝土壌混和			
きゅうり		アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴又は株元土壌混和	
		コナジラミ類	2g/株			植穴土壌混和	
すいか		アブラムシ類	5g/株 (3kg/10a) 1~5g/株 (3kg/10a)	定植時		株元土壌混和	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
		ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株 (3kg/10a)			植穴土壌混和	
メロン		アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は合計3回以内)
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴又は株元土壌混和	
		コナジラミ類	2g/株			植穴土壌混和	
かぼちゃ		コナジラミ類 アザミウマ類	2g/株	定植時		植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
にがうり		アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴又は株元土壌混和	2回以内 (定植時の土壌混和は1回以内)
トマト ミニトマト	コナジラミ類	0.5~1g/株	育苗期後半	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は合計2回以内)		
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時	植穴土壌混和			



②1.0%イミダクロプリド粒剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
ピーマン とうがらし類	—	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壤 混和は合計1回以内、 散布は合計2回以内)
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴又は 株元土壤混和	
なす		アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壤 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧 は合計2回以内)
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴又は 株元土壤混和	
ねぎ わけぎ あさつき はくさい		ネギアザミウマ	4kg/10a			0.5g/株	植溝土壤混和
だいこん		アブラムシ類	3~6 kg/10a	は種時			植穴土壤混和
非結球 あぶらな科 葉菜類						3回以内 (は種時の土壤混 和は1回以内、は種 後2回以内)	
なばな類						2回以内 (は種時の土壤混和 は1回以内)	
いちご						なばなは2回以内 (は種時の土壤混 和は1回以内、な ばな以外のなばな 類は1回)	
パセリ		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	0.5g/株	育苗期後半		株元散布	1回
こんにゃく	アブラムシ類	3~6 kg/10a	定植時	植穴土壤混和	2回以内 (定植時の土壤混 和及び株元散布は 合計1回以内、散布 は1回以内)		
		6kg/10a	倍土時 (基根伸長期) 生育期 但し収穫21日 前まで	株元土壤混和 茎葉散布		1回	

②1.0%イミダクロプリド粒剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
さといも (葉柄)	—	アブラムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内)
やまのいも		コガネムシ類					3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
やまのいも (むかご)		アブラムシ類	1g/株	定植時		1回	
まくわうり						植穴土壌混和	
かんしょ		コガネムシ類	4kg/10a	植付時		作条土壌混和	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
じゅんさい	じゅんさい田	ユスリカ類	3kg/10a	収穫前日まで	散布	1回	
にら	—	ネギアザミウマ	4kg/10a	収穫30日前まで	1回	株元散布	2回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、株元散布は1回以内)
				定植時		植溝土壌混和	
キャベツ		アブラムシ類	0.5g/株	定植時		植穴土壌混和	3回以内 (育苗期の灌注及び定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
レタス				育苗期後半		株元散布	3回以内 (育苗時の株元混和は1回以内、散布は2回以内)
ブロッコリー				定植時		植穴土壌混和	4回以内 (育苗期の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)

③10.0%イミダクロプリド水和剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1000～ 2000倍	200～ 700L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
なし	アブラムシ類 カメムシ類	1000倍						
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	1000～ 2000倍 1000倍						
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	1000～ 2000倍 1000倍						収穫14日前まで
ぶどう	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	1000～ 2000倍 1000倍		収穫21日前まで				
かき	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ カメムシ類	1000～ 2000倍 1000倍		収穫7日前まで				3回以内
うめ すもも	アブラムシ類	2000倍		収穫21日前まで				2回以内
くり	クリイガアブラムシ	1000倍		収穫7日前まで				3回以内
マンゴー	チャノキイロアザミウマ			収穫14日前まで				
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	2000倍		60～150 L/10a				収穫7日前まで
稲 (育苗箱)	イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	100倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 0.5L	移植2日前 ～移植当日	1回	育苗箱当り 希釈液0.5L を苗の上から 灌注する	3回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は合 計1回以内、本田 での散布は2回以内)	

③10.0%イミダクロプリド水和剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	アブラムシ類	1000～ 3000倍	100～ 300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内)
		16倍	3.2L/10a			無人ヘリコプターによる散布	
きゅうり	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)
すいか	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ			収穫3日前まで			4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
メロン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む)			4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は合計3回以内)			
にがうり	ミナミキイロアザミウマ			2回以内 (定植時の土壌混和は1回以内)			
トマト	アブラムシ類 タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む) オンシツコナジラミ			3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)			
なす	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ			3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計2回以内)			

③10.0%イミダクロプリド水和剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布は2回以内)
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60倍	ペーパーポット 1冊当り 1L (3L/m <sup>3</sup> )	定植時	1回	苗床灌注	1回
茶	チャノキイロアザミウマ	1000～ 2000倍	200～ 400L/10a	摘採7日前まで		散布	
	チャノミドリヒメヨコバイ	1000倍					
	チャノホソガ	2000倍					

③10.0%イミダクロプリド水和剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、 ガラス 室、ビ ニール ハウス 等密閉 できる 場所	アブラムシ類	100g /10a	5L /10a	収穫前日まで	3回以内	常温煙霧	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧 は合計3回以内)
なす						2回以内		3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧 は合計2回以内)
ぶどう		チャノキイロアザミウマ	200g /10a	9L /10a	収穫21日前まで			2回以内

③10.0%イミダクロプリド水和剤（つづき）

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
湛水直播 水稻	ツマグロヨコバイ ウンカ類	種もみ3kg当り 150～200g	播種前	1回	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣（地上は種用、空中散播及び無人ヘリコプターによる散播用）	3回以内 （種もみへの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）
小麦	ヤギシロトビムシ	種子重量の 0.15%			種子粉衣	3回以内 （種子粉衣は1回以内、散布は2回以内）

④0.25%イミダクロプリド粉剤

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
稲	—	ツマグロヨコバイ ウンカ類	3～4kg /10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 （種もみへの処理は1回以内、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布は2回以内）
		カメムシ類	4kg/10a				
		イネドロオイムシ	3kg/10a				
れんこん	—	アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 （植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内）
水田作物、畑作物（休耕田）	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優先している休耕田	カメムシ類	4kg/10a	—	—	—	2回以内

⑤20.0%イミダクロプリドフロアブル

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数			
とうもろこし	アブラムシ類	64倍	3.2L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布	3回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は2回以内)			
オクラ	アブラムシ類 アザミウマ類	4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内		3回以内			
しそ	アブラムシ類			1回	1回					
レタス				収穫7日前まで	2回以内		3回以内 (育苗時の株元散布は1回以内、散布は2回以内)			
非結球レタス							2回以内			
キャベツ							3回以内 (育苗期の灌水及び定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)			
はくさい				3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)						
みずな				収穫3日前まで	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)					
食用ぎく				アブラムシ類 アザミウマ類	2000倍		200~700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ふき				アブラムシ類 コナジラミ類						2回以内
畑わさび				アブラムシ類						畑育苗期
わさび										
びわ	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内					
なし	アブラムシ類	5000倍	L/10a	収穫3日前まで						
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ									
未成熟そらまめ	アブラムシ類	4000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内 (定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内)				
だいこん				収穫14日前まで	2回以内	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)				

⑤20.0%イミダクロプリドフロアブル（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	アブラムシ類 ネギアザミウマ	4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
非結球あぶらな科葉菜類（みずなを除く）	アブラムシ類 コナジラミ類			収穫14日前まで			2回以内（は種時の土壌混和は1回以内）
ごぼう	アブラムシ類			収穫7日前まで			2回以内
ねぎ	ネギアザミウマ	収穫14日前まで		3回以内			
わけぎ		2000～ 4000倍		収穫3日前まで	2回以内（定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）		
あさつき				2000倍	1回		
モロヘイヤ	アブラムシ類	2000倍		収穫14日前まで	1回		1回
葉ごぼう				収穫7日前まで	2回以内		2回以内
ふだんそう	アブラムシ類	4000倍		収穫3日前まで	1回		1回
食用くら（葉）	アザミウマ類			収穫21日前まで	3回以内		3回以内
くわい	アブラムシ類			収穫7日前まで	2回以内		2回以内
エンダイブ				4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内）			
きゅうり	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ		収穫前日まで	3回以内	4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内）		
メロン	アブラムシ類		収穫3日前まで	1回	4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内）		
せり科葉菜類（ただし、コリアンダー（葉）、セルリー、パセリ、みつば及びせりを除く）			収穫14日前まで	1回	1回		
れんこん			2回以内	3回以内（植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内）			
はまぼうふう（葉）			2回以内	収穫7日前まで	2回以内		
メキャベツ				2回以内			
非結球メキャベツ		2回以内					



⑤20.0%イミダクロプリドフロアブル (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ケシクスイ類 コアオハナムグリ	4000～ 5000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	コナカイガラムシ類	2500倍					
	アカマルカイガラムシ	2500～ 5000倍					
	チャノキイロアザミウマ ミカンハモグリガ カメムシ類 アブラムシ類 ゴマダラカミキリ成虫	2000～ 5000倍					
	ミカンキジラミ	2000倍					
	ゴマダラカミキリ成虫	40倍	5L/10a				
	アブラムシ類	20倍					
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	5000倍	200～700 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
あんず	アブラムシ類			収穫7日前まで			
キウイフルーツ	カメムシ類			2000倍			
さんしょう (葉)	アブラムシ類	4000倍	100～300 L/10a	株養成期 但し、収穫180日前まで	3回以内	散布	3回以内
パセリ				収穫14日前まで	1回		2回以内 (定植時の土壌混 和及び株元散布は 合計1回以内、散布 は1回以内)
ピタヤ		2000倍		収穫7日前まで	2回以内		2回以内
アセロラ しそ(花穂)		4000倍		収穫3日前まで			
コリアンダー (葉)				収穫7日前まで	3回以内		3回以内
セルリー				2回以内	2回以内		
食用プリムラ				3回以内	収穫14日前まで		3回以内
きく (葉)		根株養成期 但し、収穫60日前まで					
うど	2000倍						

⑤20.0%イミダクロプリドフロアブル（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗期の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
かぼちゃ		4000倍		収穫前日まで			3回以内
ズッキーニ				収穫3日前まで	2回以内		
ヤングコーン				収穫前日まで			
いちよう (種子)	イチョウヒゲビロウドカミキリ 成虫			収穫前日まで			

⑥20.0%イミダクロプリド水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
わさび	アブラムシ類	4000倍	100～200 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

⑦2%イミダクロプリド・4%フルベンジアミドフロアブル

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	フルベンジアミドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 ヨガ アオムシ カブラヤガ ハスモンヨトウ	100倍	セル型 育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌 約1.5～4L) あたり 0.5～1L	定植 3日前 ～ 定植時	1回	灌注	3回以内 (育苗期の灌注 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 ヨガ						4回以内 (育苗期後半の 灌注は1回以内、 定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は2回以内)	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)

⑧70.0%イミダクロプリド粉末

作物名	作物名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
てんさい	テンサイトビハムシ	90~130g /ユニット*	は種前	1回	種子被覆剤に 混和後、種子に コーティングする	1回
	テンサイハモグリハナバエ	130g /ユニット*				

\*: 1ユニット (約100,000粒) /ha

⑨70.0%イミダクロプリド粉末

作物名	作物名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	アブラムシ類	9~14g/10a	は種前	1回	種子処理機による 種子粉衣	3回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 2回以内)

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
稲 (育苗箱)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	500倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 0.5L	移植2日前 ~移植当日	1回	育苗箱当り 希釈液0.5L を苗の上から 灌注する	3回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内、 本田での散布は 2回以内)
	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	500~ 1000倍					
かんきつ	アブラムシ類 チャノキイロアザミウマ ミカンハモグリガ ケシキスイ類 ゴマダラカミキリ成虫 コアオハナムグリ コナカイガラムシ類 アカマルカイガラムシ コナジラミ類	10000倍	200~700 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ミカンキジラミ アザミウマ類	5000倍					
	カメムシ類	5000~ 10000倍					
げっきつ	ミカンキジラミ	5000倍		発生初期	4回以内		4回以内

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
りんご	カメムシ類 リンゴワタムシ	5000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類	10000～ 15000倍					
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	10000倍					
うめ すもも	アブラムシ類			収穫21日前まで			
なし	コナカイガラムシ類	5000倍		収穫3日前まで			
	アブラムシ類 カメムシ類	5000～ 10000倍					
もも	アブラムシ類	10000倍		収穫14日前まで			
	モモハモグリガ カメムシ類						
ネクタリン	アブラムシ類	5000～ 10000倍		収穫21日前まで			
	モモハモグリガ カメムシ類	10000倍					
ぶどう	コナガカイガラムシ類	5000倍	収穫7日前まで				
	フタテンヒメヨコバイ	10000倍					
	チャノキイロアザミウマ	5000～ 10000倍					
かき	コナガカイガラムシ類	5000倍	収穫14日前まで				
	カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ	10000倍					
	カメムシ類	5000～ 10000倍					
マンゴー	アザミウマ類	10000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内		
パッションフルーツ			収穫7日前まで				
なす	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	10000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧 は合計2回以内)	
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	5000～ 10000倍					

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
トマト	アブラムシ類	10000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
	コナジラミ類	5000～10000倍						
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	10000倍			3回以内		4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)	
きゅうり	アブラムシ類	5000～10000倍						
	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	5000～10000倍						
すいか	アブラムシ類	10000倍			収穫3日前まで		3回以内	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	ミナミキイロアザミウマ	5000～10000倍						
メロン	コナジラミ類	10000倍			収穫7日前まで		3回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	5000～10000倍						
うり類 (漬物用)	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	10000倍			収穫7日前まで		2回以内	無人ヘリコプターによる散布
ズッキーニ	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類		収穫前日まで					
にがうり	ミナミキイロアザミウマ		収穫7日前まで					
なばな			収穫7日前まで					
とうもろこし	アブラムシ類	10000～15000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は2回以内)	
		160倍	3.2L/10a					
		80倍	1.6/10a					
ばれいしょ	アブラムシ類	2500倍	25L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内)	
		5000～15000倍	100～300 L/10a					
	オオニジュウヤホシテントウ	15000倍	160倍			3.2L/10a		
	アブラムシ類	80倍	1.6/10a			無人ヘリコプターによる散布		

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
豆類 (種実)	アブラムシ類	10000倍	80～300 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
とうがらし類	アザミウマ類 ミナミキイロアザミウマ	5000～ 10000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで			3回以内 (育苗時の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
てんさい	アブラムシ類 カメノコハマシ テンサイモグリハナバエ	300倍	ペーパーポット 1冊あたりL (3L/m <sup>2</sup> )	定植時	1回	苗床灌注	1回
	テンサイトビハムシ	300～ 500倍					
みょうが (花穂)	カイガラムシ類	10000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布、但し 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	2回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで			
すいぜんじな	アブラムシ類	10000倍	100～300 L/10a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内)
さといも (葉柄)				収穫前日 まで			
かんしょ				収穫7日 前まで			
にんじん				収穫3日 前まで			

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
さやいんげん さやえんどう 実えんどう	アブラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時及び は種時の土壌混和は 合計1回以 内、 散布は2回以内)	
豆類 (未成熟、 ただし、 さやいんげん、 さやえんどう、 実えんどう 及び未成熟 そらまめを 除く)				収穫14日前まで				3回以内 (定植時及び は種時の土壌混和は 合計1回以 内)
未成熟そらまめ				3回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内、散布は 2回以内)				
やまのいも				3回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布は 2回以内)				
はくさい				3回以内 (育苗期の灌注 及び 定植時 の土壌混和は 合計1回以 内、 散布は2回以内)				
キャベツ				3回以内 (育苗期の株元散布 は1回以内、散布は 2回以内)				
レタス				2回以内				
ほうれんそう				2回以内				
ねぎ	ネギアザミウマ	5000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布は 2回以内)	
たまねぎ		5000~ 10000倍		収穫14日前まで				
みつば	アブラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで ただし、伏せ込み栽 培は伏せ込み前まで	2回以内	散布	2回以内	

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	5000～ 10000倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回	散布	1回
	ツマグロアオカスミカメ	5000倍					
小麦	アブラムシ類	15000倍	60～150 L/10a	収穫21日前 まで	2回以内		3回以内 (種子粉衣は 1回以内、 散布は2回以内)
アテモヤ	コカゲムシ類	10000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで			2回以内
かぼちゃ	アブラムシ類		100～300 L/10a	収穫前日 まで			3回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は2回以内)
アスパラガス	アザミウマ類		5000倍			2回以内	

⑩50.0%イミダクロプリド顆粒水和剤（つづき）

作物名	作物名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
乾田直 播水稻	ウンカ類	種もみ4～8kg 当り 30～40g/10a	は種前	1回	種子塗沫 (未催芽粉)	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
湛水直 播水稻		種もみ3kg当り 30～40g/10a			過酸化カルシウム剤 との同時湿粉衣（地 上は種用、空中散播 及び無人ヘリコプタ ーによる散播用）	

⑪4.0%イミダクロプリド顆粒水和剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料 に溶かし側条 施肥田植機で 施用する。	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、育苗 箱への処理及び側 条施用は合計1回 以内、本田での散 布は2回以内)	2回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は合 計1回以内)



⑫0.0050%イミダクロプリド液剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せず そのまま 散布する	3回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の土壌混和は1回以内、散布後は2回以内)
レタス						3回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス			2回以内			
ほうれんそう						
きゅうり	収穫前日まで		3回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)		
トマト			2回以内	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)		
しそ	アブラムシ類	収穫7日前まで	1回	1回		

(2) 海外における使用方法

イミダクロプリド 17.4%フロアブル

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
コーヒー豆	8.0 fl oz (製剤)/A (0.10 lb ai/A = 0.112 kg ai/ha)	5回 (*) [最大 0.50 lb ai/A]	0.50 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)	収穫7日前まで	茎葉散布

## 6. 作物残留試験

### (1) 分析の概要

#### ① 分析対象の化合物

イミダクロプリド

#### ② 分析法の概要

試料を含水アセトニトリルで抽出し減圧濃縮後、塩化ナトリウム溶液及びヘキサンを加えて振とうする。水層にジクロロメタンを加えて転溶後、ジクロロメタン層を炭酸カリウム溶液で洗浄し、濃縮後、シリカゲルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフで定量する。

このほか、ジクロロメタン転溶を行わず、珪藻土カラム及びシリカゲルカラム等による精製の後、高速液体クロマトグラフ (UV検出器) で定量する方法や、抽出後、グラファイトカーボンミニカラムによる精製の後、LC-MSを用いて定量する方法も用いられる。

検出限界 0.005~0.2ppm

### (2) 作物残留試験結果

#### ① 稲

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、施用後133, 111日の最大残留量<sup>注1)</sup>は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : <0.005、<0.005 ppm

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、施用後133, 111日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.01、0.03 ppm

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、1%粒剤を1回散布 (4kg/10a) したところ、散布後88, 66日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。  
注2)

イミダクロプリド : <0.005、<0.005 ppm

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、1%粒剤を1回散布 (4kg/10a) したところ、散布後88, 66日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.01、0.04 ppm

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、2%粒剤を1回箱施用 (80g/箱) し、0.25%粉剤を2回散布 (4kg/10a) したところ、散布後21~28日の最大残留

量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.038、0.018 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.40、0.32 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回水面施用（3kg/10a）したところ、施用後80、70日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.005、0.006 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回水面施用（3kg/10a）したところ、施用後80、70日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.06 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（120、150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.058、0.036 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（120、150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.24 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.076、0.030 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.22、0.28 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を1回灌注（0.5L/箱）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.04、0.04 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤を1回施用（200g/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回施用（200g/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.09 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）したところ、灌注後120日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）したところ、灌注後120日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後27～43日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05、0.03 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%顆粒水和剤の50倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布

(150L/10a) したところ、散布後27～43日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.02 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.22、0.31 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回箱施用（80g/箱）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：3.39、1.38 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の125倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～29日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.26、0.28 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の125倍希釈液を1回苗箱灌注（250mL/箱）し、5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～29日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：2.96、1.36 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回移植当日に箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回散布（3kg/10a）したところ、散布後35～56日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.02 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回移植当日に箱施用（80g/箱）し、1%粒剤を2回散布（3kg/10a）したところ、散布後35～56日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.56、0.12 ppm

## ②小麦

小麦（玄麦）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回は種前に

塗抹処理（種子重量の0.15%）し、50%顆粒水和剤の15000倍希釈液を2回散布（200、150L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、200L/10aを散布した試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.013、<0.005 ppm

小麦（玄麦）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回は種前に塗抹処理（種子重量の0.15%）し、50%顆粒水和剤の10000倍希釈液を2回散布（200、150L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.016、<0.005 ppm

### ③とうもろこし

とうもろこし（乾燥種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回種子塗抹（100cc/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回種子塗抹（100cc/種子3kg）し、2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（脱穀した種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回播種時種子塗抹（100mL/種子3kg）し、60倍希釈液を2回無人ヘリコプター散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルを1回播種時種子塗抹（100mL/種子3kg）し、60倍希釈液を2回無人ヘリコプター散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

### ④だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝処理（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、こ

これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、<0.01 ppm

⑤あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05、0.04 ppm

⑥らっかせい

らっかせい（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（3kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

⑦ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種いも処理（100g/水1L/いも200kg）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.186、0.020 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時植溝処理（4kg/10a）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.02、0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の15倍希釈液を2回空中散布（3L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時植溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、<0.01 ppm

#### ⑧さといも

さといも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%水和剤の4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

#### ⑨かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を1回株元土壌灌注（800L/10a）した後、2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、<0.01 ppm

#### ⑩やまのいも

やまのいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

やまのいも（むかご）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時植溝土壌混和（4kg/10a）したところ、処理後210、140日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、<0.05 ppm

#### ⑪こんにゃくいも

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回培土時土壌混和（6kg/10a）した後、1回散布（6kg/10a）したところ、散布後21～30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内



で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、0.02 ppm

⑫てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤を1回移植時、苗箱灌注処理（100g/6L/6冊/10a）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%粉末を1回種子にコーティング（130g/ユニット）し、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の300倍希釈液を1回灌注（1L/冊）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑬だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後42～67日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.014、0.011 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）したところ、混和後42～67日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.013、0.022 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝土壌混和（6kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時

播溝土壌混和 (6kg/10a) し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.20、0.01 ppm

#### ⑭はくさい

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.06、0.11 ppm

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.06、0.06 ppm

はくさい (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、1%粒剤を定植時土壌混和 (1g/株) し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200, 230.4 L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.05、0.13 ppm

#### ⑮キャベツ

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.04、0.21 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (1例) において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.02 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和 (0.5g/株) し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布 (300L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.16、0.05 ppm

キャベツ (葉球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの200

倍希釈液を定植時苗灌注 (0.5L/トレイ) した後、2,000倍希釈液を2回散布 (300L/10a) したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.20、0.07 ppm

#### ⑯芽キャベツ

芽キャベツ (芽球) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : <0.2、<0.2 ppm

#### ⑰みずな

みずな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布 (200L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 1.36、2.39 ppm

みずな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 1.30、2.20 ppm

#### ⑱ブロッコリー

ブロッコリー (花蕾) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの50倍希釈液を定植前苗灌注処理 (0.25L/トレイ) し、1%粒剤を定植時植穴土壌混和 (0.5g/株) し、20%フロアブルの2000倍液を2回散布 (150L、300L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.28、1.94 ppm

ブロッコリー (花蕾) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの2000倍液を2回散布 (150L、300L/10a) したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.40、2.30 ppm

#### ⑲非結球芽キャベツ

非結球芽キャベツ (本葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布 (200L/10a) したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.2、<0.2 ppm

非結球芽キャベツ（えき芽葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.5、<0.2 ppm

#### ⑩畑わさび

畑わさび（葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04 ppm

畑わさび（葉＋葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.25 ppm

畑わさび（葉＋葉柄＋根茎）を用いた作物残留試験（3例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.38、0.38、0.75 ppm

#### ⑪わさび

わさび（花及び花茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.30、0.74 ppm

わさび（葉及び葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.37、0.27 ppm

わさび（根及び根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.06 ppm

㊸なばな

なばな（花茎）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.61、0.46 ppm

㊹ごぼう

ごぼう（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

㊺レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（105～150, 200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.10 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（105～150, 200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.09、0.08 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（0.5g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200, 230L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.46、0.17 ppm

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの200倍希釈液を定植時苗灌注（0.5L/トレイ）した後、4,000倍希釈液を2回散布（200, 230L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.47、0.19 ppm

㊻サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、0.2 ppm

⑳リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.8、0.2 ppm

㉑エンダイブ

エンダイブ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200、303～560.6 L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、303～560.6 L/10a散布された試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：2.26、2.21 ppm

㉒食用ぎく

食用ぎく（花弁）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（250～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.67、0.22 ppm

食用ぎく（花弁）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（250～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.72、0.44 ppm

㉓きく

きく（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.29、0.22 ppm

㉔ふき

ふき（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.12、0.08 ppm

㉕葉ごぼう

葉ごぼう（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.60、1.14 ppm

⑳ すいぜんじな

すいぜんじな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、2.6 ppm

㉑ たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

㉒ 根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、<0.01 ppm

㉓ 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.22 ppm

㉔ いら

いら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）した後、1回散布（4kg/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.4、<0.4 ppm

㉕ アスパラガス

アスパラガス（若茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブ

ルの2000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.14、0.30 ppm

③8 わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.7、1.0 ppm

③9 にんじん

にんじん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、0.02 ppm

④0 パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）したところ、処理後50～75日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）したところ、処理後49～75日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.36 ppm

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（0.5g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、処理後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.4、1.3 ppm

④1 セルリー

セルリー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.30、0.68 ppm

④2 みつば



みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.77、2.50 ppm

④はまぼうふう

はまぼうふう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.10 ppm

④トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（3例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.12、0.14 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250、

257L/10a) したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.12、0.13 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない

イミダクロプリド：0.26、0.13 ppm。

#### ④⑤ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.24、0.52 ppm

#### ④⑥ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後46～62日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.01 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～3日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.20、0.60 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（150、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.8、0.8 ppm

#### ④⑦なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後47～75日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、処理後1～3日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.121、0.078 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤を2回常温煙霧処理（100g/5L/10a）したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.12 ppm

④⑧ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（300, 120L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.6、1.2 ppm

④⑨伏見甘長とうがらし

伏見甘長とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（300, 284.9L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.2、1.5 ppm

⑤⑩きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後38～51日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.010、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、処理後1～3日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.12 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤を3回常温煙霧処理（100g/5L/10a）したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.04 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を5回又は3回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、5回散布した試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.20 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（150～200, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.42、0.16 ppm

#### ㊦かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（188.9, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.04 ppm

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.09 ppm

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10 ppm

#### ㊧すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（10g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を4回又は3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、0.04 ppm

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（10g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.11、0.02 ppm

#### ㊨メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.01、0.01 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%水和剤の10,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.03 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%水和剤の5,000倍希釈液を3回散布（300, 250L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.03 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、<0.01 ppm

#### ㊦まくわうり

まくわうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（1g/株）したところ、処理後70～90日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

#### ㊧にがうり

にがうり（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.47、0.85 ppm

にがうり（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.42 ppm

#### ㊨ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.17 ppm

㉞ オクラ

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（186～189L、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.18 ppm

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（132～189L、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.12、0.21 ppm

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

㉟ さやいんげん

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～74日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.01、0.05 ppm

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（100、300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.30 ppm

㊱ さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）したところ、処理後100～130日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、<0.05 ppm

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.14 ppm

㊲ 未成熟だいず

未成熟だいず（えだまめ）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝処理（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、0.16 ppm

未成熟だいず（えだまめ）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（3kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、処理後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10、0.16 ppm

#### ⑥1 未成熟ささげ

未成熟ささげ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時植穴土壌混和（2g/株）したところ、処理後61～99日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

#### ⑥2 未成熟そらまめ

未成熟そらまめ（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.11、0.20 ppm

#### ⑥3 れんこん

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（6kg/10a）した後、2回散布（6kg/10a）したところ、散布後14～

21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）した後、2回散布（6kg/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

#### ⑥4 モロヘイヤ

モロヘイヤ（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、1.0 ppm

#### ⑥5 ふだんそう

ふだんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.70、2.01 ppm

#### ⑥6 食用さくら

食用さくら（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.80、0.36 ppm

#### ⑥7 さといも（葉柄）

さといも（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.48、0.30 ppm



さといも（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を植付時植溝土壤混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10、0.24 ppm

⑥⑧くわい

くわい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21～43日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑥⑨食用プリムラ

食用プリムラ（花器全体）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.23、0.18 ppm

⑦⑩じゅんさい

じゅんさい（葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回散布（3kg/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06 ppm

じゅんさい（葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回散布（3kg/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

⑦⑪うど

うど（軟化茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後60日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑦⑫ヤングコーン

ヤングコーン（幼果・雌穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（100～150L/10a）したところ、散布後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑦⑬温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（700, 500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.06 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（700, 500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.08、2.28 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.24、0.22 ppm

#### ④夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.43、0.66 ppm

夏みかん（果実全体）<sup>注3)</sup>を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15、0.25 ppm

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10

10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.19 ppm

夏みかん（果実全体）<sup>注3)</sup>を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.06 ppm

#### ㊦いよかん

いよかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

いよかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.22 ppm

いよかん（果実全体）<sup>注3)</sup>を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布 (2.5L/10a) したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.07 ppm

#### ㊧すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布 (250L/10a) したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03 ppm

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.15 ppm

㊦かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（600L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26 ppm

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05 ppm

㊧りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.120、0.029 ppm

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（600L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.12 ppm

㊨なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.197、0.060 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.14、0.19 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.06 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.13、0.12 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（350, 400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.15、0.20 ppm

#### ⑩びわ

びわ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02 ppm

びわ（果実・有袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04 ppm

びわ（果実・無袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.54 ppm

びわ（果実・有袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18 ppm

びわ（果実・無袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は

以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.19 ppm

⑩もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.195、0.140 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.593、0.388 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.12、0.11 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.53、0.70 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、0.07 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.30 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.16、0.14 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：1.2、2.2 ppm

㊸ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（15L/樹、700L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.28、0.18 ppm

㊹あんず

あんず（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（400L、300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.29、0.17 ppm

㊺すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.07、<0.01 ppm

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、<0.01 ppm

㊻うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.07、0.06 ppm

㊼いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（1g/株）したところ、処理後105～160日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、0.03 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（1g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.81、0.18 ppm

#### ㊦ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～30日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.338、0.256 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.28 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（4例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300, 300, 500, 300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.06、0.76、0.72 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.59、0.74 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を2回常温煙霧処理（10L/10a）したところ、処理後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.08 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を2回常温煙霧処理（10L/10a）したところ、処理後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、0.12 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000



倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.78、0.41 ppm

㉘かき

かき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.35、0.28 ppm

㉙キウイフルーツ

キウイフルーツ（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（278, 300L/10a）したところ、散布後1～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

㉚マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（450L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.49、0.45 ppm

㉛パッションフルーツ

パッションフルーツ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250, 625L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15、0.28 ppm

㉜アセロラ

アセロラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（500, 400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.18、0.30 ppm

㉝ピタヤ

ピタヤ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.11 ppm

④アテモヤ

アテモヤ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（270L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18 ppm

アテモヤ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02 ppm

⑤くり

くり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑥いちょう種子（ぎんなん）

いちょう（種子）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.005 ppm

いちょう（種子）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01 ppm

⑦茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後13～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.30、1.92 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後13～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.85、1.90 ppm

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：3.84、3.98 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.53、3.31 ppm

⑧ コリアンダー

コリアンダー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150、200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.49、1.07 ppm

⑨ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.4、1.4 ppm

⑩ しそ

しそ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.70、0.28 ppm

しそ（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.68、0.18 ppm

⑪ みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（1例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（350L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02 ppm

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（1例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.04 ppm

#### ⑩さんしょう

さんしょう（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後183, 196日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.1、<0.1 ppm

これらの試験結果の概要については、別紙1-1を参照。また、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

注3) 夏みかん及びいよかんの果実全体の値は、果肉及び果皮の平均値から算出している。

## 7. 畜産物の推定残留量

本農薬については、稲に適用があるため、飼料として給与した稲わらや稲発酵粗飼料を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、農林水産省から畜産物に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の最大残留農薬濃度と、JMPRにおける評価時に使用された動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留量を算出した。

### (1) 飼料中の残留農薬濃度

飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和51年農林省令第35号）に定める飼料一般の成分規格等と飼料の最大給与割合等から、飼料の摂取によって家畜が暴露されうる飼料中の残留農薬濃度を算出した。

本剤については、稲わら及び稲発酵粗飼料中に残留する農薬の指導基準として、それぞれ10ppm及び3ppmと設定されている。この指導基準や、前述の成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中に農薬が残留している場合を仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の最大残留農薬濃度

(Maximum Dietary Burden) を算出したところ、乳牛において8.1ppm、肉牛において7.7ppm、肉用鶏において0.81ppm、採卵鶏において0.58ppmと推定された。

また、指導基準値等の代わりに、作物残留試験の中央値 (STMR) を用いて求めた平均的な残留農薬濃度 (STMR dietary burden) は、乳牛6.9ppm、肉牛3.5ppm、肉用鶏0.39ppm及び採卵鶏0.10ppmと算出されている。

## (2) 動物飼養試験(家畜残留試験)

今回、畜産物中の推定残留量を算出するにあたっては、2002年に J M P R において評価された際に用いられた飼養試験の結果を参照した。

### ① 乳牛

乳牛に対し、飼料中濃度としてイミダクロプリド5、15、50ppm相当を含有するゼラチンカプセルを28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓中のイミダクロプリドを測定した。また、牛乳については、投与開始後、1、2、3、4、5、7、10、13、16、19、22、25、28 日目に搾乳したものを測定した (定量限界：0.02 ppm)。結果については表1を参照。

表1. 組織中の残留量 (ppm)

	5ppm 投与群	15ppm 投与群	50ppm 投与群
筋肉	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	0.033 (最大) 0.0273 (平均)	0.15 (最大) 0.121 (平均)
脂肪	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	0.078 (最大) 0.0637 (平均)
肝臓	0.054 (最大) 0.05 (平均)	0.166 (最大) 0.133 (平均)	0.537 (最大) 0.49 (平均)
腎臓	0.032 (最大) 0.028 (平均)	0.101 (最大) 0.085 (平均)	0.365 (最大) 0.286 (平均)
乳	<0.02 (平均)	0.0413 (平均)	0.154 (平均)

### ② 産卵鶏

産卵鶏に対し、飼料中濃度としてイミダクロプリド2、6、20ppm相当を含む飼料を30～32日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓中のイミダクロプリドを測定した。また、鶏卵については、投与開始後、1、2、3、5、6、7、8、9、12、13、15、17、18、19、21、24、25、27、29、30 日目に採卵したものを測定した (定量限界：0.02 ppm)。結果については表2を参照。

表2. 組織中の残留量 (ppm)

	2ppm 投与群	6ppm 投与群	20ppm 投与群
筋肉	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	0.021 (最大) 0.020 (平均)	0.072 (最大) 0.048 (平均)
脂肪	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	<0.02 (最大) <0.02 (平均)	<0.02 (最大) <0.02 (平均)
肝臓	0.042 (最大) 0.04 (平均)	0.159 (最大) 0.14 (平均)	0.0431 (最大) 0.35 (平均)
卵	<0.02 (平均)	0.049 (平均)	0.13 (平均)

(3) 推定残留量

飼養試験における投与量とMaximum Dietary Burden又は STMR dietary burdenを用いて算出した畜産物中の推定残留量を比較し、推定残留量の最大値を求めた。結果については表3-1及び表3-2を参照。

表3-1 畜産物中の推定残留量；牛 (ppm)

		筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
Maximum Dietary Burden	乳牛	0.024	<0.02	0.089	0.053	0.027
	肉牛	0.024	<0.02	0.084	0.051	
STMR Dietary Burden	乳牛	0.021	<0.02	0.066	0.039	0.024
	肉牛	<0.02	<0.02	0.035	0.020	
最大値		0.024	<0.02	0.089	0.053	0.027

表3-2 畜産物中の推定残留量；鶏 (ppm)

		筋肉	脂肪	肝臓	卵
Maximum Dietary Burden	肉用鶏	<0.02	<0.02	0.017	
	採卵鶏	<0.02	<0.02	0.012	<0.02
STMR Dietary Burden	肉用鶏	<0.02	<0.02	0.0079	
	採卵鶏	<0.02	<0.02	0.0020	<0.02
最大値		<0.02	<0.02	0.017	<0.02

8. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第2項の規定に基づき、平成18年9月4日付け厚生労働省発食安第0904005号及び同法第24条第1項第1号の規定に基づき、平成

19年2月23日付け厚生労働省発食安第0223003号により食品安全委員会あて意見を求めたイミダクロプリドに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：5.7 mg/kg体重/day  
(動物種)           ラット  
(投与方法)       混餌投与  
(試験の種類)     慢性毒性/発がん性併合試験  
(期間)            2年間  
安全係数：100  
ADI：0.057 mg/kg体重/day

## 9. 諸外国における状況

2001年にJMPRにおける毒性評価が行われADIが設定されている。国際基準がりんご、バナナ等に設定されている。

米国、カナダ、欧州連合(EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてアセロラ、アボカド等に、カナダにおいてレタス、おうとう等に、オーストラリアにおいてりんご、バナナ等に、ニュージーランドにおいてかんきつ類果実、たまねぎ等に基準値が設定されている。

## 10. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

イミダクロプリド本体

なお、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価においては、暴露評価対象物質としてイミダクロプリド(親化合物のみ)と設定している。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

### (3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のイミダクロプリドが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量(理論一日最大摂取量(TMDI))のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMD I / AD I (%) <sup>注)</sup>
国民平均	32.7
幼小児 (1~6歳)	65.4
妊婦	25.6
高齢者 (65歳以上)	34.1

注) TMD I 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

- (4) 本剤については、平成17年11月29日付け厚生労働省告示第499号により、食品一般の成分規格7に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。



## イミダクロプリド作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
稲 (玄米)	2	2%粒剤	80g/箱 箱施用	1回	133日 111日	圃場A:<0.005 圃場B:<0.005	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤	80g/箱 箱施用	1回	133日 111日	圃場A:0.01 圃場B:0.03	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +4kg/10a 水面施用	1+1回	88日 66日	圃場A:<0.005 (2回、88日) 圃場B:<0.005 (2回、66日) (#)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +4kg/10a 水面施用	1+1回	133日 111日	圃場A:0.01 (2回、88日) 圃場B:0.04 (2回、66日) (#)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +0.25%粉剤	80g/箱 箱施用 +4kg/10a 散布	1+2回	21, 28日	圃場A:0.038 (3回、21日) 圃場B:0.018 (3回、21日)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +0.25%粉剤	80g/箱 箱施用 +4kg/10a 散布	1+2回	21, 28日	圃場A:0.40 (3回、21日) 圃場B:0.32 (3回、21日)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +3kg/10a 水面施用	1+2回	80日 70日	圃場A:<0.005 (3回、80日) 圃場B:0.006 (3回、70日)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +3kg/10a 水面施用	1+2回	80日 70日	圃場A:0.04 (3回、80日) 圃場B:0.06 (3回、70日)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +2000倍散布 120, 150L/10a	1+2回	30, 45日 28, 45日	圃場A:0.058 (3回、30日) 圃場B:0.036 (3回、28日)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +2000倍散布 120, 150L/10a	1+2回	30, 45日 28, 45日	圃場A:0.18 (3回、30日) 圃場B:0.24 (3回、28日)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	30, 44日 30, 45日	圃場A:0.076 (3回、30日) 圃場B:0.030 (3回、30日)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	30, 44日 30, 45日	圃場A:0.22 (3回、30日) 圃場B:0.28 (3回、30日)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	28, 42日	圃場A:0.08 (3回、28日) 圃場B:0.02 (3回、28日)	
水稻 (玄米)	2	10%水和剤	50倍灌注 0.5L/箱 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	30, 45日 28, 42日	圃場A:0.04 (3回、30日) (#) 圃場B:0.04 (3回、28日) (#)	
水稻 (玄米)	1	10%水和剤	200g/種子3kg 処理 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	28日	圃場A:0.08 (3回、28日)	
水稻 (玄米)	2	10%水和剤	200g/種子3kg 処理 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	28, 42日	圃場A:0.16 (3回、28日) 圃場B:0.09 (3回、28日)	
稲 (玄米)	2	20%顆粒水和剤	50倍 250mL/箱 苗箱灌注	1回	120日	圃場A:<0.01 (1回、120日) (#) 圃場B:<0.01 (1回、120日) (#)	
稲 (稲わら)	2	20%顆粒水和剤	50倍 250mL/箱 苗箱灌注	1回	120日	圃場A:<0.02 (1回、120日) (#) 圃場B:<0.02 (1回、120日) (#)	
稲 (玄米)	2	20%顆粒水和剤 +10%水和剤	50倍灌注 0.5L/箱 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	27, 43日 28, 42日	圃場A:0.05 (3回、27日) (#) 圃場B:0.03 (3回、28日) (#)	
稲 (稲わら)	2	20%顆粒水和剤 +10%水和剤	50倍灌注 0.5L/箱 +2000倍散布 150L/10a	1+2回	27, 43日 28, 42日	圃場A:0.08 (3回、27日) (#) 圃場B:0.02 (3回、28日) (#)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +50%顆粒水和剤	80g/箱 箱施用 +5000倍散布 150L/10a	1+2回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 20, 29日	圃場A:0.22 (3回、14日) (#) 圃場B:0.31 (3回、14日) (#)	
稲 (稲わら)	2	20%顆粒水和剤 +10%水和剤	80g/箱 箱施用 +5000倍散布 150L/10a	1+2回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 20, 29日	圃場A:3.39 (3回、7日) (#) 圃場B:1.38 (3回、7日) (#)	
稲 (玄米)	2	50%顆粒水和剤	125倍 250mL/箱 苗箱灌注 +5000倍散布 150L/10a	1+2回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 20, 29日	圃場A:0.26 (3回、14日) (#) 圃場B:0.28 (3回、14日) (#)	
稲 (稲わら)	2	50%顆粒水和剤	125倍 250mL/箱 苗箱灌注 +5000倍散布 150L/10a	1+2回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 20, 29日	圃場A:2.96 (3回、7日) (#) 圃場B:1.36 (3回、7日) (#)	
稲 (玄米)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +3kg/10a 散布	1+2回	35, 49, 56日 38日	圃場A:0.02 (3回、35日) 圃場B:0.02 (3回、38日)	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤 +1%粒剤	80g/箱 箱施用 +3kg/10a 散布	1+2回	35, 49, 56日 38日	圃場A:0.56 (3回、35日) 圃場B:0.12 (3回、38日)	
小麦 (玄麦)	2	10%水和剤 +50%顆粒水和剤	種子重量の0.15% は種前塗沫処理 +15000倍散布 200, 150L/10a	1+2回	21, 28日	圃場A:0.013 (3回、21日) (#) 圃場B:<0.005 (3回、21日)	
小麦 (玄麦)	2	10%水和剤 +50%顆粒水和剤	種子重量の0.15% は種前塗沫処理 +10000倍散布 200, 150L/10a	1+2回	21, 28日	圃場A:0.016 (3回、21日) (#) 圃場B:<0.005 (3回、21日) (#)	

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	圃場A	圃場B
とうもろこし (乾燥種子)	2	20%フロアブル	100cc/種子 3kg 種子塗沫 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
とうもろこし (生食用子実)	2	20%フロアブル	100cc/種子 3kg 種子塗沫 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
とうもろこし (脱穀種子)	2	20%フロアブル	100mL/種子 3kg 種子塗沫 +60倍無人ヘリ散布 3L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
とうもろこし (生食用子実)	2	20%フロアブル	100mL/種子 3kg 種子塗沫 +60倍無人ヘリ散布 3L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
だいず (乾燥子実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	3kg/10a 播種時播溝処理 +4000倍散布 200L/10a	1+2回	28, 42日	圃場A:0.01 (3回、28日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、28日) (#)	
あずき (乾燥子実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	4kg/10a 播種時播溝処理 +5000倍散布 150L/10a	1+2回	28日	圃場A:0.05 (3回、28日) (#) 圃場B:0.04 (3回、28日) (#)	
らつかせい (乾燥子実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	3kg/10a 播種時播溝処理 +10000倍散布 200L/10a	1+2回	28, 42日	圃場A:<0.05 (3回、28日) 圃場B:<0.05 (3回、28日)	
ばれいしょ (塊茎)	2	70%水和剤 +10%水和剤	100g/水1L/いも200kg 種いも処理 +1000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:0.186 (3回、14日) (#) 圃場B:0.020 (3回、14日) (#)	
ばれいしょ (塊茎)	2	1%粒剤 +10%水和剤	4kg/10a 播種時播溝処理 +1000倍散布 200L/10a	1+3回	14, 21日	圃場A:0.02 (3回、14日) (#) 圃場B:0.02 (3回、21日) (#)	
ばれいしょ (塊茎)	2	10%水和剤	15倍無人ヘリ散布 3L/10a	2回	14, 21日	圃場A:<0.02 圃場B:<0.02	
ばれいしょ (塊茎)	2	10%水和剤	1000倍散布 200L/10a	2回	14, 21日	圃場A:<0.02 圃場B:<0.02	
ばれいしょ (塊茎)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	4kg/10a 植付時植溝土壌混和 +5000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:0.02 (3回、21日) 圃場B:<0.01	
さといも (球茎)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +4000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
かんしょ (塊根)	2	50%顆粒水和剤	10000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
かんしょ (塊根)	2	50%顆粒水和剤	10000倍株元土壌灌注 800L/10a +10000倍散布 300L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.01 (3回、7日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、7日) (#)	
やまのいも (塊茎)	2	1%粒剤 +10%水和剤	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +200倍散布 300L/10a	1+2回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)	
やまのいも (むかご)	2	1%粒剤	4kg/10a 植付時植溝土壌混和	1回	210日 140日	圃場A:0.06 (1回、210日) 圃場B:<0.05 (1回、140日)	
こんにゃくいも (球茎)	2	1%粒剤	6kg/10a 培土時土壌混和 +6kg/10a 散布	1+1回	21, 30日	圃場A:<0.01 (2回、21日) (#) 圃場B:0.02 (2回、21日) (#)	
てんさい (根部)	2	10%水和剤	100g/6L/6冊/10a 苗箱灌注 +1000倍散布 200L/10a	1+2回	21, 28日	圃場A:<0.01 (3回、21日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、21日) (#)	
てんさい (根部)	2	70%原末 +10%水和剤	130g/Unit コート種子処理 +1000倍散布 200L/10a	1+2回	21, 28日	圃場A:<0.01 (3回、21日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、21日) (#)	
てんさい (根部)	2	50%顆粒水和剤	300倍灌注 1L/冊 +5000倍散布 200L/10a	1+2回	21日	圃場A:<0.01 (3回、21日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、21日) (#)	
だいこん (根部)	2	1%粒剤	6kg/10a 播種時土壌混和	1回	42, 57日 57, 67日	圃場A:0.014 (1回、42日) 圃場B:0.011 (1回、67日)	
だいこん (葉部)	2	1%粒剤	6kg/10a 播種時土壌混和	1回	42, 57日 57, 67日	圃場A:0.013 (1回、42日) 圃場B:0.022 (1回、57日)	
だいこん (根部)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	6kg/10a 播種時播溝土壌混和 +4000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
だいこん (葉部)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	6kg/10a 播種時播溝土壌混和 +4000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:0.20 圃場B:0.01	
はくさい (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.06 (2回、7日) (#) 圃場B:0.11 (2回、7日) (#)	
はくさい (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.06 圃場B:0.06	
はくさい (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	1g/株 定植時土壌混和 +2000倍散布 200, 230, 4L/10a	1+2回	7, 14日	圃場A:0.05 (3回、7日) (#) 圃場B:0.13 (3回、7日) (#)	

農作物	試験圃 場数	試験条件				経過日数	最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】
		剤型	使用量・使用方法	回数			
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.04 (2回、7日) (#) 圃場B:0.21 (2回、7日) (#)	
キャベツ (葉球)	1	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.02 (3回、7日) (#)	
キャベツ (葉球)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	0.5g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 300L/10a	1+2回	7, 14日	圃場A:0.16 (3回、7日) (#) 圃場B:0.05 (3回、7日) (#)	
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	200倍 0.5L/トレイ 定植時苗灌注 +2000倍散布 300L/10a	1+2回	7, 14日	圃場A:0.20 (3回、7日) (#) 圃場B:0.07 (3回、7日) (#)	
芽キャベツ (芽球)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:<0.2 圃場B:<0.2	
みずな (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	1回	3, 7, 14日	圃場A:1.36 (1回、3日) 圃場B:2.39 (1回、3日)	
みずな (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:1.30 圃場B:2.20	
ブロッコリー (花蕾)	2	20%フロアブル +1%粒剤 +20%フロアブル	20倍 0.5L/トレイ 定植時苗灌注 +0.5g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 150, 300L/10a	1+1 +2回	3, 7, 14日	圃場A:0.28 (4回、3日) (#) 圃場B:1.94 (4回、3日) (#)	
ブロッコリー (花蕾)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150, 300L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.40 圃場B:2.30	
非結球芽キャベツ (本葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:<0.2 圃場B:<0.2	
非結球芽キャベツ (えき芽葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.5 圃場B:<0.2	
畑わさび (葉柄+根茎)	1	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.04	
畑わさび (葉+葉柄+根茎)	1	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.25	
畑わさび (葉+葉柄+根茎)	3	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.38 圃場B:0.38 圃場C:0.75	
わさび (花+花茎)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21, 28日	圃場A:2.30 (#) 圃場B:0.74 (#)	
わさび (葉+葉柄)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21, 28日	圃場A:1.37 (#) 圃場B:0.27 (#)	
わさび (根+根茎)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.2 (#) 圃場B:0.06 (#)	
なばな (花茎)	2	50%顆粒水中和剤	10000倍散布 250L/10a	2回	7, 14日	圃場A:1.61 圃場B:0.46	
ごぼう (根部)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
レタス (莖葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 105-150, 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.08 (2回、7日) (#) 圃場B:0.10 (2回、14日) (#)	
レタス (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 105-150, 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.09 圃場B:0.08 (2回、14日)	
レタス (莖葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	0.5g/株 定植時土壌混和 +4000倍散布 200, 230L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.46 圃場B:0.17	
レタス (莖葉)	2	20%フロアブル	200倍 0.5L/トレイ 定植時苗灌注 +4000倍散布 200, 230L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.47 (3回、7日) (#) 圃場B:0.19 (3回、7日) (#)	
サラダ菜 (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.4 圃場B:0.2 (2回、14日)	
リーフレタス (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.8 圃場B:0.2	
エンダイブ (莖葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200, 303-560.6L/10a	2回	7, 14日	圃場A:2.26 圃場B:2.21 (2回、7日) (#)	

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
食用ぎく (花卉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 250-300L/10a	1回	7, 14日	圃場A:0.67 圃場B:0.28
食用ぎく (花卉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 250-300L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.72 圃場B:0.44
きく (葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.29 圃場B:0.22
ふき (茎)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.12 圃場B:0.08
葉ごぼう (可食部)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.60 圃場B:1.14
すいぜんじな (茎葉)	2	50%顆粒水和剤	10000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.4 圃場B:2.6
たまねぎ (鱗茎)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 200L/10a	2回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
たまねぎ (鱗茎)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	4kg/10a 定植時土壌混和 +5000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#) 圃場B:<0.01 (3回、14日) (#)
根深ねぎ (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:0.16 圃場B:<0.01
葉ねぎ (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:0.04 圃場B:0.22
にら (茎葉)	2	1%粒剤	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +4kg/10a 散布	1+1回	30, 45, 60日	圃場A:<0.4 圃場B:<0.4
アスパラガス (若茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.14 (2回、1日) (#) 圃場B:0.30 (2回、1日) (#)
わけぎ (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	4kg/10a 定植時植溝土壌混和 +2000倍散布 300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.7 圃場B:1.0
にんじん (根部)	2	50%顆粒水和剤	10000倍散布 200, 300L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.02
パセリ (茎葉)	1	1%粒剤	0.5g/株 定植時植穴処理	1回	50, 60, 75日	圃場A:0.16 (1回、50日)
パセリ (茎葉)	1	1%粒剤	0.5g/株 定植時植穴処理	1回	49, 60, 75日	圃場A:0.36 (1回、49日)
パセリ (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	0.5g/株 定植時植溝土壌混和 +4000倍散布 200L/10a	1+1回	14, 21日	圃場A:1.4 圃場B:1.3
セルリー (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.30 圃場B:0.68
みつば (茎葉)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.77
みつば (茎葉)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.50
はまぼうふう (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.18 圃場B:0.10
トマト (果実)	3	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.04 圃場B:0.12 (3回、7日) 圃場C:0.14
トマト (果実)	1	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+1回	1, 3, 7日	圃場A:0.08 (2回、3日)
トマト (果実)	1	10%水和剤	2000倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.06 (1回、1日)
トマト (果実)	1	10%水和剤	2000倍散布 200L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.08 (2回、3日)
トマト (果実)	1	10%水和剤	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.15
トマト (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +10000倍散布 250, 257L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.13
トマト (果実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 300L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.26 (3回、1日) (#) 圃場B:0.13 (3回、3日) (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ミニトマト (果実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 200, 300L/10a	1+2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.24 (3回、7日) (#) 圃場B:0.52 (3回、14日) (#)
ピーマン (果実)	2	1%粒剤	2g/株 定植時植穴処理	1回	46, 61日 52, 62日	圃場A:0.08 (1回、61日) 圃場B:0.01 (1回、52日)
ピーマン (果実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	1, 3日	圃場A:1.20 圃場B:0.60 (3回、3日)
ピーマン (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +5000倍散布 150, 200L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.8 圃場B:0.8
なす (果実)	2	1%粒剤	2g/株 定植時植穴処理	1回	47, 57日 65, 75日	圃場A:<0.005 (1回、47日) 圃場B:<0.005 (1回、65日)
なす (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	1, 3日	圃場A:0.121 圃場B:0.078
なす (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +100g/5L/10a 常温煙霧処理	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.04 圃場B:0.12
ししとう (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +5000倍散布 300, 120L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:1.6 (3回、1日) (#) 圃場B:1.2 (3回、1日) (#)
伏見甘長とうがらし (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +5000倍散布 300, 289.4L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:1.2 (3回、3日) (#) 圃場B:1.5 (3回、1日) (#)
きゅうり (果実)	2	1%粒剤	2g/株 定植時植穴処理	1回	41, 51日 38, 48日	圃場A:0.010 (1回、41日) 圃場B:<0.005 (1回、38日)
きゅうり (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+3回	1, 3日	圃場A:0.18 圃場B:0.12
きゅうり (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +100g/5L/10a 常温煙霧処理	1+3回	1, 3日 1, 3, 7日	圃場A:0.04 圃場B:0.04
きゅうり (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴処理 +10000倍散布 250L/10a	1+5回 1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.08(6回、3日) (#) 圃場B:0.20
きゅうり (果実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 150-200, 300L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.42 (4回、1日) (#) 圃場B:0.16 (4回、1日) (#)
かぼちゃ (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +10000倍散布 188.9, 200L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.02 圃場B:0.04
かぼちゃ (果実)	1	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +4000倍散布 300L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.09
かぼちゃ (果実)	1	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +4000倍散布 300L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10
すいか (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	10g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+4回 1+3回	3, 7日	圃場A:<0.01 (5回、3日) (#) 圃場B:0.04 (4回、3日) (#)
すいか (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	10g/株 定植時植穴土壌混和 +5000倍散布 300L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.11(3回、3日) (#) 圃場B:0.02(3回、3日) (#)
メロン (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 200L/10a	1+3回	3, 7日	圃場A:0.01(3回、7日) 圃場B:0.01
メロン (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +10000倍散布 250L/10a	1+3回	3, 7日	圃場A:0.03 圃場B:0.03
メロン (果実)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +5000倍散布 300, 250L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.03 圃場B:0.03(4回、7日)
メロン (果実)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	2g/株 定植時植穴土壌混和 +2000倍散布 300L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.02 圃場B:<0.01
まくわうり (果実)	2	1%粒剤	1g/株 定植時植穴土壌混和	1回	70, 80, 90日	圃場A:<0.02 (1回、70日) 圃場B:<0.02 (1回、70日)
にがうり (可食部)	2	10%水和剤	1000倍散布 250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.47 (2回、1日) (#) 圃場B:0.85 (2回、3日) (#)
にがうり (可食部)	2	10%水和剤	2000倍散布 250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.16 圃場B:0.42
ほうれんそう (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.03 圃場B:0.17

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	圃場A	圃場B
オクラ (さや)	2	20%フロアブル	4000倍散布 186-189L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.18 圃場B:0.18	
オクラ (さや)	2	20%フロアブル	4000倍散布 132-189L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.21	
オクラ (さや)	1	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.16	
さやいんげん (さや)	2	1%粒剤	2g/株 定植時植穴処理	1回	48, 67日 64, 74日	圃場A:0.01 (1回、48日) 圃場B:0.05 (1回、64日)	
さやいんげん (さや)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +10000倍散布 100, 300L/10a	1+2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.18 圃場B:0.30	
さやえんどう (さや)	2	1%粒剤	2g/株 定植時植穴土壌混和	1回	117, 123, 130日 100, 106, 113日	圃場A:0.06 (1回、117日) 圃場B:<0.05 (1回、100日)	
さやえんどう (さや)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +10000倍散布 300L/10a	1+2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.20 圃場B:0.14	
未成熟だいず (えだまめ)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	3kg/10a 播種時播溝処理 +4000倍散布 200L/10a	1+2回	7, 14日 7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:0.16	
未成熟だいず (えだまめ)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	2g/株 定植時植穴土壌混和 +10000倍散布 200L/10a	1+2回	14日	圃場A:0.10 圃場B:0.16	
未成熟ささげ (さや)	2	1%粒剤	2g/株 播種時植穴土壌混和	1回	61, 67, 74日 85, 92, 99日	圃場A:<0.05 (1回、61日) 圃場B:<0.05 (1回、85日)	
未成熟そらまめ (可食部)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.11 圃場B:0.20	
れんこん (可食部)	2	0.25%粒剤	4kg/10a 散布	2回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
れんこん (可食部)	2	1%粒剤 +0.25%粉剤	3kg/10a 植付時作条土壌混和 +4kg/10a 散布	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
れんこん (可食部)	1	1%粒剤 +20%フロアブル	3kg/10a 植付時作条土壌混和 +4000倍散布 150L/10a	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01	
れんこん (可食部)	1	1%粒剤	6kg/10a 植付時作条土壌混和 +6kg/10a 散布	1+2回	14, 21日	圃場A:<0.01 (3回、14日) (#)	
モロヘイヤ (可食部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	1回	14日	圃場A:0.4 圃場B:1.0	
ふだんそう (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	2回	7日	圃場A:1.70 圃場B:2.01	
食用さくら (葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	1回	3, 7, 14日	圃場A:0.80 圃場B:0.36	
さといも (葉柄)	2	50%顆粒水和剤	10000倍散布 200L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.48 (2回、3日) 圃場B:0.30 (2回、3日)	
さといも (葉柄)	2	1%粒剤 +50%顆粒水和剤	4kg/10a 植付時植溝土壌混和 +10000倍散布 200L/10a	1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10 圃場B:0.24	
くわい (塊茎)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	3回	21, 30, 42日 21, 28, 43日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
食用プリムラ (花器全体)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.23 圃場B:0.18	
じゅんさい (葉)	1	1%粒剤	3kg/10a 散布	1回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.06	
じゅんさい (葉)	1	1%粒剤	3kg/10a 散布	1回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.16 (1回、3日)	
うど (軟化茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	60日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
ヤングコーン (幼果・雌穂)	2	20%フロアブル	4000倍散布 100~150L/10a	2回	6, 14, 20日 3, 7, 14, 21日	圃場A:<0.01 (2回、6日) 圃場B:<0.01	

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
温州みかん (果肉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 700, 500L/10a	3回	14, 30, 45日	圃場A: 0.02 圃場B: 0.06
温州みかん (果皮)	2	20%フロアブル	2000倍散布 700, 500L/10a	3回	14, 30, 45日	圃場A: 1.08 圃場B: 2.28
温州みかん (果肉)	2	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: <0.01 (3回、14日) (#) 圃場B: <0.01 (3回、14日) (#)
温州みかん (果皮)	2	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.24 (3回、14日) (#) 圃場B: 0.22 (3回、14日) (#)
夏みかん (果肉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	14, 21日	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
夏みかん (果皮)	2	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	14, 21日	圃場A: 0.43 圃場B: 0.66
夏みかん (果実全体)	2	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	3回	14, 21日	圃場A: 0.15 圃場B: 0.25 (3回、21日)
夏みかん (果肉)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: <0.01 (3回、14日) (#)
夏みかん (果皮)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.19 (3回、14日) (#)
夏みかん (果実全体)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.06 (3回、14日) (#)
いよかん (果肉)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: <0.01 (3回、14日) (#)
いよかん (果皮)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.22 (3回、14日) (#)
いよかん (果実全体)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.07 (3回、14日) (#)
すだち (果実)	1	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A: 0.03
すだち (果実)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	14日	圃場A: 0.15 (3回、14日) (#)
かぼす (果実)	1	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A: 0.26
かぼす (果実)	1	20%フロアブル	10倍無人ヘリ散布 2.5L/10a	3回	15日	圃場A: 0.05 (3回、14日) (#)
りんご (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 500L/10a	2回	21, 30, 45日	圃場A: 0.120 (2回、30日) 圃場B: 0.029 (2回、21日)
りんご (果実)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 600L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A: 0.20 圃場B: 0.12
なし (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 400L/10a	2回	30, 37日 30, 45日	圃場A: 0.197 (2回、30日) 圃場B: 0.060 (2回、30日)
なし (果実)	2	20%フロアブル	2500倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.14 (2回、14日) (#) 圃場B: 0.19 (2回、14日) (#)
なし (果実)	2	20%フロアブル	5000倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.08 (2回、14日) 圃場B: 0.06 (2回、14日)
なし (果実)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 400L/10a	2回	28, 42日	圃場A: 0.13 (2回、28日) 圃場B: 0.12 (2回、28日)
なし (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 350, 400L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A: 0.15 (2回、3日) (#) 圃場B: 0.20 (2回、3日) (#)
びわ (果実 (有袋))	1	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: <0.02
びわ (果実 (有袋))	1	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.04
びわ (果実 (無袋))	1	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 2.54
びわ (果実 (有袋))	1	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.18
びわ (果実 (無袋))	1	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.19 (2回、14日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				経過日数	最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】
		剤型	使用量・使用方法	回数			
もも (果肉)	2	10%水和剤	1000倍散布 400L/10a	2回	30, 45日	圃場A: 0.195 (2回、30日) 圃場B: 0.140 (2回、30日)	
もも (果皮)	2	10%水和剤	1000倍散布 400L/10a	2回	30, 45日	圃場A: 0.593 (2回、30日) 圃場B: 0.388 (2回、30日)	
もも (果肉)	2	20%フロアブル	2500倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.12 (2回、14日) (#) 圃場B: 0.11 (2回、14日) (#)	
もも (果皮)	2	20%フロアブル	2500倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.53 (2回、14日) (#) 圃場B: 0.70 (2回、14日) (#)	
もも (果肉)	2	20%フロアブル	5000倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.06 (2回、14日) 圃場B: 0.07 (2回、14日)	
もも (果皮)	2	20%フロアブル	5000倍散布 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 0.26 (2回、14日) 圃場B: 0.30 (2回、14日)	
もも (果肉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A: 0.16 (2回、3日) (#) 圃場B: 0.14 (2回、3日) (#)	
もも (果皮)	2	20%フロアブル	2000倍散布 400L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A: 1.2 (2回、3日) (#) 圃場B: 2.2 (2回、3日) (#)	
ネクタリン (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 15L/樹, 700L/10a	2回	14, 21日	圃場A: 0.28 圃場B: 0.18 (2回、21日)	
あんず (果実)	2	20%フロアブル	5000倍散布 400, 300L/10a	2回	7, 11, 18日 7, 14, 21日	圃場A: 0.29 圃場B: 0.17	
すもも (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 300, 400L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.07 (2回、21日) (#) 圃場B: <0.01 (2回、21日) (#)	
すもも (果実)	2	10%水和剤	2000倍散布 300, 400L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.04 圃場B: <0.01	
うめ (果実)	2	10%水和剤	2000倍散布 300, 400L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.07 圃場B: 0.06	
いちご (果実)	2	1%粒剤	1g/株 定植時植穴処理	1回	105, 113日 150, 160日	圃場A: 0.01 (1回、105日) (#) 圃場B: 0.03 (1回、150日) (#)	
いちご (果実)	2	1%粒剤 +10%水和剤	1g/株 定植時植穴処理 +2000倍散布 200L/10a	1+2回	3日	圃場A: 0.81 (#) 圃場B: 0.18 (#)	
ぶどう (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	2回	21, 30日	圃場A: 1.338 圃場B: 0.256	
ぶどう (果実)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.16 (2回、28日) (#) 圃場B: 0.28 (2回、21日) (#)	
ぶどう (果実)	4	20%フロアブル	5000倍散布 300, 300, 500, 300L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.26 圃場B: 0.06 (2回、28日) 圃場C: 0.76 圃場D: 0.72	
ぶどう (果実)	2	20%フロアブル	4000倍散布 300L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.59 (2回、28日) (#) 圃場B: 0.74 (2回、21日) (#)	
ぶどう (果実)	2	10%水和剤	50倍常温煙霧 10L/10a	2回	21, 30, 45日	圃場A: 0.08 (2回、21日) (#) 圃場B: 0.08 (2回、30日) (#)	
ぶどう (果実)	2	10%水和剤	50倍常温煙霧 10L/10a	2回	21, 30, 45日	圃場A: 0.06 (2回、21日) (#) 圃場B: 0.12 (2回、21日) (#)	
ぶどう (果実)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 300L/10a	2回	21, 28日	圃場A: 0.78 圃場B: 0.41 (2回、28日)	
かき (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 500L/10a	3回	7, 14, 21日 7, 15, 21日	圃場A: 0.35 (3回、21日) 圃場B: 0.28	
キウイフルーツ (果肉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 278, 300L/10a	2回	1, 7, 14, 21日	圃場A: <0.05 圃場B: <0.05	
マンゴー (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 450L/10a	2回	14, 21, 30日	圃場A: 0.49 (2回、14日) (#) 圃場B: 0.45 (2回、14日) (#)	
パッションフルーツ (果実)	2	50%顆粒水和剤	10000倍散布 250, 625L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.15 圃場B: 0.28	



農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【イミダクロプリド】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
アセロラ (果実)	2	20%フロアブル	4000倍散布 500, 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.18 (2回、7日) (#) 圃場B:0.30 (2回、7日) (#)	
ビタヤ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.26 圃場B:0.11	
アテモヤ (果実)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 270L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.18	
アテモヤ (果実)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:<0.02	
くり (果実)	2	10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	3回	7, 14, 21日 7, 13, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01	
いちよう (種子・ぎんなん)	1	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	1, 7, 14日	圃場A:<0.005 (#)	
いちよう (種子・ぎんなん)	1	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	1, 7, 14日	圃場A:0.01 (#)	
茶 (荒茶)	2	10%水和剤	1000倍散布 200L/10a	1回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:2.30 (1回、13日) 圃場B:1.92 (1回、14日)	
茶 (浸出液)	2	10%水和剤	1000倍散布 200L/10a	1回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:1.85 (1回、13日) 圃場B:1.90 (1回、14日)	
茶 (荒茶)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:3.84 圃場B:3.98	
茶 (浸出液)	2	50%顆粒水和剤	5000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:2.53 圃場B:3.31	
コリアンダー (茎葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150, 200L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:1.49 圃場B:1.07	
あさつき (茎葉)	2	1%粒剤 +20%フロアブル	4kg/10a 定植時植溝処理土壌混和 +2000倍散布 300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:2.4 圃場B:1.4	
しそ (葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 200L/10a	1回	7, 10, 14, 21日	圃場A:0.70 圃場B:0.28	
しそ (花穂)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.68 圃場B:0.18	
みょうが (花穂)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 350L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:<0.02	
みょうが (花穂)	1	50%顆粒水和剤	10000倍散布 300L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:<0.04	
さんしょう (葉)	2	20%フロアブル	4000倍散布 150L/10a	3回	183日 196日	圃場A:<0.1 圃場B:<0.1	

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「イミダクロプリド」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

イミダクロプリド海外作物残留試験一覧表

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
大豆 (子実)	3	48.7%フロアブル	10.0 oz. ai/cwt(100ポンド種子) (6.25 g ai/kg種子) 種子塗沫	1	115 176 104	圃場A: 0.47 (#) 圃場B: 0.16 (#) 圃場C: 0.51 (#)
大豆 (子実)	21	480g/Lフロアブル	0.25 lb ai/cwt(2.50g ai/kg種子)、種子塗沫 + 0.047lb. ai/A(0.053 kg ai/ha)、散布	1+3 (計4)	19 20 21 21 19 20 21 20 19 19 21 20 21 32 21 21 25 25 7, 14, 21, 28, 34 8, 14, 20, 27, 34	圃場A: 0.249 (#) 圃場B: 0.411 (#) 圃場C: 0.712 (#) 圃場D: 0.429 (#) 圃場E: 0.194 (#) 圃場F: 0.148 (#) 圃場G: 0.203 (#) 圃場H: 0.455 (#) 圃場I: 0.517 (#) 圃場J: 0.645 (#) 圃場K: 2.04 (#) 圃場L: 0.652 (#) 圃場M: 0.734 (#) 圃場N: 0.029 (#) 圃場O: 1.60 (#) 圃場P: 0.665 (#) 圃場Q: 0.065 (#) 圃場R: 0.069 (#) 圃場S: 0.093 (#) 圃場T: 0.54 (21日) (#) 圃場U: 0.041 (8日) (#)
いんげん (子実)	11	40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50 g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1+3	7 8 7 7 6 6 7 8 8	圃場A: 0.766 (#) 圃場B: 0.269 (#) 圃場C: 0.229 (#) 圃場D: 1.120 (#) 圃場E: 0.698 (#) 圃場F: 0.762 (#) 圃場I: 0.890 (#) 圃場J: 0.350 (#) 圃場L: 0.516 (#)
		40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50 g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.108 lb. ai/A(0.12 mg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1+3	6 7	圃場G: 0.214 (#) 圃場H: 0.133 (#)
未成熟いんげん (さや)	6	40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50 g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.375 lb. ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1+2	6 7 0, 3, 7, 13 7 6 7	圃場A: <0.05 (#) 圃場B: 0.42 (#) 圃場C: 0.65 (7日) (#) 圃場D: 0.89 (#) 圃場E: 0.26 (#) 圃場F: 0.59 (#)
えんどう (子実)	6	40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.375lb. ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、茎葉散布	1+1+3	8 8 3, 7, 13 7 7	圃場A: 0.138 (#) 圃場B: 0.322 (#) 圃場C: 1.030 (13日) (#) 圃場D: 0.905 (#) 圃場E: 0.940 (#) 圃場F: 0.196 (#)

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
えんどう (多汁子実)	6	40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.375lb. ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1+3	7	圃場A: 0.538 (#)
					6	圃場B: 0.424 (#)
					7	圃場C: 0.311 (#)
					7	圃場D: 0.877 (#)
					8	圃場E: 0.620 (#)
					3, 7, 14	圃場F: 1.060 (7日) (#)
えんどう (食用さや)	4	40.7%フロアブル +21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	4.0 oz ai/cwt(2.50g ai/kg種子)、種子塗沫 +0.375lb. ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1+3	7	圃場A: 0.195 (#)
					6	圃場B: 3.849 (#)
					3, 7, 14	圃場C: 0.922 (7日) (#)
					7	圃場D: 0.267 (#)
にんじん (根部)	6	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+3	7	圃場A: 0.0896(畝処理量: 0.630 lb ai/A) (#)
					7	圃場B: <0.05 (散布: 4回、合計: 5回) (#)
					7	圃場C: <0.05
					7	圃場D: <0.05
					7	圃場E: <0.05
					7	圃場F: <0.05
にんじん(葉部)	6	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+3	7	圃場A: 1.882(畝処理量: 0.630 lb ai/A) (#)
					7	圃場B: 1.354 (散布: 4回、合計: 5回) (#)
					7	圃場C: 1.940
					7	圃場D: 4.462
					7	圃場E: 3.863
					7	圃場E: 1.513
ビート [カエンサイ] (根部)	5	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+3	6	圃場A: 0.262
					8	圃場B: 0.352
					7	圃場C: 0.300
					8	圃場D: <0.100
					7	圃場E: <0.100
ビート [カエンサイ] (葉部)	5	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+3	6	圃場A: 2.84
					8	圃場B: 1.40
					7	圃場C: 3.78
					8	圃場D: 2.99
					7	圃場E: 3.14
ラディッシュ (根部)	4	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1	7	圃場A: <0.05(畝処理量: 0.612lb ai/A) (#)
					7	圃場B: 0.130
					7	圃場C: <0.05
					3, 7, 12	圃場D: <0.05 (7日) (#)
ラディッシュ (葉部)	4	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)、畝処理 +0.044 lb ai/A(0.05 kg ai/ha)、散布	1+1	7	圃場A: 1.801 (畝処理量: 0.612lb ai/A) (#)
					7	圃場B: 2.744
					7	圃場C: 0.702
					3, 7, 12	圃場D: 0.534 (7日)

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】 (*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ばれいしょ (塊茎)	19	2.5%粒剤 +240g/170アール	4.2~5.7 oz ai/A (0.294~0.399kg ai/ha, 0.03g ai/m(列))、植付時畝処理 +0.70~0.74 oz ai/A(0.049~0.052kg ai/ha)、 散布	1+4	7, 14, 21, 28	圃場A : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場B : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場C : 0.28 (14日)
					7, 14, 21, 28	圃場D : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場E : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場F : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場G : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場H : 0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場I : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場J : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場K : 0.07 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場L : <0.05 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場M : 0.13 (7日)
					7, 14, 21, 28	圃場N : <0.05 (7日)
ばれいしょ (塊茎)	3	2%粉剤	0.25 lb ai/A (0.28 kg ai/ha)、 植付前粉衣	1	71	圃場A : 0.100
					133	圃場B : 0.134
					111	圃場C : 0.079
ばれいしょ (塊茎)	3	21.4%70アール	0.29~0.30 lb ai/A (0.325~0.336kg ai/ha)、 畝処理	1	71	圃場A : 0.070
					133	圃場B : 0.019
					111	圃場C : 0.184
ほうれんそう	2	21.4%70アール	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)、播溝処理 +0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha)、散布	1+2	0, 6, 13	圃場A : 4.82 (6日) (#)
					0, 7, 14	圃場B : 2.84 (7日) (#)
レタス (茎葉) (外葉有り)	12	21.4%70アール	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壤灌注 +0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha)、散布	1+2	0, 7, 14	圃場A : 1.68 (7日)
					0, 7, 14	圃場B : 0.59 (7日)
					0, 7, 14	圃場C : 0.67 (7日)
					0, 7, 14	圃場D : 2.13 (7日)
					0, 7, 14	圃場E : 0.67 (7日)
					0, 7, 14	圃場F : 0.32 (7日)
					0, 7, 14	圃場G : 0.60 (7日)
					0, 7, 14	圃場H : 0.60 (7日)
					0, 7, 14	圃場I : 0.57 (7日)
					0, 7, 14	圃場J : 0.73 (7日)
					0, 7, 14	圃場K : 0.31 (7日)
レタス (茎葉) (外葉有り)	7	21.4%70アール	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壤灌注 又は 側条処理	1	29	圃場A : 0.39
					40	圃場B : <0.05
					94	圃場C : <0.05
					77	圃場D : 0.15
					133	圃場E : <0.05
					27	圃場F : 0.13
					91	圃場G : <0.05

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)						
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	【6-CNA法】(*)					
レタス (茎葉) (外葉無し)	12	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌灌注 +0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha)、散布	1+2	0, 7, 14	圃場A: 0.72 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場B: 0.15 (14日) (#)					
					0, 7, 14	圃場C: 0.15 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場D: 0.58 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場E: 0.08 (14日) (#)					
					0, 7, 14	圃場F: 0.07 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場G: 0.12 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場H: 0.38 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場I: 0.20 (14日) (#)					
					0, 7, 14	圃場J: 0.16 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場K: 0.10 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場L: 0.12 (7日) (#)					
					レタス (茎葉) (外葉無し)	7	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌灌注 又は 側条処理	1	29	圃場A: 0.09
										40	圃場B: <0.05
94	圃場C: <0.05										
77	圃場D: <0.05										
133	圃場E: <0.05										
27	圃場F: 0.05										
91	圃場G: <0.05										
リーフレタス (茎葉)	12	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌灌注 +0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha)、散布	1+2	0, 7, 14	圃場A: 2.49 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場B: 1.46 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場C: 2.25 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場D: 2.18 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場E: 0.10 (14日) (#)					
					0, 7, 14	圃場F: 1.24 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場G: 1.47 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場H: 0.92 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場I: 0.95 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場J: 0.54 (7日) (#)					
					0, 7, 14	圃場K: 2.61 (14日) (#)					
					0, 7, 14	圃場L: 2.42 (7日) (#)					
					リーフレタス (茎葉)	10	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌灌注 又は 側条処理	1	36	圃場A: 0.68
										13	圃場B: 2.06
43	圃場C: 0.56										
39	圃場D: 0.18										
68	圃場E: 0.80										
63	圃場F: 0.31										
85	圃場G: 0.35										
27	圃場H: 0.93										
12	圃場I: 0.71										
43	圃場J: 0.05										

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数		
セロリ (茎葉)	6	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.50 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)、灌注	1	46	圃場A: 4.31 (#)	
					43	圃場B: 0.42 (#)	
					45	圃場C: 0.13 (#)	
					43	圃場D: 0.13 (#)	
					45	圃場E: 0.57 (#)	
					46	圃場F: 1.00 (#)	
セロリ (茎葉)	3	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.50 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)、側条施用	1	45	圃場A: 2.83 (#)	
					43	圃場B: 0.78 (#)	
					45	圃場C: 5.62 (#)	
セロリ (茎葉)	3	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.50 lb ai/A (0.56 kg ai/ha)、畝処理	1	97	圃場A: 1.24 (#)	
					81	圃場B: 0.38 (#)	
					103	圃場C: 1.36 (#)	
アーティチョーク (茎葉)	3	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.25 lb ai/A (0.28 kg ai/ha)、散布	2	7	圃場A: 1.638 圃場B: 1.060 圃場C: 1.886	
りんご (果実)	8	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.19 kg ai/ha、散布	5	6, 13, 20, 29	圃場A: 0.17 (6日) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場B: 0.14 (7日) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場C: 0.10 (7日) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場D: 0.18 (7日) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場E: <0.05 (7日) (使用量: 0.14 kg ai/ha) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場F: <0.05 (7日) (使用量: 0.07 kg ai/ha)	
					7, 14, 21, 30	圃場G: <0.05 (7日) (使用量: 0.023 kg ai/ha) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場H: 0.10 (7日) (#)	
りんご (果実)	3	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.19 kg ai/ha、散布	5	7, 14, 21, 30	圃場A: 0.74 (7日) (#)	
					7, 14, 21, 30	圃場B: 0.05 (7日) (使用量: 0.11 kg ai/ha)	
					7, 14, 21, 30	圃場C: 0.08 (7日) (使用量: 0.15kg ai/ha) (#)	
なし (果実)	7	21.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.25 lb ai/A (0.28 kg ai/ha)、散布	2	0, 7, 14, 21	圃場A: 0.33 (21日)	
					0, 7, 14, 21	圃場B: 0.53 (14日)	
					0, 7, 14, 21	圃場C: 0.40 (14日)	
					0, 7, 14, 21	圃場D: 0.33 (7日)	
					0, 7, 14, 21	圃場E: 0.25 (21日)	
					0, 7, 14, 21	圃場F: 0.50 (7日)	
					0, 7, 14, 21	圃場G: 0.27 (7日)	
おうとう (酸味) (果実)	4	17.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha)、散布	5	6	圃場A: 2.544	
					0, 3, 7, 14	圃場B: 1.069 (7日)	
					7	圃場C: 1.458	
					7	圃場D: 0.929	
おうとう (甘味) (果実)	8	17.4%7077F <sup>®</sup> ル	0.1 lb ai/A (0.112 kg ai/ha) 散布	5	7	圃場A: 0.342	
					7	圃場B: 0.426	
					8	圃場C: 0.243	
					7	圃場D: 0.596 (6回散布)	
					7	圃場E: 0.630 (6回散布)	
					7	圃場F: 0.362	
					7	圃場G: 0.278	
					7	圃場H: 0.615	

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
いちご (果実)	9	21.4%フロアブル +17.4%フロアブル	0.375 lb ai/A(0.42 kg ai/ha)土壌灌注 +0.044 lb ai/A (0.05kg ai/ha)散布	1+3	7	圃場A: 0.349
					6	圃場B: 0.138
					7	圃場C: 0.210
					7	圃場D: 0.147
					7	圃場E: 0.316
					0, 4, 7, 14	圃場F: 0.126 (14日)
					6	圃場G: 0.167
					7	圃場H: 0.124
					7	圃場I: 0.166
ラズベリー (果実)	2	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56kg ai/ha) 土壌灌注又は処理	1	7, 14, 28, 42, 56	圃場A: <0.050 (7日)
					7, 14, 28, 42, 56	圃場B: <0.050 (7日)
クランベリー (果実)	5	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56kg ai/ha) 散布後、灌水により薬剤を土壌に移行	1	30, 46	圃場A: <0.050 (30日)
					28, 43	圃場B: <0.050 (28日)
					28, 43	圃場C: <0.050 (28日)
					28, 43	圃場D: <0.050 (28日)
					32, 45	圃場E: <0.050 (32日)
ブルーベリー (果実)	5	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌表面散布	1	7, 14, 28, 32	圃場A: <0.05 (7日)
					7, 15	圃場B: <0.05 (7日)
					7, 14, 28, 35	圃場C: <0.05 (7日)
					7, 14	圃場D: <0.05 (7日)
					7, 14	圃場E: 0.09 (7日)
ブルーベリー (果実)	7	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A (0.11 kg ai/ha) 散布	5	3	圃場A: 0.49
					3	圃場B: 0.52
					3	圃場C: 0.38
					2	圃場D: 2.219
					2	圃場E: 2.802
					4	圃場F: 0.894
					0, 3, 10, 14	圃場G: 1.125 (3日)
ブラックベリー (果実)	3	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha) 散布	3	2	圃場A: 0.38 (#)
					4	圃場B: 0.69
					2	圃場C: 0.70 (#)
ラズベリー (果実)	4	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha) 散布	3	3	圃場A: 0.59
					3	圃場B: 0.96
					3	圃場C: 0.48
					3	圃場D: 0.49
マリオンベリー (果実)	1	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha) 散布	3	3	圃場A: 1.7
ボイゼンベリー (果実)	1	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha) 散布	3	3	圃場A: 1.5
パパイヤ (果実)	3	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha)散布	5	5	圃場A: 0.22
					0, 6, 14, 21	圃場B: 0.59 (14日)
					7	圃場C: 0.19
アボカド (果実)	5	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A(0.56 kg ai/ha) 土壌表面散布	1	60, 88, 116	圃場A: <0.050 (60日)
					60	圃場B: <0.050
					59	圃場C: <0.050
					69	圃場D: <0.050
					50	圃場E: <0.050
グアバ (果実)	4	17.4%フロアブル	0.1 lb ai/A(0.11 kg ai/ha) 散布	5	14	圃場A: 0.266
					14	圃場B: 0.126
					15	圃場C: 0.400
					15	圃場D: 0.304

農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ひまわり (種子)	4	40.7%フロアブル	16.8 oz ai/cwt(100ポンド種子)、 (5.25 g ai/kg種子) 種子塗沫	1	129	圃場A : <0.05 (#)
					141	圃場B : <0.05 (#)
					143	圃場C : <0.05 (#)
					119	圃場D : <0.05 (#)
ひまわり (種子)	2	40.7%フロアブル	84.0 oz ai/cwt(26.25 g ai/kg種子)、 種子塗沫	1	131	圃場A : <0.05 (#)
					143	圃場B : <0.05 (#)
綿実 (種子)	6	21.4%フロアブル +21.4%フロアブル +21.4%フロアブル	250g ai/100kg種子 (2.5 g ai/kg種子)、種 子塗沫 +4.3~4.8 oz ai/A (0.27~0.30 lb ai/A) (0.301~0.336kg ai/ha) 畝処理 +3.8 oz ai/A (0.24 lb ai/A) (0.266kg ai/ha) 散布	1+1+2	7, 14, 21	圃場A : 0.22 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場B : 0.41 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場C : 0.20 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場D : 2.32 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場E : 0.20 (14日) (#)
					7, 14, 21	圃場F : 2.51 (21日) (#)
綿実 (種子)	3	21.4%フロアブル +2.5%粒剤 +21.4%フロアブル	250g ai/100kg種子 (2.5 g ai/kg種子)、種 子塗沫 +4.3~4.8 oz ai/A (0.27~0.30 lb ai/A) (0.301~0.336kg ai/ha) 畝処理 +3.8 oz ai/A (0.24 lb ai/A) (0.266kg ai/ha) 散布	1+1+2	7, 14, 21	圃場A : 0.18 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場B : 0.36 (14日) (#)
					7, 14, 21	圃場C : 0.17 (21日) (#)
綿実 (種子)	7	21.4%フロアブル +2.5%粒剤 +21.4%フロアブル	250g ai/100kg種子 (2.5 g ai/kg種子)、種 子塗沫 +4.3~4.8 oz ai/A (0.27~0.30 lb ai/A) (0.301~0.336kg ai/ha) 畝処理 +3.8 oz ai/A (0.24 lb ai/A) (0.266kg ai/ha) 散布	1+1+2	8, 15, 22	圃場A : 2.00 (22日) (#)
					7, 14, 21	圃場B : 0.19 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場C : 0.44 (14日) (#)
					7, 13, 21	圃場D : 0.55 (13日) (#)
					7, 14, 21	圃場E : 0.21 (21日) (#)
					7, 14, 21	圃場F : 0.55 (14日) (#)
					7, 13, 21	圃場G : 0.83 (21日) (#)
綿実 (種子)	3	21.4%フロアブル +21.4%フロアブル +21.4%フロアブル	250g ai/100kg種子 (2.5 g ai/kg種子)、種 子塗沫 +0.03 g ai/m (条) 畝処理 +7.5 fl oz 製剤/A(0.1131kg ai/ha) 散布	1+1+2	20	圃場A : <1.00
					13	圃場B : <1.00
					14	圃場C : <1.00
なたね (種子)	6	40.7%フロアブル	16 oz ai/cwt(10 g ai/kg種子)、 種子塗沫	1	199	圃場A : <0.05
					288	圃場B : <0.05
					277	圃場C : <0.05
					129	圃場D : <0.05
					112	圃場E : <0.05
					146	圃場F : <0.05



農作物 (試験部位)	試験 圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【6-CNA法】(*)	
		剤形	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ペカン (果実)	7	21.4%フロアブル	0.5 lb ai/A (0.56 kg ai/ha) 土壌処理	1	150	圃場A : <0.05
					150	圃場B : <0.05
					109	圃場C : <0.05
					127	圃場D : <0.05
					115	圃場E : <0.05
					102	圃場F : <0.05
					99	圃場G : <0.05
ペカン (果実)	6	21.4%フロアブル	0.17 lb ai/A (0.19 kg ai/ha) 散布	2	31	圃場A : <0.05
					20	圃場B : <0.05
					4	圃場C : <0.05
					21	圃場D : <0.05
					17	圃場E : <0.05
					8	圃場F : <0.05
					0, 7, 14, 21	圃場A : <0.01 (7日)
ペカン (果実)	5	17.4%フロアブル	0.17~0.18 lb ai/A (0.19~0.20 kg ai/ha) 散布	2	7	圃場B : <0.01
					7	圃場C : <0.01
					7	圃場D : 0.01
					7	圃場E : <0.01
					0, 7, 14, 21	圃場A : <0.01 (7日)
アーモンド (果実)	5	17.4%フロアブル	0.17~0.18 lb ai/A (0.19~0.20 kg ai/ha) 散布	2	7	圃場B : <0.01
					7	圃場C : <0.01
					7	圃場D : <0.01
					7	圃場E : <0.01
					7	圃場E : <0.01
さとうきび (茎)	1	0.5%粒剤	3.75 g ai/100m	1	147	圃場A : <0.02
さとうきび (茎)	1	0.5%粒剤	7.50 g ai/100m	1	147	圃場A : <0.02
カカオ豆 (種実)	3	200g/L フロアブル	30 g ai/ha 散布	4	0, 1, 3	圃場A : 0.011 (3日)
					0, 1, 3	圃場B : 0.023 (3日)
					0, 1, 3, 7, 14, 20	圃場C : 0.030 (20日)
カカオ豆 (種実)	1	200g/L フロアブル	150 g ai/ha 散布	4	0, 1, 3, 7, 14, 20	圃場A : 0.044 (0日)
コーヒー豆 (種実)	5	17.4%フロアブル	0.10 lb ai/A (0.112 kg ai/ha) 散布	5	6	圃場A : 0.192
					7	圃場B : 0.482
					6	圃場C : 0.295
					7	圃場D : 0.353
					7	圃場E : 0.370

最大使用条件下の作物残留試験に、アンダーラインを付している。

(\*) 6-クロロニコチル基を有するイミダクロプリド及び代謝物の総量。(カカオ豆を除く。)

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現 行 ppm	登 録 有 無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
米(玄米をいう)	1	0.2	申	0.05		<0.005, <0.005 / <0.005, <0.005(#) / 0.038, 0.018 / <0.005, 0.006 / 0.058, 0.036 / 0.076, 0.030 / 0.08, 0.02 / 0.04(#), 0.04(#) / 0.08 / 0.16, 0.09 / <0.01(#), <0.01(#) / 0.05(#), 0.03(#) / 0.22(#), 0.31(#)\$ / 0.26(#), 0.28(#) / 0.02, 0.02	
小麦	0.05	0.05	○	0.05	0.05	アメリカ	0.013(#), <0.005 / 0.016(#), <0.005(#)
大麦	0.05	0.05		0.05	0.05	アメリカ	
ライ麦	0.05	0.05		0.05	0.05	アメリカ	
とうもろこし	0.05	0.1	○	0.05	0.05	アメリカ	<0.01(#), <0.01(#)(乾燥 種子) <0.01(#), <0.01(#)(生食 用子実) <0.01(#), <0.01(#)(脱穀 種子) <0.01(#), <0.01(#)(生食 用子実)
そば	0.05	0.05		0.05			
その他の穀類	0.05	0.05	経	0.05	0.05	アメリカ	
大豆	3.5	1	○		3.5	アメリカ	0.01(#), <0.01(#) 【0.029-2.04(n=24)(米国 大豆)】
小豆類(いんげん、ささげを含む)	4.0	4	○		4.0	アメリカ	0.05(#), 0.04(#) 【0.133-1.120(n=11)(米 国いんげん)】
えんどう	4.0	1	○		4.0	アメリカ	【0.138-1.030(n=6)(米国 えんどう)】
そらまめ	4.0	1	○		4.0	アメリカ	【米国いんげん、えんどう 参照】
らっかせい	0.2	1	○		0.45	アメリカ	<0.05, <0.05 【米国いんげん、えんどう 参照】
その他の豆類	4.0	1	○		4.0	アメリカ	
ばれいしょ	0.5	0.5	○	0.5	0.40	アメリカ	0.186(#), 0.020(#) / 0.02(#), 0.02(#) / <0.02, <0.02 / <0.02, <0.02 / 0.02, <0.01 【<0.05-0.28(n=25)(米国 ばれいしょ)】
さといも類(やつがしらを含む)	0.05	0.1	○		0.40	アメリカ	<0.01(#), <0.01(#)
かんしょ	0.05	0.1	○		0.40	アメリカ	<0.01, <0.01 / <0.01(#), <0.01(#)
やまいも(長いもをいう)	0.05	0.1	○		0.40	アメリカ	<0.01(#), <0.01(#)
こんにやくいも	0.1	0.1	○				<0.01(#), 0.02(#) 【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】
その他のいも類	0.4	0.1			0.40	アメリカ	
てんさい	0.05	0.05	○	0.05	0.05	アメリカ	<0.01(#), <0.01(#) / <0.01(#), <0.01(#) / <0.01(#), <0.01(#)
さとうきび	0.05	0.05			0.05	オーストラリア	【<0.02(n=2)(豪州さとうき び)】
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.1	0.1	○		0.40	アメリカ	0.014(\$), 0.011 / <0.01, <0.01 【<0.05-0.130(n=4)(米国 ラディッシュ)】
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	4.0	5	○		4.0	アメリカ	0.013, 0.022 / 0.20, 0.01 【0.534-2.744(n=4)(米国 ラディッシュの葉)】 【米国ビート葉参照】

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
かぶ類の根	0.4	0.1		0.40	アメリカ	【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】	
かぶ類の葉	4.0	5		4.0	アメリカ	【米国ビート葉参照】	
西洋わさび	0.4	0.1		0.40	アメリカ	【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】	
クレソン	3.5	5		3.5	アメリカ	【米国ほうれんそう参照】	
はくさい	0.5	0.5	○	3.5	アメリカ	0.06(#), 0.11(#) / 0.06, 0.06 / 0.05(#), 0.13(#)( $\$$ ) 0.04(#), 0.21(#) / 0.02(#) / 0.16(#), 0.05(#) / 0.20(#), 0.07(#)	
キャベツ	0.5	0.5	○	0.5	3.5	アメリカ	<0.02, <0.02(芽キャベツ) <0.2, <0.2 / 0.5, <0.2 (非結球芽キャベツ)
芽キャベツ	0.5	0.5	○	0.5	3.5	アメリカ	
ケール	5	5	緊		3.5	アメリカ	
こまつな	5	5	緊		3.5	アメリカ	
きょうな	5	5	緊		3.5	アメリカ	1.36, 2.39 / 1.30, 2.20
チンゲンサイ	5	5	緊		3.5	アメリカ	
カリフラワー	0.5	5		0.5	3.5	アメリカ	
ブロッコリー	5	5	申	0.5	3.5	アメリカ	0.28(#), 1.94(#) / 0.40, 2.30( $\$$ ) 0.04 / 0.25 / 0.38, 0.38, 0.75(細わさび) 2.30(#), 0.74(#) / 1.37(#), 0.27(#) / 0.2(#), 0.06(#)(わさび)
その他のあぶらな科野菜	5	5	緊		3.5	アメリカ	1.61, 0.46(なばな)
ごぼう	0.05	0.1	○	0.40	アメリカ	<0.01, <0.01 【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】	
サルシフィー	0.4	0.1		0.40	アメリカ		
アーティチョーク	2.5	5		2.5	アメリカ	【1.060-1.886(n=3)(米国 アーティチョーク)】	
チコリ	4.0	5		4.0	アメリカ	【米国ビート葉参照】	
エンダイブ	5	5	○	3.5	アメリカ	2.26, 2.21(#)	
しゅんぎく	5	5	経	3.5	アメリカ	0.08(#), 0.10(#) / 0.09, 0.08 / 0.46, 0.17 / 0.47(#), 0.19(#)(レタス) 0.4, 0.2(サラダ菜) 0.8, 0.2(リーフレタス) 【<0.05-2.13(n=19)(米国 レタス・外葉あり)】 【<0.05-0.72(n=19)(米国 レタス・外葉なし)】 【0.05-2.61(n=22)(米国 リーフレタス)】	
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	2	5	○	2	3.5	アメリカ	0.4, 2.6( $\$$ )(すいぜんじ な) 0.60, 1.14(葉ごぼう) 0.67, 0.22 / 0.72, 0.44(食用きく) 0.29, 0.22(きくの葉) 0.12, 0.08(ふき)
その他のきく科野菜	5	5	○	6.0	アメリカ		

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
たまねぎ	0.1	0.1	○	0.1		<0.01, <0.01 / <0.01(#), <0.01(#)
ねぎ(リーキを含む)	0.7	1	○	0.05		0.16, <0.01(根深ねぎ) 0.04, 0.22(\$)(葉ねぎ)
にら	1	5	○			<0.4, <0.4
アスパラガス	0.7	5	申			0.14(#), 0.30(#)
わけぎ	2	5	○			0.7, 1.0
その他のゆり科野菜		5				
にんじん	0.1	0.1	○		0.40 アメカ	<0.01, 0.02 【<0.05-0.0896(n=6)(米 国にんじん)】 【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】
パースニップ	0.4	0.1			0.40 アメカ	
パセリ	3	5	○		3.5 アメカ	0.16 / 0.36 / 1.4, 1.3 【米国ほうれんそう参照】
セロリ	6.0	5	○		6.0 アメカ	0.30, 0.68 【0.13-5.62(n=12)(米国セ ロリ)】
みつば	5	5	申			2.77 / 2.50
その他のせり科野菜	6.0	5	○		6.0 アメカ	0.18, 0.10(はまぼうふう) 【米国セロリ参照】
トマト	2	1	○	0.5	1.0 アメカ	0.04, 0.12, 0.14 / 0.08 / 0.06 / 0.08 / 0.15 / 0.12, 0.13 / 0.26(#), 0.13(#)(トマト) 0.24(#), 0.52(#)(\$(ミニト マト)
ピーマン	3	3	○	1	1.0 アメカ	0.08, 0.01 / 1.20(\$), 0.60 / 0.8, 0.8
なす	0.5	0.5	○	0.2	1.0 アメカ	<0.005, <0.005 / 0.121(\$), 0.078 / 0.04, 0.12
その他のなす科野菜	5	5	○	1	1.0 アメカ	1.6(#)(\$), 1.2(#)(ししとう) 1.2(#), 1.5(#)(伏見甘長ど うがらし)
きゅうり(ガーキンを含む)	1	1	○	1	0.5 アメカ	0.010, <0.005 / 0.18, 0.12 / 0.04, 0.04 / 0.08(#), 0.20 / 0.42(#), 0.16(#)
かぼちゃ(スカッシュを含む)	1	1	○	1	0.5 アメカ	
しろり	1	1	緊		0.5 アメカ	
すいか	0.5	0.5	○	0.2	0.5 アメカ	<0.01(#), 0.04(#) / 0.11(#)(\$), 0.02(#)
メロン類果実	0.2	0.2	○	0.2	0.5 アメカ	0.01, 0.01 / 0.03, 0.03 / 0.03, 0.03 / 0.02, <0.01
まくわうり	0.2	0.5	○	0.2	0.5 アメカ	<0.02, <0.02
その他のうり科野菜	1	1	○・緊		0.5 アメカ	0.47(#), 0.85(#) / 0.16, 0.42(\$)(にかうり)
ほうれんそう	3.5	5	○		3.5 アメカ	0.03, 0.17 【2.84, 4.82(n=2)(米国ほ うれんそう)】
たけのこ		0.1				
オクラ	0.7	5	○		1.0 アメカ	0.18, 0.18 / 0.12, 0.21(\$) / 0.16
しょうが	0.4	0.1			0.40 アメカ	【米国ばれいしょ、ラ ディッシュ、にんじん参 照】
未成熟えんどう	0.5	0.5	○		4.0 アメカ	0.06, <0.05 / 0.20, 0.14 【0.195-3.849(n=4)(米国 えんどう(食用さや)】

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
未成熟いんげん	2	2	○	2	4.0	アメリカ	0.01, 0.05 / 0.18, 0.30 【<0.05-0.89(n=6)(米国未成熟いんげん)】
えだまめ	3.5	0.5	○		3.5	アメリカ	<0.01, 0.16 / 0.10, 0.16 【米国大豆参照】
マッシュルーム		0.5			0.5	オーストラリア	
しいたけ		0.5			0.5	オーストラリア	
その他のきのこ類		0.5			0.5	オーストラリア	
その他の野菜	5	5	○・申	2	6.0	アメリカ	1.70, 2.01(ふだんそう) 0.4, 1.0(モロヘイヤ) 0.80, 0.36(食用さくら) 0.48, 0.30 / 0.10, 0.24(さといも葉柄) 0.23, 0.18(食用ブリンラ) 0.11, 0.20(未成熟そらまめ) 0.06 / 0.16(じゆんさい) 0.06, <0.05(むかご) <0.05, <0.05(未成熟ささげ) <0.01, <0.01(くわい) <0.01, <0.01(うど) <0.01, <0.01(ヤングコーン) <0.01, <0.01 / <0.01, <0.01 / <0.01 / <0.01(#)(れんこん) 【<0.100-0.352(n=5)(米国ビート)】 【1.40-3.78(n=5)(米国ビート葉)】
みかん	1	1	○	1	2	オーストラリア	0.02, 0.06 / <0.01(#), <0.01(#)
なつみかんの果実全体	1	1	○	1	2	オーストラリア	0.15, 0.25 / 0.06(#)
レモン	1	1	○	1	2	オーストラリア	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	1	1	○	1	2	オーストラリア	
グレープフルーツ	1	1	○	1	2	オーストラリア	
ライム	1	1	○	1	2	オーストラリア	
その他のかんきつ類果実	1	3	○	1	2	オーストラリア	0.07(#)(いよかん) 0.03 / 0.15(#)(すだち) 0.26 / 0.05(#)(かぼす)
りんご	0.5	0.5	○	0.5	0.5	アメリカ	0.120, 0.029 / 0.20, 0.12 【<0.05-0.74(n=11)(米国りんご)】
日本なし	1	1	○	1	0.6	アメリカ	0.197, 0.060 / 0.14(#), 0.19(#) / 0.08, 0.06 / 0.13, 0.12 / 0.15, 0.20(#)
西洋なし	1	1	○	1	0.6	アメリカ	【0.25-0.53(n=7)(米国なし)】
マルメロ	0.6	1			0.6	アメリカ	【米国なし参照】
びわ	0.5	0.5	○		0.6	アメリカ	<0.02(有袋) / 0.05(有袋) / 0.18(\$)(有袋) / 2.54(無袋) / 0.19(無袋)
もも	0.5	0.5	○	0.5	3.0	アメリカ	0.195, 0.140 / 0.12(#), 0.11(#) / 0.06, 0.07 / 0.16(#), 0.14(#)
ネクタリン	0.7	1	○	0.5	3.0	アメリカ	0.28, 0.18
あんず(アプリコットを含む)	0.7	1	○	0.5	3.0	アメリカ	0.29, 0.17
すもも(プルーンを含む)	0.2	0.2	○	0.2	3.0	アメリカ	0.07(#), <0.01(#) / 0.04, <0.01
うめ	0.3	3	○				0.07, 0.06
おうとう(チェリーを含む)	3.0	3		0.5	3.0	アメリカ	【0.929-2.544(n=4)(米国酸味おうとう)】 【0.243-0.630(n=8)(米国甘味おうとう)】

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現 行 ppm	登 録 有 無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準 値 ppm		
いちご	0.5	3	○		0.50	アメリカ	0.01(#), 0.03(#) / 0.81(#), 0.18(#) 【0.124-0.349(n=9)(米国 いちご)】
ラズベリー	2.5	3			2.5	アメリカ	【<0.050-0.96(n=6)(米国 ラズベリー)】
ブラックベリー	2.5	3			2.5	アメリカ	【0.38(#)-0.70(#)(n=3)(米 国ブラックベリー)】
ブルーベリー	3.5	3			3.5	アメリカ	【<0.05-2.802(n=12)(米 国ブルーベリー)】
クランベリー	0.05	3		0.05	0.05	アメリカ	【<0.050(n=5)(米国クラン ベリー)】
ハックルベリー	3.5	3			3.5	アメリカ	【米国ブルーベリー参照】
その他のベリー類果実	3.5	3			3.5	アメリカ	【米国ブルーベリー参照】 【1.7(n=1)(米国マリオン ベリー)】 【1.5(n=1)(米国ボイゼン ベリー)】
ぶどう	3	3	○	1	1.5	カナダ	1.338(\$), 0.256 / 0.16(#), 0.28(#) / 0.26, 0.06, 0.76, 0.72 / 0.59(#), 0.74(#) / 0.08(#), 0.08(#) / 0.06(#), 0.12(#) / 0.78, 0.41
かき	1	1	○		3.0	アメリカ	0.35, 0.28
バナナ	0.05	0.05		0.05	0.50	アメリカ	<0.05, <0.05
キウイ	0.2	0.5	○				【0.19-0.59(n=3)(米国パ パイヤ)】
パパイヤ	1.0	1			1.0	アメリカ	【<0.050(n=5)(米国アボカ ド)】 【米国パパイヤ参照】
アボカド	1.0	1			1.0	アメリカ	【0.126-0.400(n=4)(米国 グアバ)】
パイナップル	1.0	1			1.0	アメリカ	0.49(#), 0.45(#) 0.15, 0.28 【米国グアバ参照】
グアバ	1.0	1		0.2	1.0	アメリカ	
マンゴー	1	1	○		1.0	アメリカ	
パッションフルーツ	1.0	3	申		1.0	アメリカ	
なつめやし		3					
その他の果実	3.0	3	○		3.0	アメリカ	0.18(#), 0.30(#)(アセロラ) 0.26, 0.11(ピタヤ) 0.18 / <0.02(アテモヤ) 【米国おうとう参照】
ひまわりの種子	0.05	0.02			0.05	アメリカ	【<0.05(n=6)(米国ひまわ り)】 【米国ひまわり、なたね参 照】
べにばなの種子	0.05	0.05			0.05	アメリカ	【0.17-2.51(n=19)(米国 綿実)】 【<0.05(n=6)(米国なた ね)】
綿実	5	3			6.0	アメリカ	【米国ひまわり、なたね参 照】
なたね	0.05	0.05		0.05	0.05	アメリカ	
その他のオイルシード	0.05	2			0.05	アメリカ	
ぎんなん	0.1	0.1	経				<0.005(#) / 0.01(#)
くり	0.05	0.1	○		0.05	アメリカ	<0.01, <0.01
ペカン	0.05	0.05		0.05	0.05	アメリカ	【<0.01-<0.05(n=18)(米 国ペカン)】
アーモンド	0.05	0.1			0.05	アメリカ	【<0.01(n=5)(米国アーモ ンド)】
くるみ	0.05	0.1			0.05	アメリカ	【米国ペカン、アーモンド 参照】
その他のナッツ類	0.05	0.1			0.05	アメリカ	【米国ペカン、アーモンド 参照】

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
茶	10	10	○			2.30, 1.92 / 3.84, 3.98(荒茶) 1.85, 1.90 / 2.53, 3.31(浸出液)
コーヒー豆	0.8		IT		0.80 アメカ	【0.192-0.482(n=5)(米国 コーヒー豆)】
カカオ豆	0.05	0.05			0.05 EU(オランダ)	【0.011-0.044(n=4)(カカ オ豆)】
ホップ	10	10		10	6.0 アメカ	
その他のスパイス	5	5			0.05 アメカ	1.08, 2.28 / 0.24(#), 0.22(#)(みかんの果皮)
その他のハーブ	5	5	○		8.0 アメカ	2.4, 1.4(あさつき) 1.49, 1.07(コリアンダー) 0.70, 0.28 / 1.68, 0.18(しそ) <0.02 / <0.04(みょうが) <0.1, <0.1(さんしょう)
牛の筋肉	0.1	0.02		0.02	0.3 アメカ	推:0.024
豚の筋肉	0.1	0.02		0.02	0.3 アメカ	(牛の筋肉参照)
その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.1	0.02		0.02	0.3 アメカ	(牛の筋肉参照)
牛の脂肪	0.02	0.3			0.3 アメカ	推:<0.02
豚の脂肪	0.02	0.3			0.3 アメカ	(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.02	0.3			0.3 アメカ	(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	推:0.089
豚の肝臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の肝臓参照)
その他の陸棲哺乳類の肝臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の肝臓参照)
牛の腎臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	推:0.053
豚の腎臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類の腎臓	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の腎臓参照)
牛の食用部分	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の肝臓、牛の腎臓参照)
豚の食用部分	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の肝臓、牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類の食用部分	0.2	0.05		0.05	0.3 アメカ	(牛の肝臓、牛の腎臓参照)
乳	0.1	0.02		0.02	0.1 アメカ	推:0.027
鶏の筋肉	0.02	0.02		0.02	0.05 アメカ	推:<0.02
その他の家きんの筋肉	0.02	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の筋肉参照)
鶏の脂肪	0.02	0.05			0.05 アメカ	推:<0.02
その他の家きんの脂肪	0.02	0.05			0.05 アメカ	(鶏の脂肪参照)
鶏の肝臓	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	推:0.017
その他の家きんの肝臓	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の肝臓参照)
鶏の腎臓	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの腎臓	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の肝臓参照)
鶏の食用部分	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの食用部分	0.1	0.02		0.02	0.05 アメカ	(鶏の肝臓参照)
鶏の卵	0.02	0.02		0.02	0.02 アメカ	推:<0.02
その他の家きんの卵	0.02	0.02		0.02	0.02 アメカ	(鶏の卵参照)
小麦粉(全粉粒を除く。)	0.03	0.03		0.03		
小麦ふすま	0.3	0.3		0.3		
とうがらし(乾燥させたもの)	10			10		

平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において新しく設定した基準値については、網をつけて示した。  
 (\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。  
 (#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。  
 「作物残留試験」欄に「推:」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

イミダクロプリド推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米 (玄米)	1	185.1	97.7	139.7	188.8
小麦	0.05	5.8	4.1	6.2	4.2
大麦	0.05	0.3	0.0	0.0	0.2
ライ麦	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.1	0.2	0.1	0.0
そば	0.05	0.2	0.0	0.1	0.2
その他の穀類	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	3.5	196.4	118.0	159.3	205.8
小豆類	4.0	5.6	2.0	0.4	10.8
えんどう	4.0	1.2	0.4	1.2	1.6
そら豆	4.0	0.8	0.4	0.4	1.6
らつかせい	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
その他の豆類	4.0	0.4	0.4	0.4	0.4
ばれいしよ	0.5	18.3	10.7	19.9	13.5
さといも類 (やつがしらを含む)	0.05	0.6	0.3	0.4	0.9
かんしよ	0.05	0.8	0.9	0.7	0.8
やまいも (長いも)	0.05	0.1	0.0	0.1	0.2
こんにやくいも	0.1	1.3	0.6	1.1	1.3
その他のいも類	0.4	0.2	0.1	0.3	0.2
てんさい	0.05	0.2	0.2	0.2	0.2
さとうきび	0.05	0.7	0.6	0.5	0.6
だいこん類 (ラディッシュを含む) の根	0.1	4.5	1.9	2.9	5.9
だいこん類 (ラディッシュを含む) の葉	4.0	8.8	2.0	3.6	13.6
かぶ類の根	0.4	1.0	0.3	0.3	1.7
かぶ類の葉	4.0	2.0	0.4	1.2	4.4
西洋わさび	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	3.5	0.4	0.4	0.4	0.4
はくさい	0.5	14.7	5.2	11.0	15.9
キャベツ	0.5	11.4	4.9	11.5	10.0
芽キャベツ	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ケール	5	0.5	0.5	0.5	0.5
こまつな	5	21.5	10.0	8.0	29.5
きょうな	5	1.5	0.5	0.5	1.5
チンゲンサイ	5	7.0	1.5	5.0	9.5
カリフラワー	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
ブロッコリー	5	22.5	14.0	23.5	20.5
その他のあぶらな科野菜	5	10.5	1.5	1.0	15.5
ごぼう	0.05	0.2	0.1	0.1	0.3
サルシフィー	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	2.5	0.3	0.3	0.3	0.3
チコリ	4.0	0.4	0.4	0.4	0.4
エンダイブ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
しゅんぎく	5	12.5	3.0	9.5	18.5
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む)	2	12.2	5.0	12.8	8.4
その他のきく科野菜	5	2.0	0.5	2.5	3.5
たまねぎ	0.1	3.0	1.9	3.3	2.3
ねぎ (リーキを含む)	0.7	7.9	3.2	5.7	9.5
にら	1	1.6	0.7	0.7	1.6
アスパラガス	0.7	0.6	0.2	0.3	0.5
わけぎ	2	0.4	0.2	0.2	0.6
にんじん	0.1	2.5	1.6	2.5	2.2
パースニップ	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
パセリ	3	0.3	0.3	0.3	0.3
セロリ	6.0	2.4	0.6	1.8	2.4
みつば	5	1.0	0.5	0.5	1.0
その他のせり科野菜	6.0	0.6	0.6	0.6	1.8



食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
トマト	2	48.6	33.8	49.0	37.8
ピーマン	3	13.2	6.0	5.7	11.1
なす	0.5	2.0	0.5	1.7	2.9
その他のなす科野菜	5	1.0	0.5	0.5	1.5
きゅうり (ガーキンを含む)	1	16.3	8.2	10.1	16.6
かぼちや (スカッシュを含む)	1	9.4	5.8	6.9	11.5
しろうり	1	0.3	0.1	0.1	0.8
すいか	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
メロン類果実	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
まくわうり	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のうり科野菜	1	0.5	0.1	2.3	0.7
ほうれんそう	3.5	65.5	35.4	60.9	76.0
オクラ	0.7	0.2	0.1	0.1	0.2
しょうが	0.4	0.2	0.1	0.3	0.3
未成熟えんどう	0.5	0.3	0.1	0.4	0.3
未成熟いんげん	2	3.8	2.4	3.6	3.6
えだまめ	3.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他の野菜	5	63.0	48.5	48.0	61.0
みかん	1	41.6	35.4	45.8	42.6
なつみかんの果実全体	1	0.1	0.1	0.1	0.1
レモン	1	0.3	0.2	0.3	0.3
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	1	0.4	0.6	0.8	0.2
グレープフルーツ	1	1.2	0.4	2.1	0.8
ライム	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	1	0.4	0.1	0.1	0.6
りんご	0.5	17.7	18.1	15.0	17.8
日本なし	1	5.1	4.4	5.3	5.1
西洋なし	1	0.1	0.1	0.1	0.1
マルメロ	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1
びわ	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
もも	0.5	0.3	0.4	2.0	0.1
ネクタリン	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
アンズ (アブリコットを含む)	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
すもも (プルーンを含む)	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0
うめ	0.3	0.3	0.1	0.4	0.5
おうとう (チェリーを含む)	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
いちご	0.5	0.2	0.2	0.1	0.1
ラズベリー	2.5	0.3	0.3	0.3	0.3
ブラックベリー	2.5	0.3	0.3	0.3	0.3
ブルーベリー	3.5	0.4	0.4	0.4	0.4
クランベリー	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
ハックルベリー	3.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他のベリー類果実	3.5	0.4	0.4	0.4	0.4
ぶどう	3	17.4	13.2	4.8	11.4
かき	1	31.4	8.0	21.5	49.6
バナナ	0.05	0.6	0.6	0.4	0.9
キウイ	0.2	0.4	0.3	0.2	0.4
パパイヤ	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
アボカド	1.0	0.2	0.1	0.1	0.2
グアバ	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パッションフルーツ	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
その他の果実	3.0	11.7	17.7	4.2	5.1
ひまわりの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
べにばなの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
綿実	5	0.5	0.5	0.5	0.5
なたね	0.05	0.4	0.3	0.4	0.3
その他のオイルシード	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
ぎんなん	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.05	0.0	0.1	0.0	0.0
ペカン	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	10	30.0	14.0	35.0	43.0
コーヒー豆	0.8	2.1	0.1	1.2	1.1
カカオ豆	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
ホップ	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のハーブ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.2	11.5	6.6	12.1	11.5
陸棲哺乳類の乳類	0.1	14.3	19.7	18.3	14.3
家禽の肉類	0.1	2.0	1.9	1.6	2.0
家禽の卵類	0.02	0.8	0.6	0.8	0.8
計		993.6	589.4	810.6	1053.1
ADI比 (%)		32.7	65.4	25.6	34.1

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

高齢者については畜産物、妊婦については家きんの卵類の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。

(参考)

これまでの経緯

- 平成18年 3月17日 農薬登録申請（稲に係る適用拡大申請）  
平成18年 9月 4日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請  
平成18年 9月 7日 食品安全委員会（要請事項説明）  
平成19年 2月 6日 第4回農薬専門調査会確認評価第一部会  
平成19年 2月23日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請  
平成19年 3月 8日 食品安全委員会（要請事項説明）  
平成19年 3月14日 第13回農薬専門調査会幹事会  
平成19年 4月26日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表  
  
平成19年 6月14日 食品安全委員会（報告）  
平成19年 6月14日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知  
  
平成21年 5月19日 薬事・食品衛生審議会へ諮問  
平成21年 5月20日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- |         |  |
|---------|--|
| 青木 宙    | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授                   |
| 生方 公子   | 北里大学北里生命科学研究科病原微生物分子疫学研究室教授            |
| ○大野 泰雄  | 国立医薬品食品衛生研究所副所長                        |
| 尾崎 博    | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授                     |
| 加藤 保博   | 財団法人残留農薬研究所理事                          |
| 斉藤 貢一   | 星薬科大学薬品分析化学教室准教授                       |
| 佐々木 久美子 | 元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長                   |
| 志賀 正和   | 元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長            |
| 豊田 正武   | 実践女子大学生活科学部生活基礎化学研究室教授                 |
| 松田 りえ子  | 国立医薬品食品衛生研究所食品部長                       |
| 山内 明子   | 日本生活協同組合連合会組織推進本部本部長                   |
| 山添 康    | 東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授            |
| 吉池 信男   | 青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授                    |
| 由田 克士   | 国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー |
| 鰐淵 英機   | 大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授                |

(○：部会長)

答申（案）

イミダクロプリド

食品名	残留基準値
	ppm
米	1
小麦	0.05
大麦	0.05
ライ麦	0.05
とうもろこし	0.05
そば	0.05
その他の穀類(注1)	0.05
大豆	3.5
小豆類	4.0
えんどう	4.0
そらまめ	4.0
らつかせい	0.2
その他の豆類(注2)	4.0
ばれいしよ	0.5
さといも類	0.05
かんしよ	0.05
やまいも	0.05
こんにやくいも	0.1
その他のいも類(注3)	0.4
てんさい	0.05
さとうきび	0.05
だいこん類の根	0.1
だいこん類の葉	4.0
かぶ類の根	0.4
かぶ類の葉	4.0
西洋わさび	0.4
クレソン	3.5
はくさい	0.5
キャベツ	0.5
芽キャベツ	0.5
ケール	5
こまつな	5
きょうな	5
チンゲンサイ	5
カリフラワー	0.5
ブロッコリー	5
その他のあぶらな科野菜(注4)	5
ごぼう	0.05
サルシフィー	0.4
アーティチョーク	2.5
チコリ	4.0
エンダイブ	5
しゅんぎく	5
レタス	2
その他のきく科野菜(注5)	5
たまねぎ	0.1
ねぎ	0.7
にら	1
アスパラガス	0.7
わけぎ	2

(注1)「その他の穀類」とは、穀類のうち、米、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。

(注2)「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らつかせい及びスパイス以外のものをいう。

(注3)「その他のいも類」とは、いも類のうち、ばれいしよ、さといも類、かんしよ、やまいも及びこんにやくいも以外のものをいう。

(注4)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。

(注5)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。

食品名	残留基準値	
	ppm	
にんじん	0.1	
パースニップ	0.4	
パセリ	3	
セロリ	6.0	
みつば	5	
その他のせり科野菜(注6)	6.0	
トマト	2	
ピーマン	3	
なす	0.5	
その他のなす科野菜(注7)	5	
きゅうり	1	
かぼちや	1	
しろり	1	
すいか	0.5	
メロン類果実	0.2	
まくわうり	0.2	
その他のうり科野菜(注8)	1	
ほうれん草	3.5	
オクラ	0.7	
しょうが	0.4	
未成熟えんどう	0.5	
未成熟いんげん	2	
えだまめ	3.5	
その他の野菜(注9)	5	
みかん	1	
なつみかんの果実全体	1	
レモン	1	
オレンジ	1	
グレープフルーツ	1	
ライム	1	
その他のかんきつ類果実(注10)	1	
りんご	0.5	
日本なし	1	
西洋なし	1	
マルメロ	0.6	
びわ	0.5	
もも	0.5	
ネクタリン	0.7	
あんず	0.7	
すもも	0.2	
うめ	0.3	
おうとう	3.0	
いちご	0.5	
ラズベリー	2.5	
ブラックベリー	2.5	
ブルーベリー	3.5	
クランベリー	0.05	
ハックルベリー	3.5	
その他のベリー類果実(注11)	3.5	
ぶどう	3	
かき	1	

(注6)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

(注7)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。

(注8)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちや、しろり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。

(注9)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれん草、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

(注10)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。

(注11)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。

食品名	残留基準値
	ppm
バナナ	0.05
キウイ	0.2
パパイヤ	1.0
アボカド	1.0
グアバ	1.0
マンゴー	1
パッションフルーツ	1.0
その他の果実(注12)	3.0
ひまわりの種子	0.05
べにばなの種子	0.05
綿実	5
なたね	0.05
その他のオイルシード(注13)	0.05
ぎんなん	0.1
くり	0.05
ペカン	0.05
アーモンド	0.05
くるみ	0.05
その他のナッツ類(注14)	0.05
茶	10
コーヒー豆	0.8
カカオ豆	0.05
ホップ	10
その他のスパイス(注15)	5
その他のハーブ(注16)	5
牛の筋肉	0.1
豚の筋肉	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物(注17)の筋肉	0.1
牛の脂肪	0.02
豚の脂肪	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.02
牛の肝臓	0.2
豚の肝臓	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.2
牛の腎臓	0.2
豚の腎臓	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2
牛の食用部分	0.2
豚の食用部分	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2
乳	0.1
鶏の筋肉	0.02
その他の家きん(注18)の筋肉	0.02
鶏の脂肪	0.02
その他の家きんの脂肪	0.02
鶏の肝臓	0.1
その他の家きんの肝臓	0.1
鶏の腎臓	0.1
その他の家きんの腎臓	0.1
鶏の食用部分	0.1
その他の家きんの食用部分	0.1
鶏の卵	0.02
その他の家きんの卵	0.02
小麦粉(全粉粒を除く。)	0.03
小麦ふすま	0.3
とうがらし(乾燥させたもの)	10

(注12)「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず、すもも、うめ、おうとう、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイ、パパイヤ、アボカド、パイナップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。

(注13)「その他のオイルシード」とは、オイルシードのうち、ひまわりの種子、ごまの種子、べにばなの種子、綿実、なたね及びスパイス以外のものをいう。

(注14)「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。

(注15)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

(注16)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

(注17)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

(注18)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。